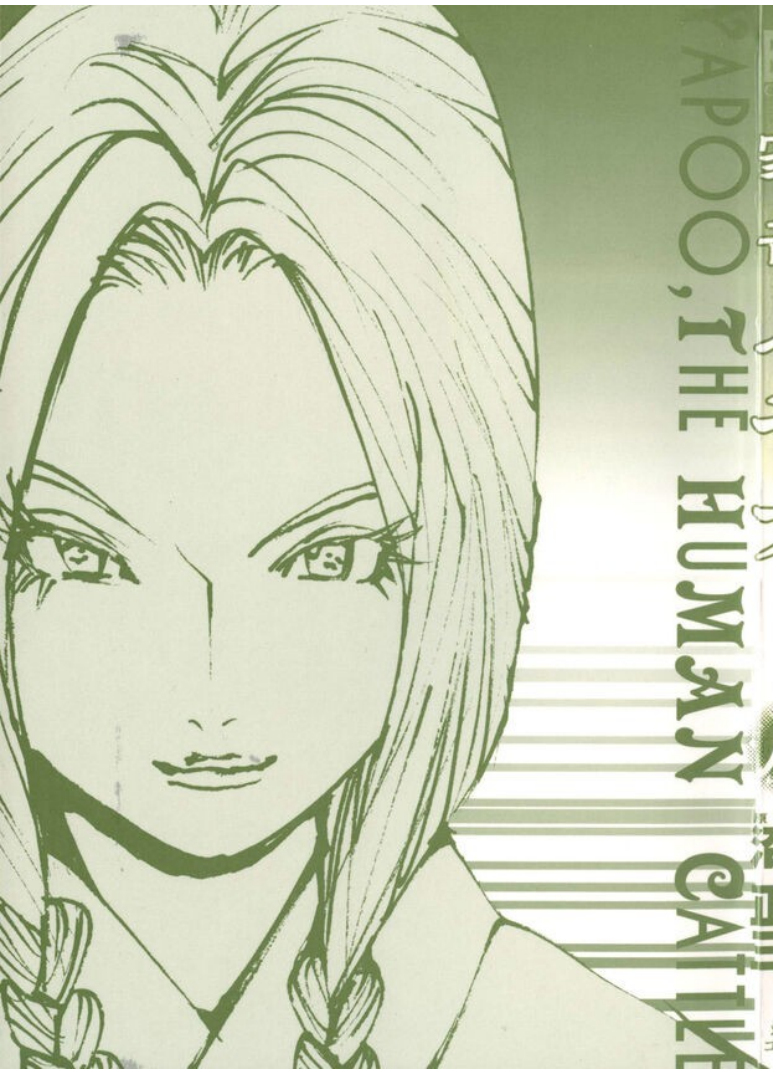
ISBN4-344-80782-0
C9979 ¥590E
9784344807822
1929979005900
雑誌 54245-05
定価：本体590円＋税
発行＝幻冬舎コミックス
発売＝幻冬舎



BIRZ COMICS

家畜人ヤプー 八

Egawa Tatsuya × Nuno Shozo

YAPOO, THE HUMAN CATTLE

原作 江川達也
作画 沼正三

発行
幻冬舎
コミックス

YAP

ヴアス・ヴイルド・アオス・イーム

彼は何になるだろうか？

戦後最大の奇書 第8巻
家畜の去勢に、
慈悲も麻酔もいらぬ。
作画 江川達也 原作 沼正三
原作作画 沼正三 江川達也
発行 幻冬舎コミックス
もう、家畜として生きる以外に
道はないのか。
20世紀の地球から、未来帝国イースへやって来たクラウと麟一郎。愛し合う二人の関係は、その道中に「貴族と家畜」へと大きく変化を遂げ、イース文明に慰かれてゆくクラウ、家畜となりながらクラウを信じて待つ麟一郎。そして遂に再会を果たした二人の運命を左右する、決定的な事件が起こる——。
月刊コミックバーズは毎月30日発売!!

家畜人ヤプー

かちくじん

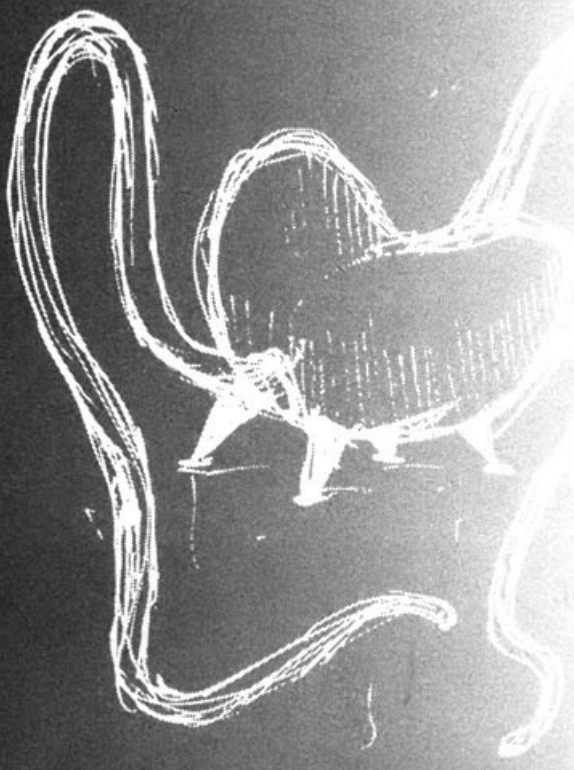
YAPOO, THE HUMAN CATTLE

Egawa Tatsuya × Numa Shozo

幻冬舎アウトロー文庫「家畜人ヤプー」より

八

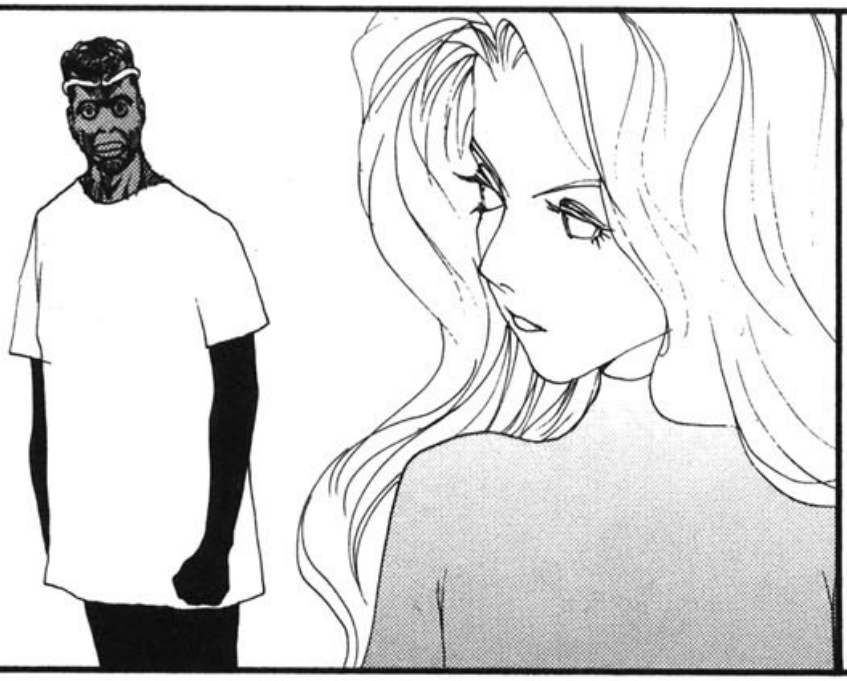
作画 江川達也
原作 沼正三



YAPOO,THE HUMAN CATTLE 8 CONTENTS

第十三章 美女と野獣
第二話 5
第三話 23
第四話 59
第十四章 二つの手術
第一話 97
第二話 133

ポーリーンは
従者に
目配せして



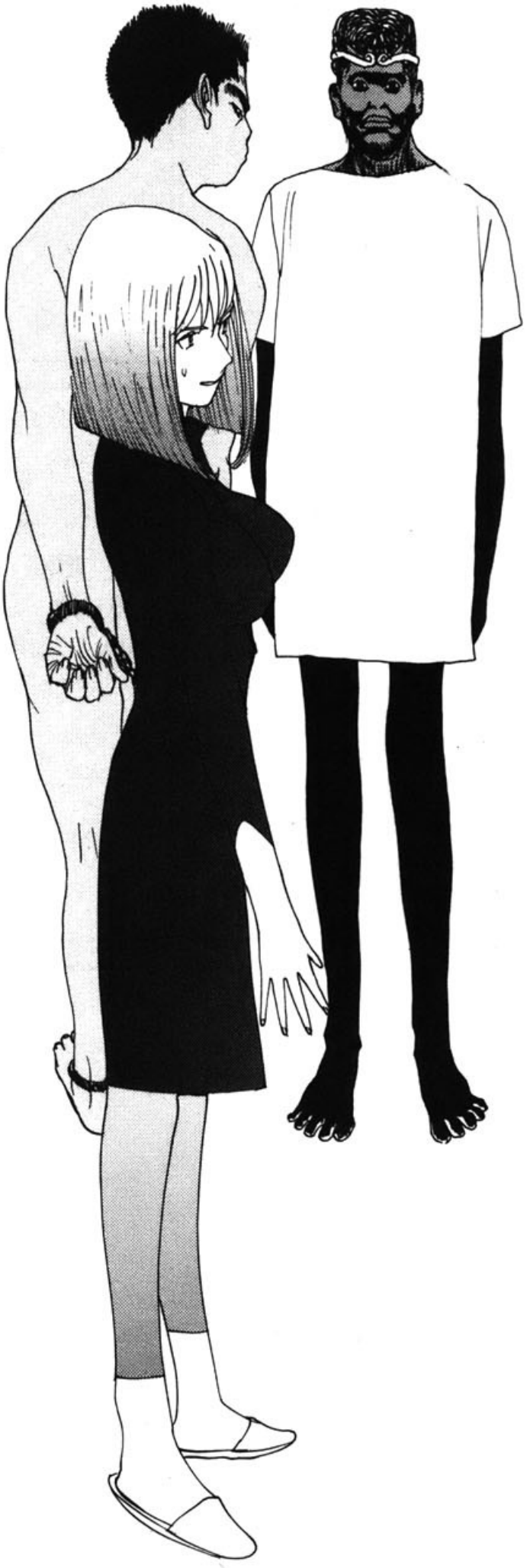
鎖の端を

クララの方に
差し出させ

自分も鍵(かぎ)を
渡しながらいった

第十三章　美女と野獣　―第二話―

仕方ないから
鎖を掛けて
来たの

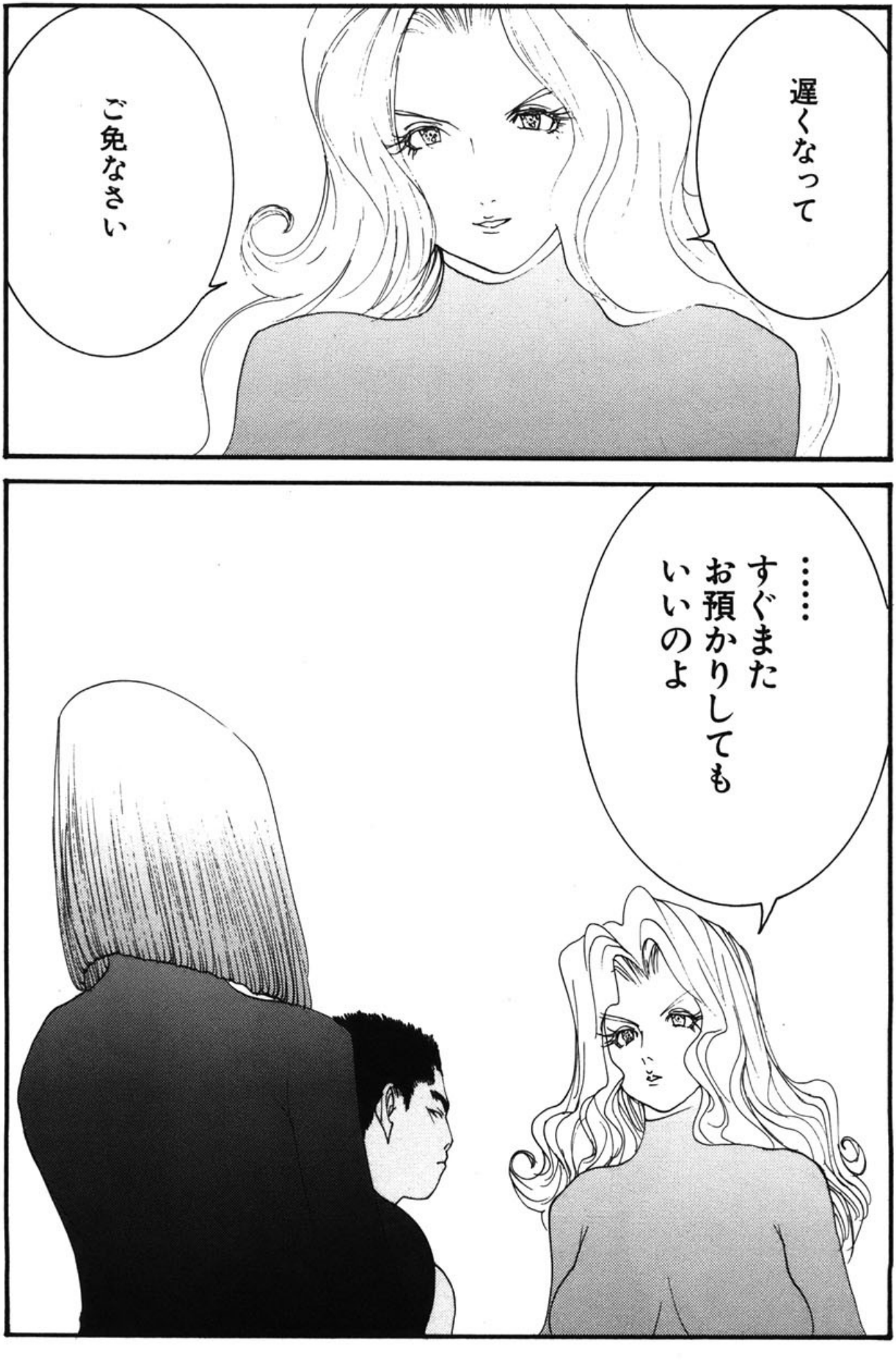


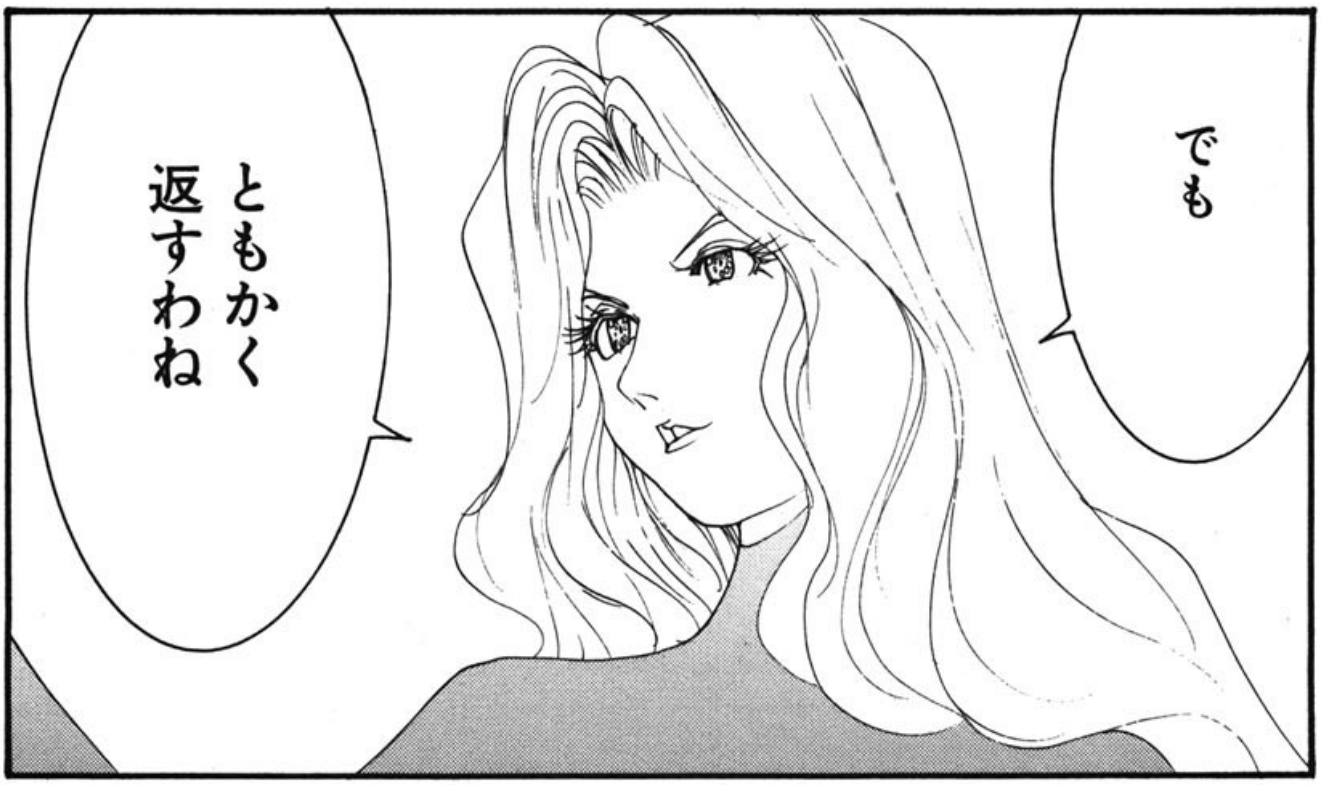
檻に入れてから
連絡しようか
とも思ったけど

緩解して返す
って約束
だったから

いちおう
貴方の手に

と思ってね


遅くなって
ご免なさい
……
すぐまた
お預かりしても
いいのよ


でも
ともかく
返すわね

確かに
ありがとう

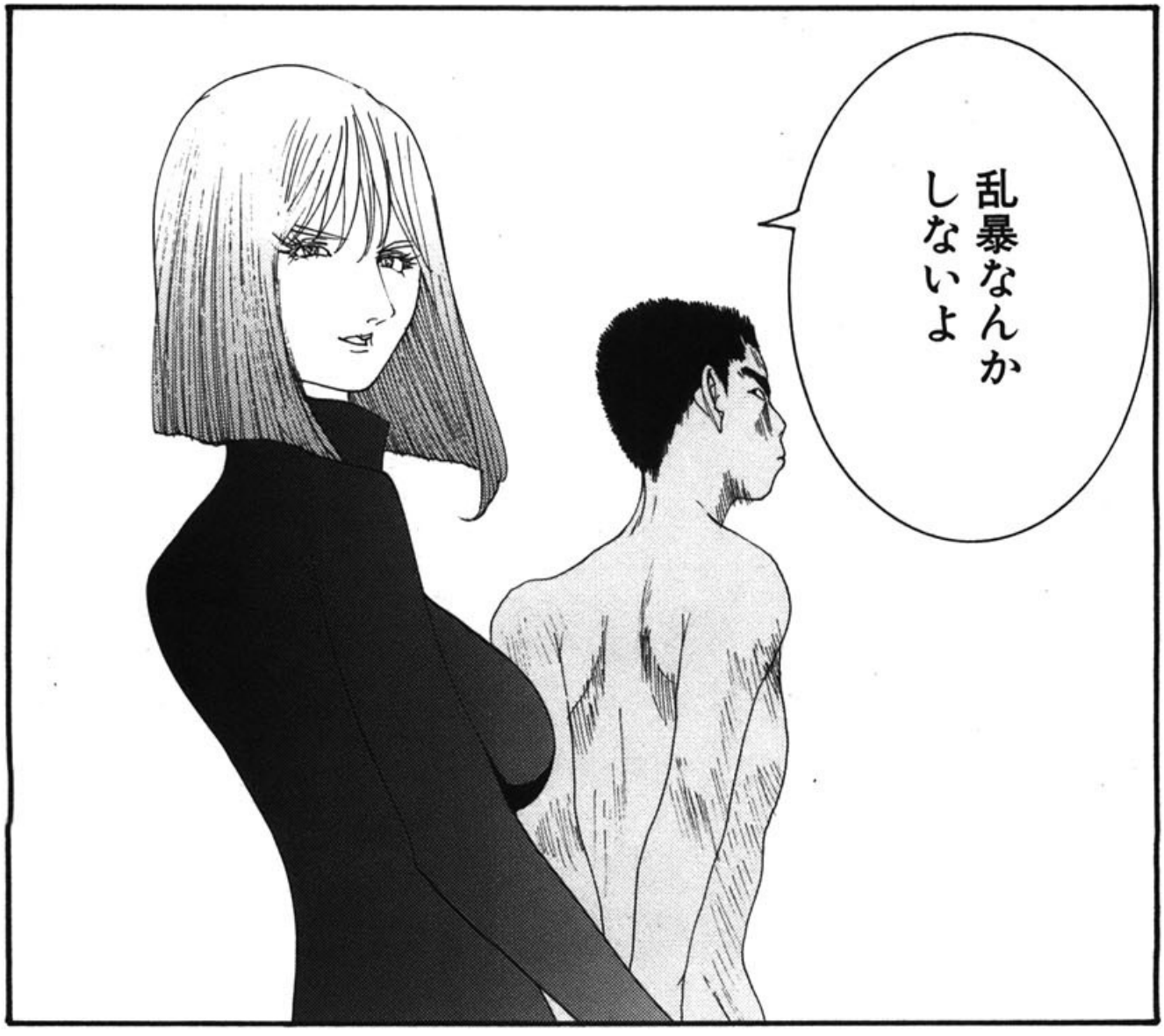
鎖を
放し
垂らして

手錠の
鍵を
クララが
あけようと
すると

そばから
ウィリアムが
あわてて

口をはさんだ

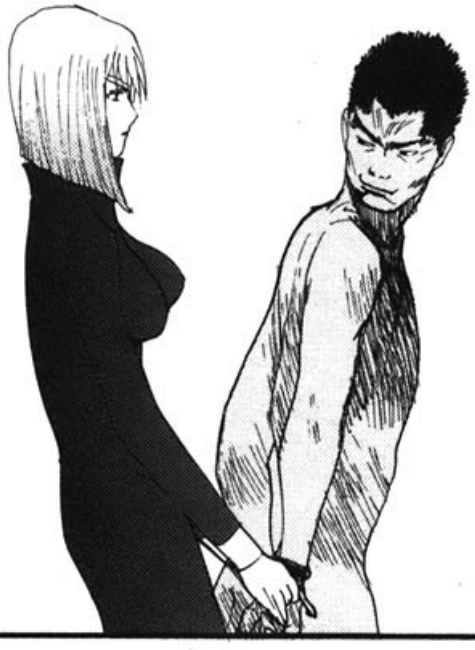
クララ
あぶないですよ
そんな
乱暴なヤプーを
……


乱暴なんか
しないよ

麟一郎は
怒りを
いじらしいまでの
努力で
抑えながら

それでも
精一杯の抗議を
こめていった

クララとの間の
言葉であった

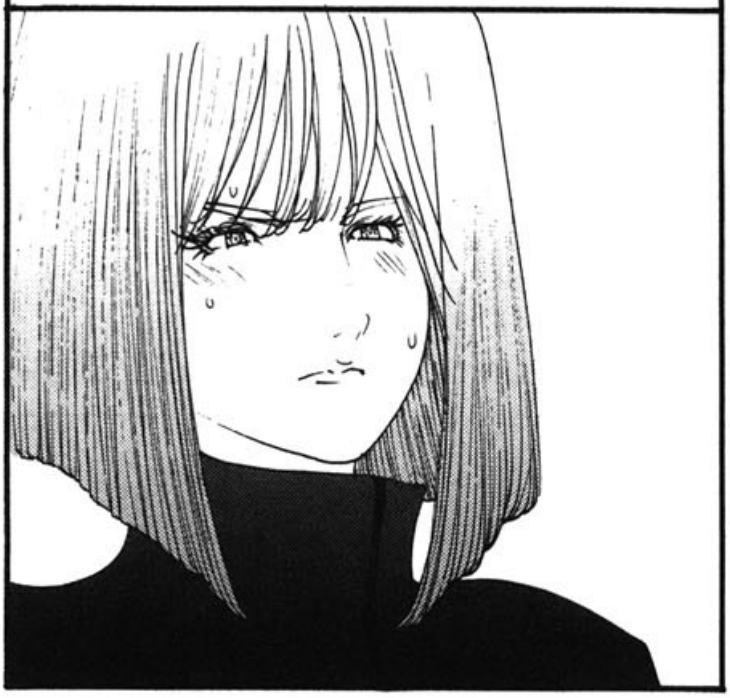


ドイツ語で
……

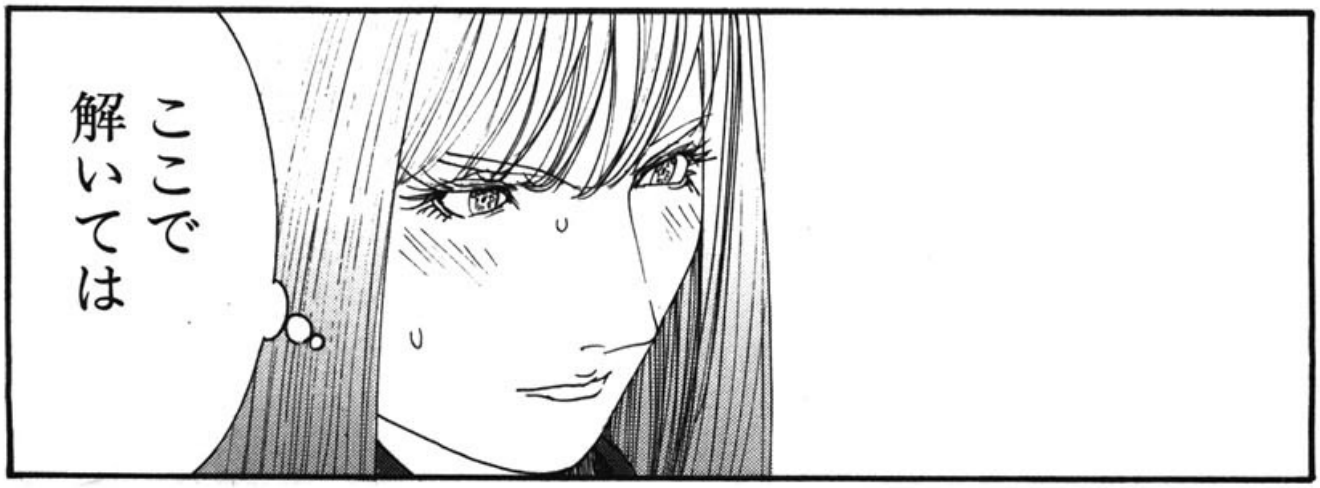
着物をくれといったら
皆でひどい目にあわせるからそれで抵抗したんだ
ひどい奴(やつ)らばかりだよ……

ほとんど
哀願する
ような目で
恋人の顔を
仰ぎ見た

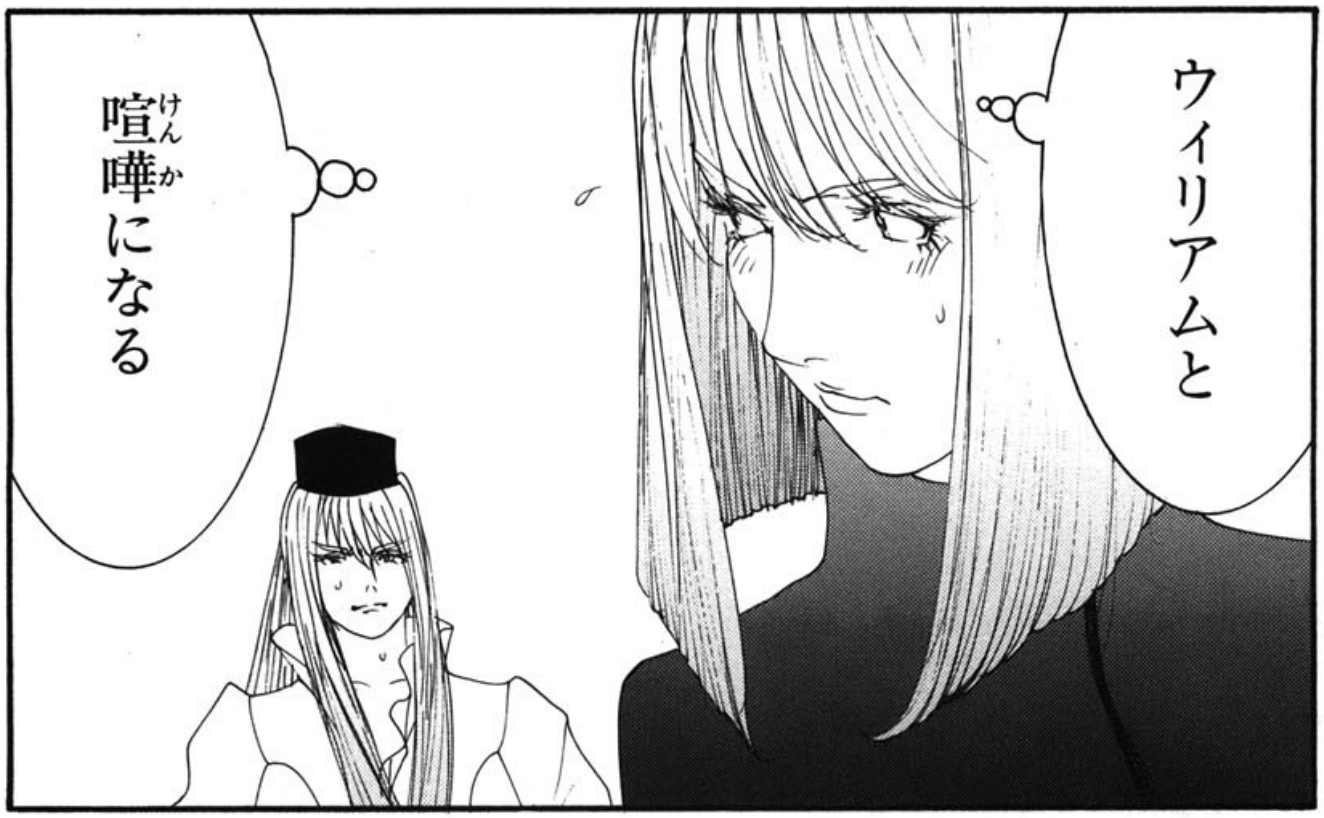
クララは
すぐにも
鎖を解いて
やりたい
気持で
あった

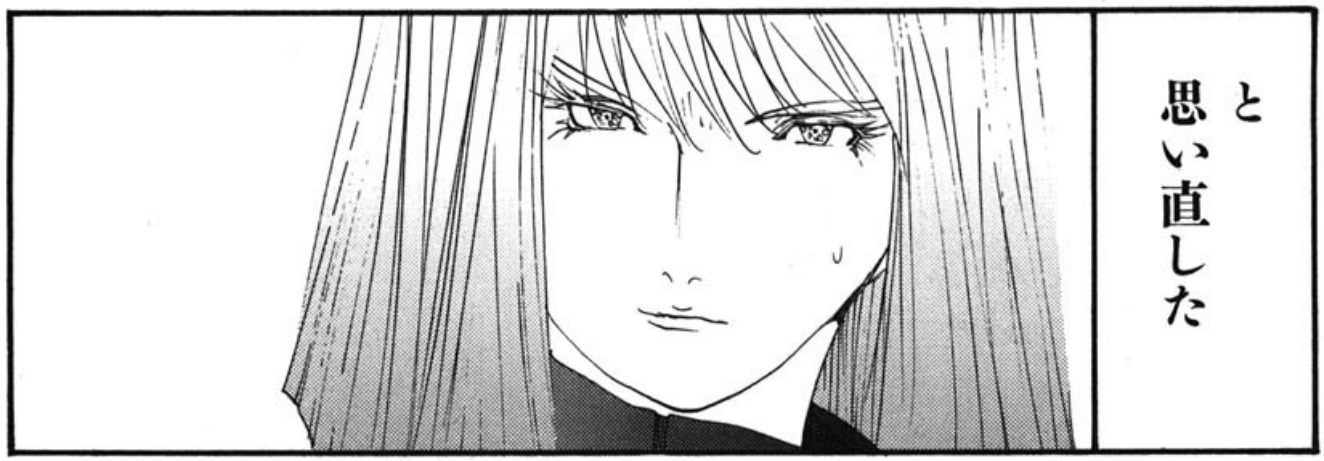


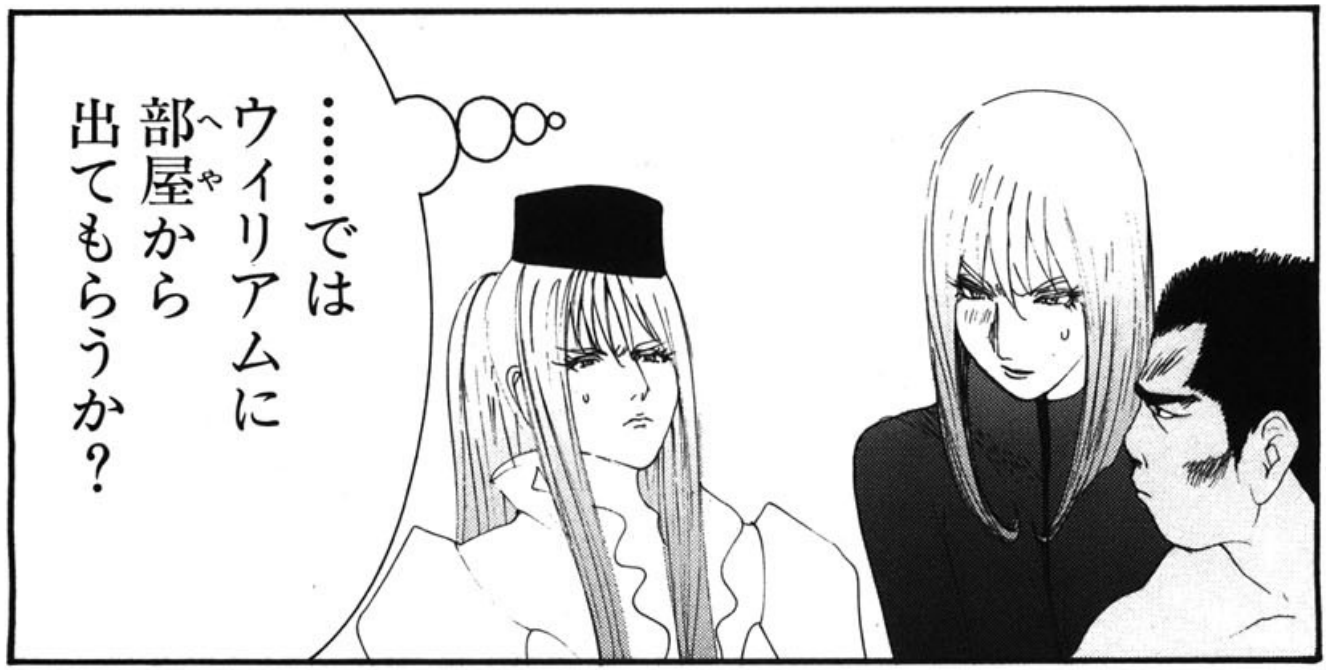
が

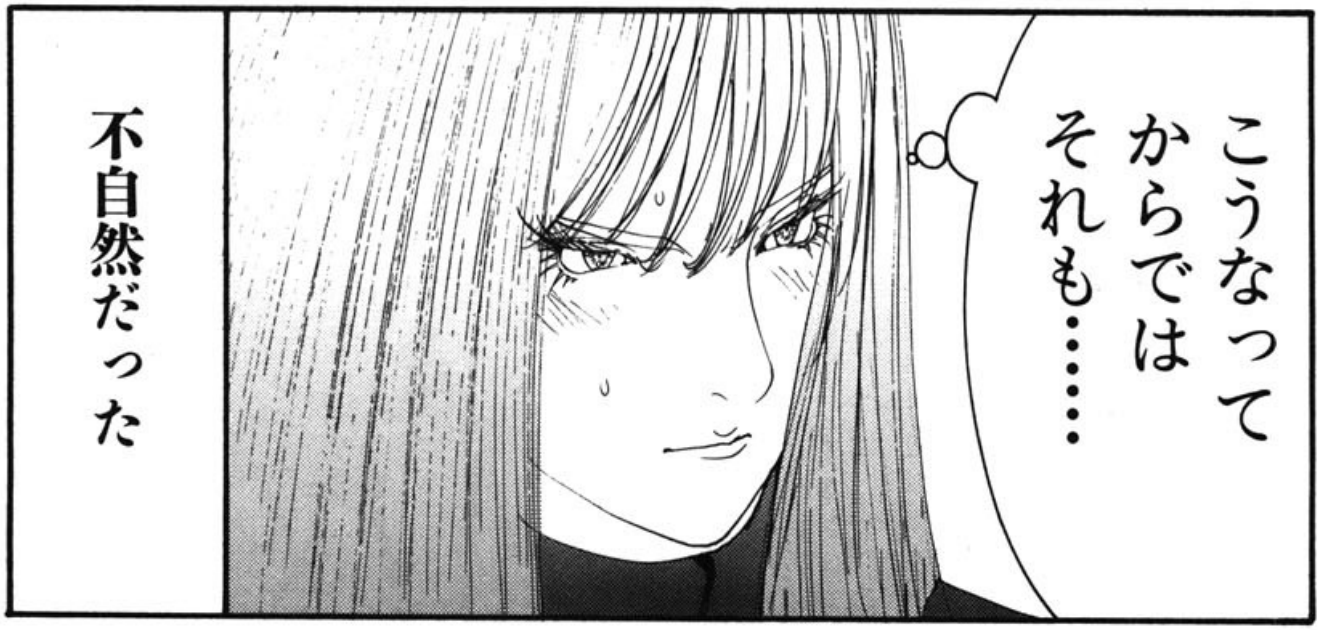


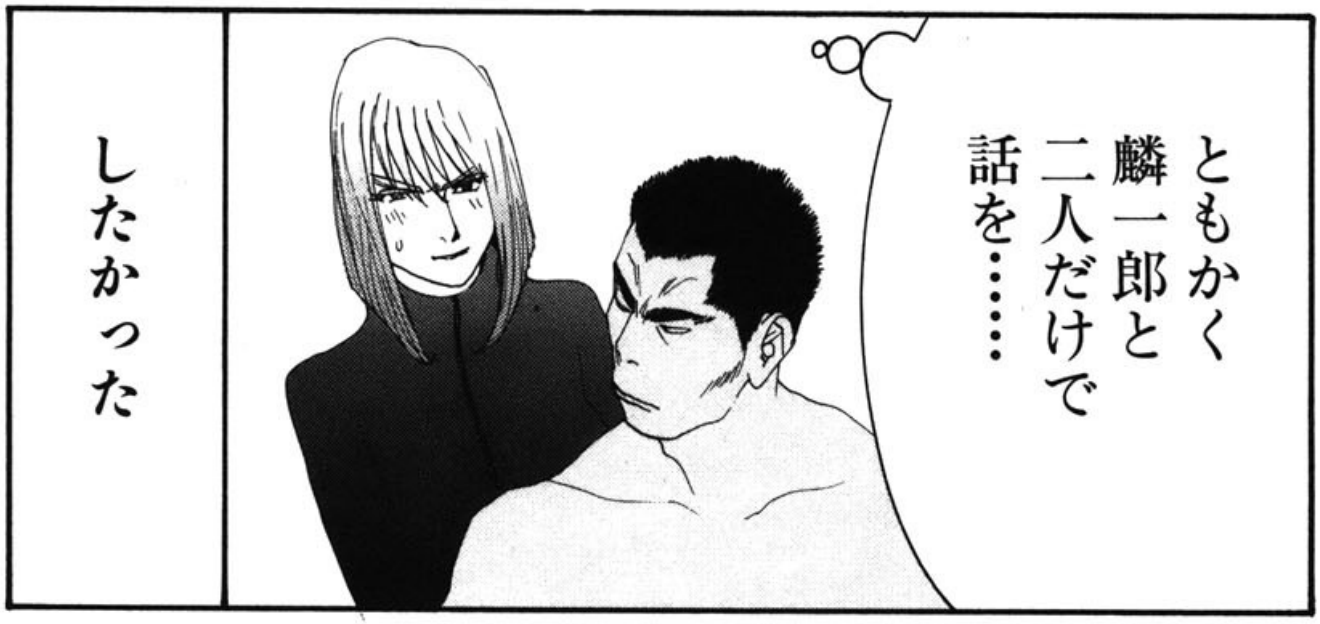
ここで
解いては

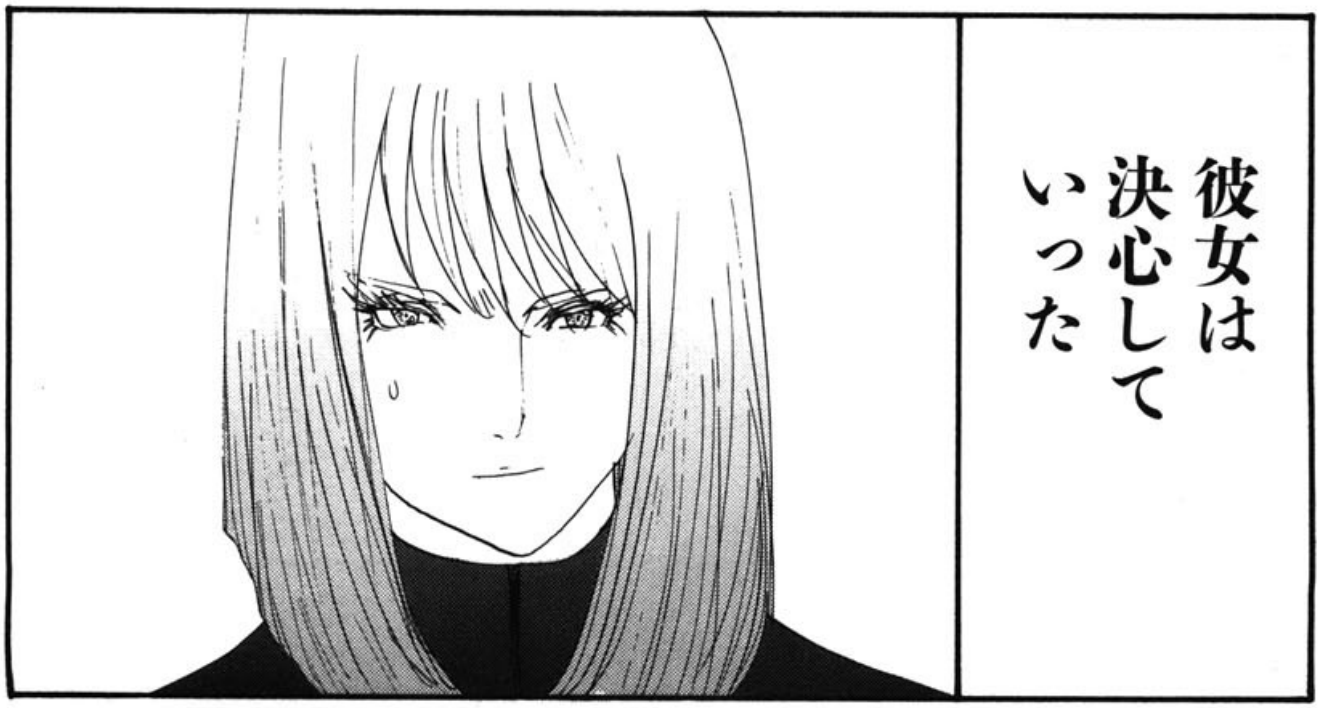

ウィリアムと
喧嘩になる


と
思い直した


……では
ウィリアムに
部屋から
出てもらうか？


こうなってからではそれも……
不自然だった

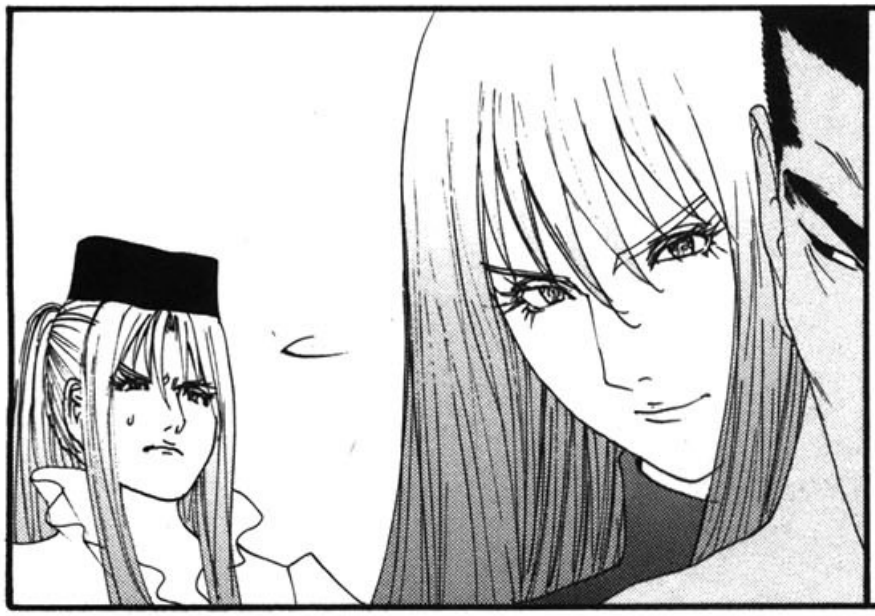

ともかく麟一郎と二人だけで話を……
したかった

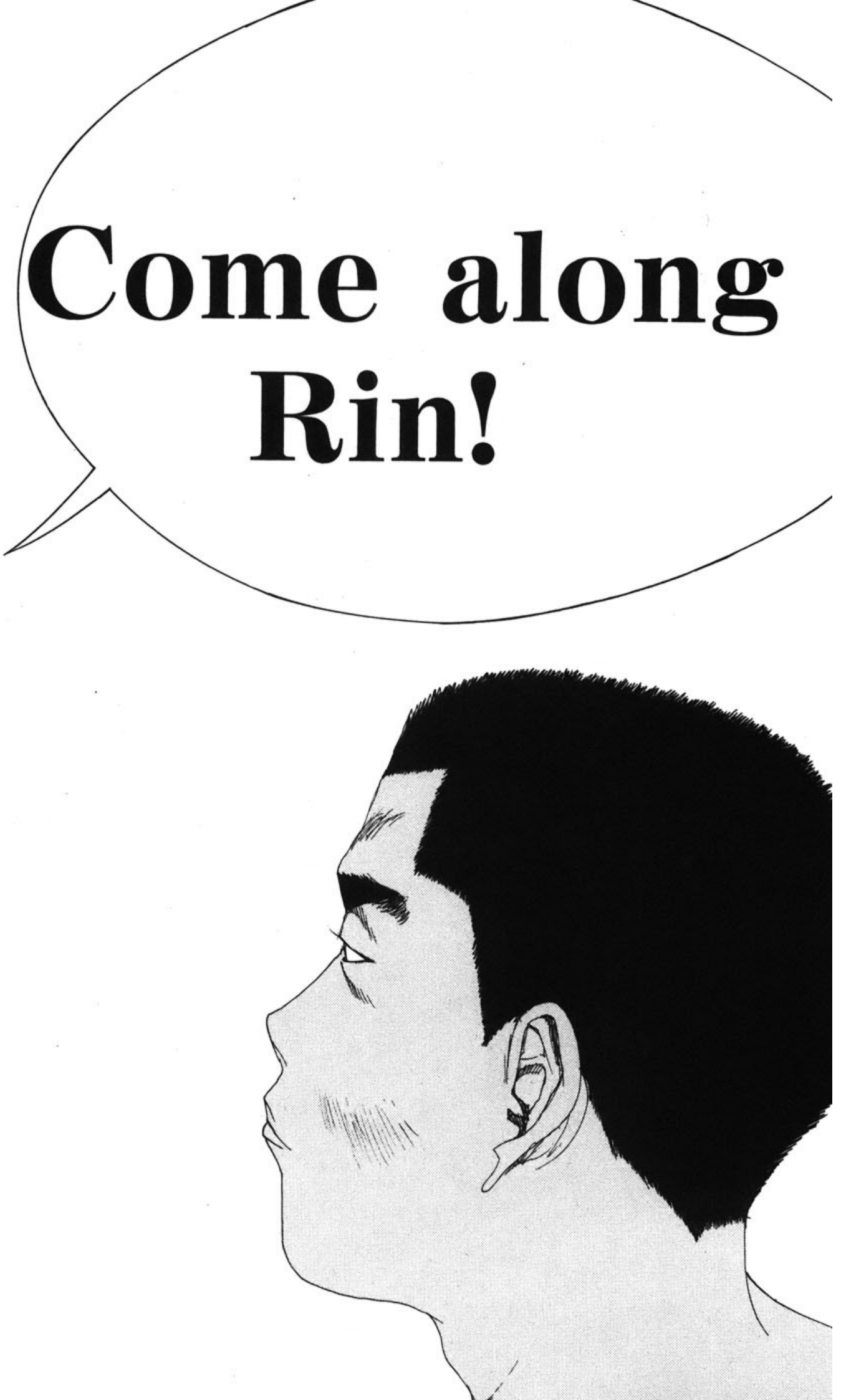

彼女は決心していった

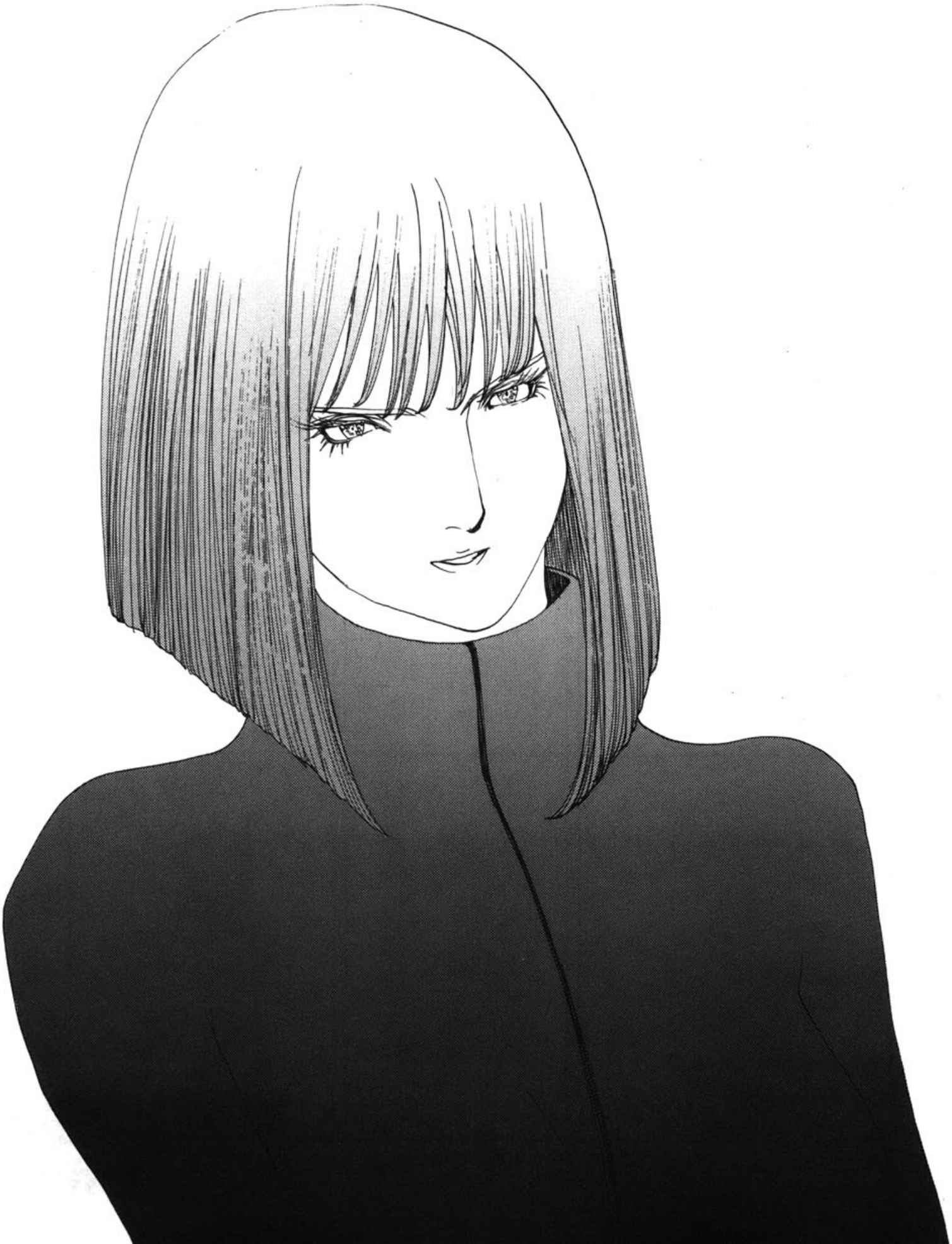
隣室(となり)で
彼と話し合って
みたいの

お待ち下さるなり
お引き取りいただくなり
どちらでも……

そして
麟一郎を
顧みては
わざと英語で
命令した




Come along
Rin!

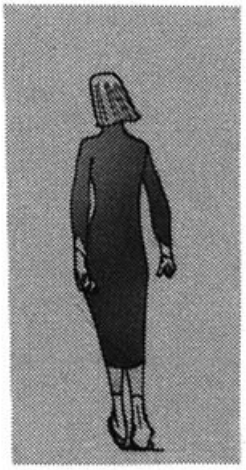


「こっちへいらっしゃい
麟(リン)！」

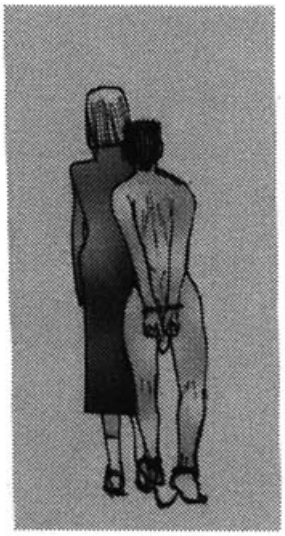
あるいは
「ついておいでリン」と
訳したほうが
この場合クララの意図した
語感により近いかもしれない

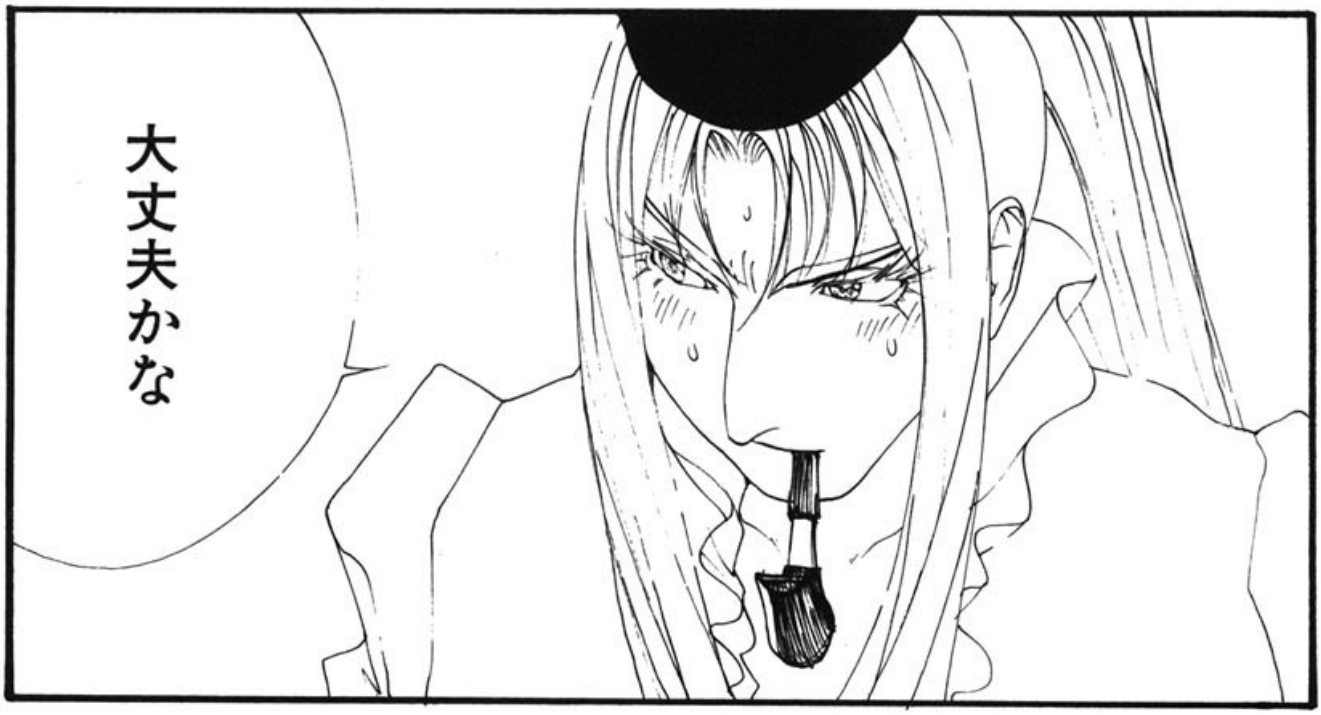
自動椅子(オート・チェア)を
使うのも忘れて

隣室に
消えた
クララの背後に

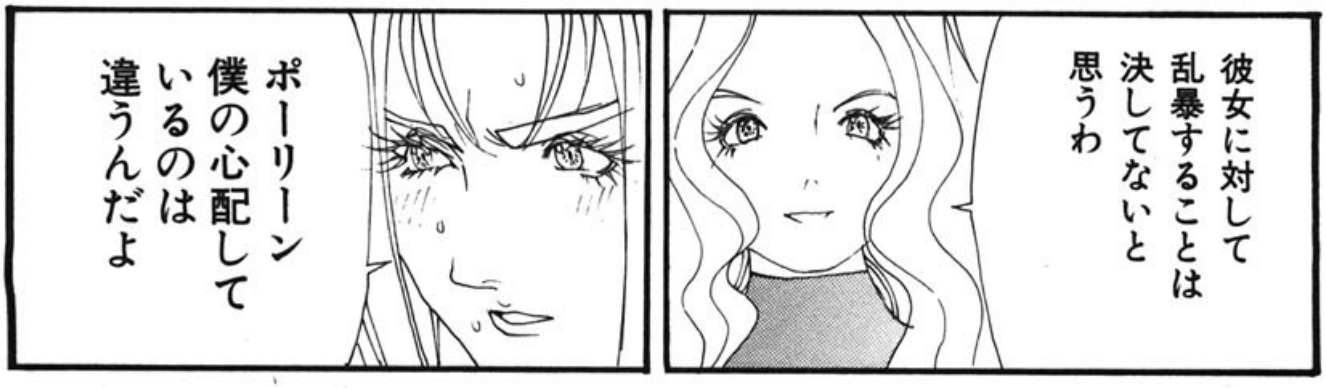


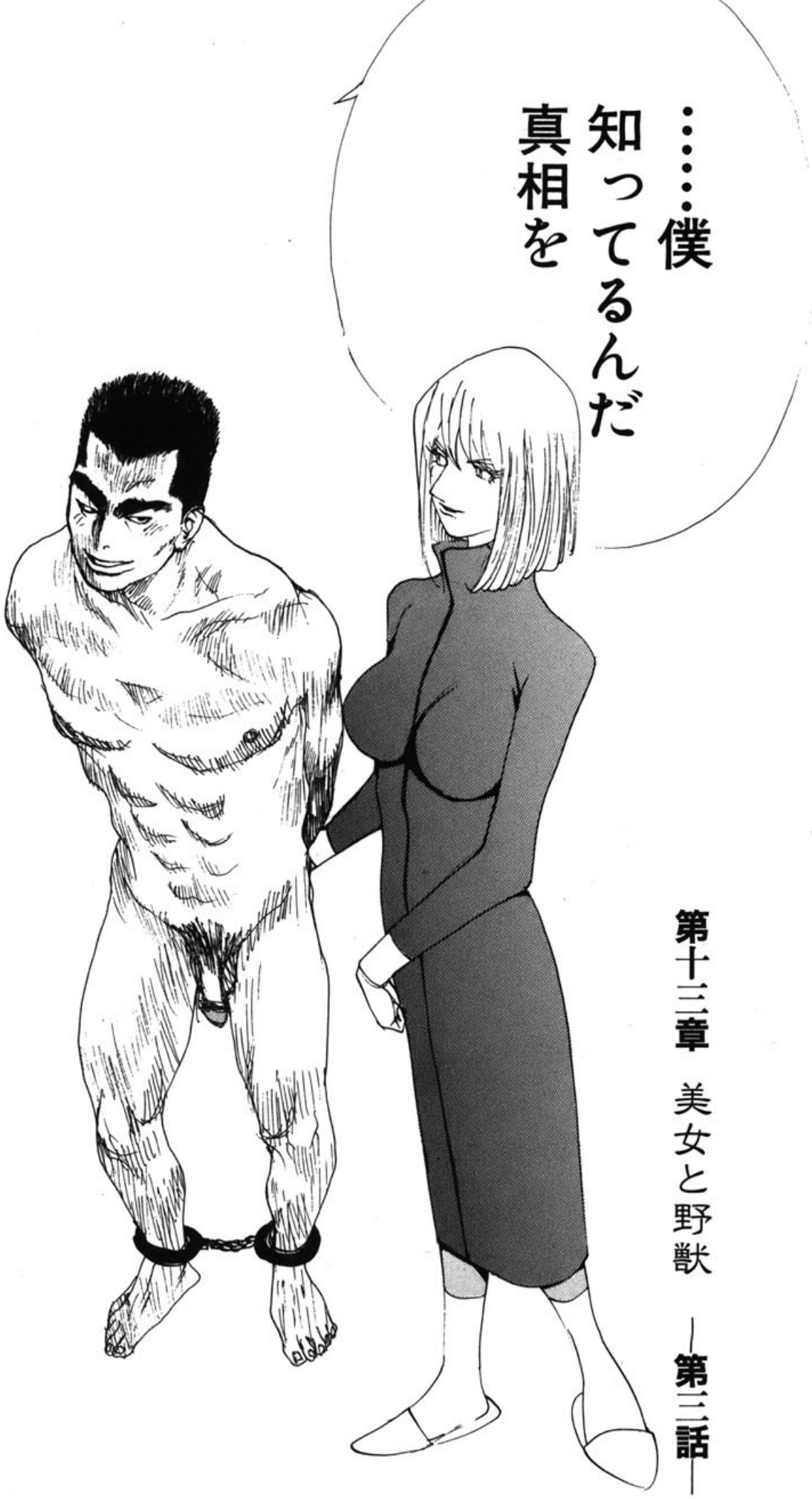
後ろ手錠から
引鎖をぶら下げ
足錠に
歩き悩みながら
麟一郎が続いた




大丈夫かな

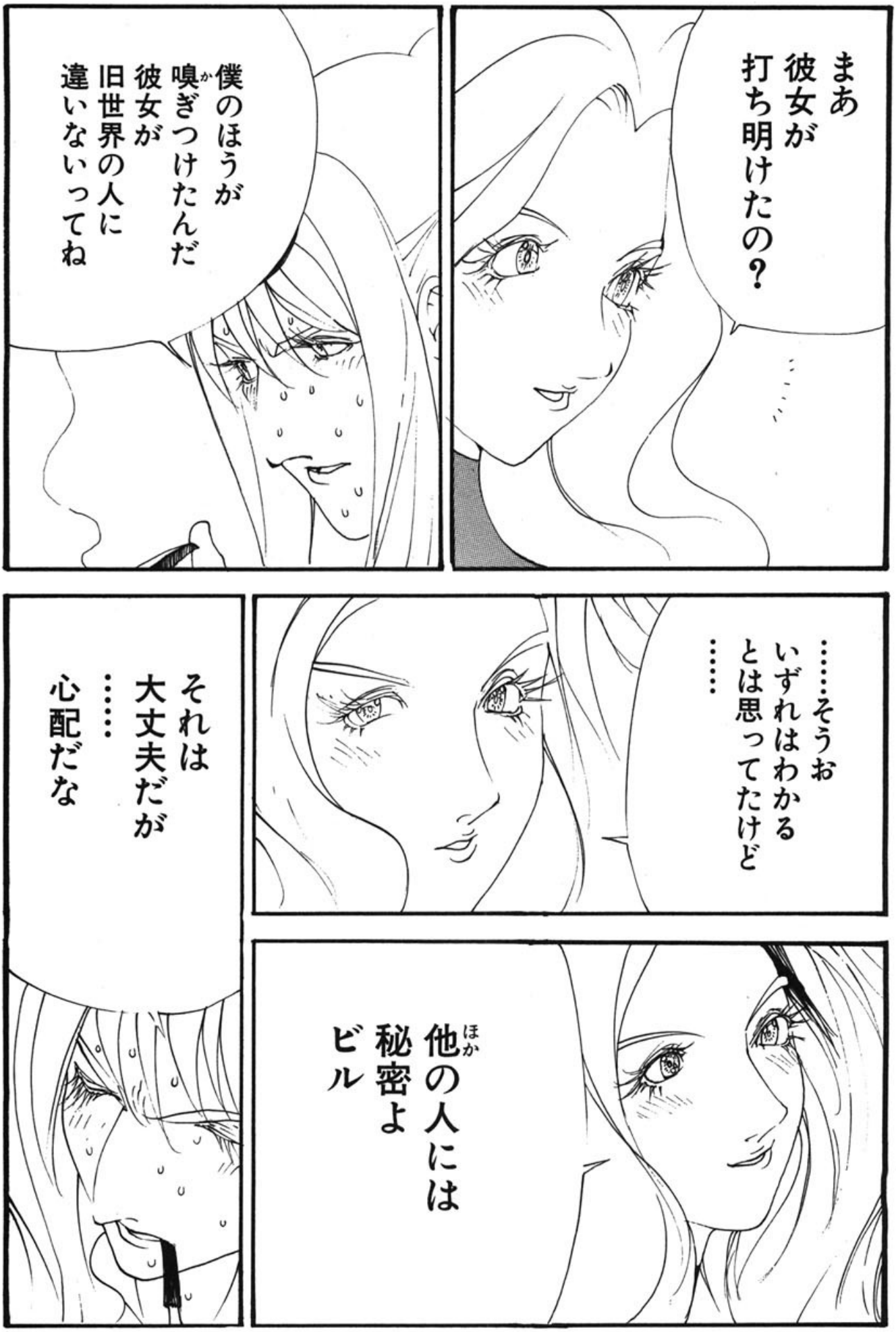
従者に
用意させた
パイプをくわえた
美青年は
手真似(てまね)で
彼らを
追い出しながら
つぶやいた
うん
奴(あれ)はもともとは
よく馴(な)れてたから


彼女に対して
乱暴することは
決してないと
思うわ
ポーリーン
僕の心配して
いるのは
違うんだよ



第十三章　美女と野獣　―第三話―

あのヤプーは
馴れてた
どころか
彼女の婚約者
なんだね


まあ
彼女が
打ち明けたの？
僕のほうが
嗅ぎつけたんだ
彼女が
旧世界の人に
違いないってね
……そうお
いずれはわかる
とは思ってたけど
……
他の人には
秘密よ
ビル
それは
大丈夫だが
……
心配だな

何が……？

寝室に
はいって
……

ポーリーンは
高笑いした

オホホホ…

ばかな
いくら何でも

……
彼女に対して
失礼だわ

でも初め
手錠を
はずそうと
してただろ？

考えても
ごらんなさい
そんな気があれば
人の前で
寝室にはいれて？

そりゃ
円盤（ヨット）の中では
本気に婚約者（フィアンセ）扱い
してるよう
だったわ

でも
今はもう
違うはずよ

だからこそ
平気で寝室に
連れ込めたのよ

古代語を
聞かれたく
なかったからじゃ
ないかしら

そういわれれば
そうかな

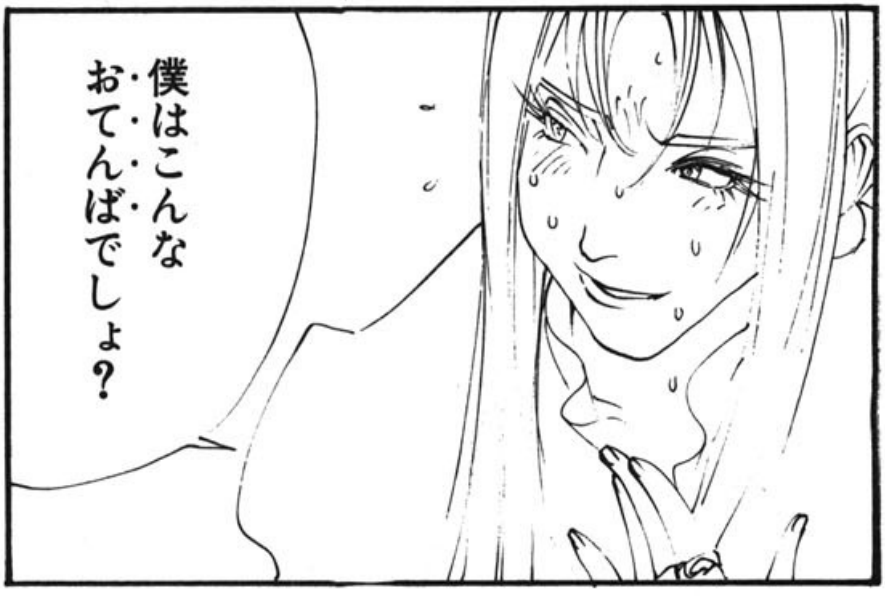
第一
奴(あれ)はもう
強化皮膚に
なってるから
ベッドには
はいれっこないわ

そうだね
どうやら
安心した
……

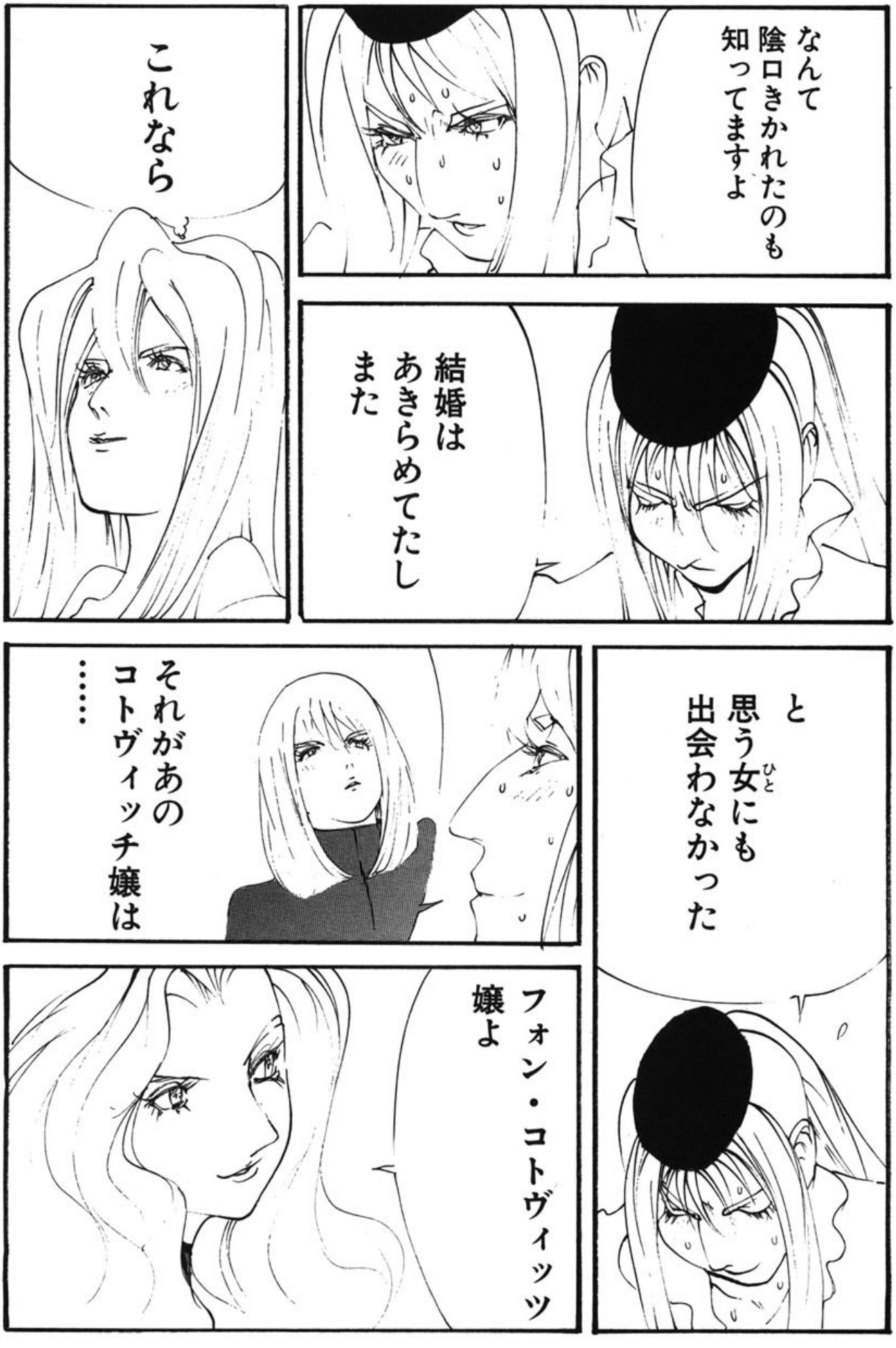
ひどく
気にするのね
だって……
ビル　貴方(あなた)
彼女(あのひと)が
好きなのね

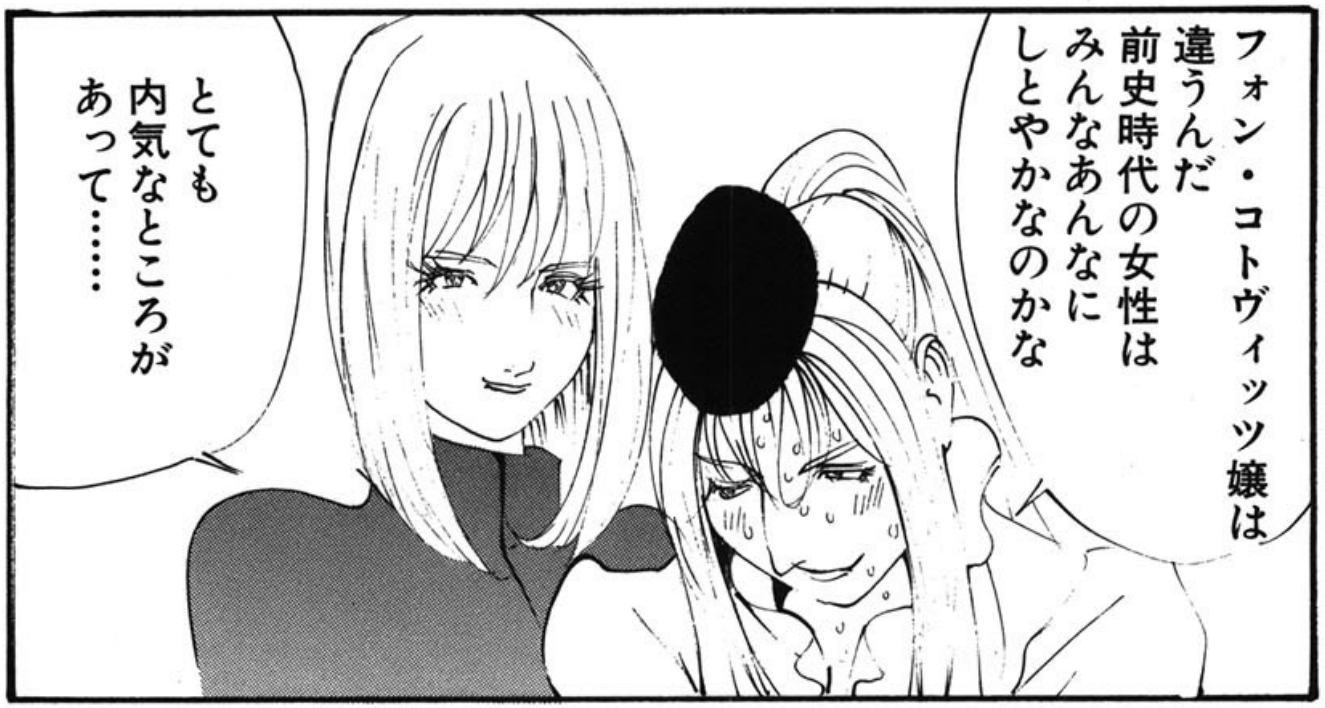
好きだ
一目見たときから
……
ニルキ
ニルキ
ニルキ
ニルキ

青年は
急に雄弁に
なった


僕はこんな
おてんばでしょ？

あれじゃ
結婚しても
良い夫には
なれまい


なんて
陰口きかれたのも
知ってますよ
結婚は
あきらめてたし
また
これなら
と
思う女にも
出会わなかった
フォン・コトヴィッツ
嬢よ
それがあの
コトヴィッチ嬢は
……


フォン・コトヴィッツ嬢は
違うんだ
前史時代の女性は
みんなあんなに
しとやかなのかな
とても
内気なところが
あって……

そうなんだ
さっきも
僕に会ってから
あのヤプーに対する
気持が変ったって
いったけど

そう
妾(あたし)たちより
遠慮深いわね
男みたい

きっと
遠まわしに
僕が嫌(きら)いじゃない
ってことを表現
したんだと思う

普通の女性の
ズバリとした
求婚とは違うよ

おてんばの
貴方には……

……似合いの
妻(おっと)だろうと
思うのさ

なるほど
貴方が
彼女に惹(ひ)かれた
気持もわかるけど

ポーリーンは
考えぶかそうに
いった

クララは
いつまでも
そんなままかしら？

ほんとうは
女のほうが
強いんだと
わかったときにも
変らないかしら？

彼女は
まだ何も
知らないんだから
……

変らないと思うよ

ウィリアムは
目を輝かせた

前史時代人
だもの

でも
ヤプーが
どんなものかを
ちょっと
知っただけでも

もう彼女の
あの旧ヤプーに
対する気持は
変ったのよ

男が
どんなものか

貴方に
対する気持も
変らない
とは
いえないわ

それを
知ったときに
ビル

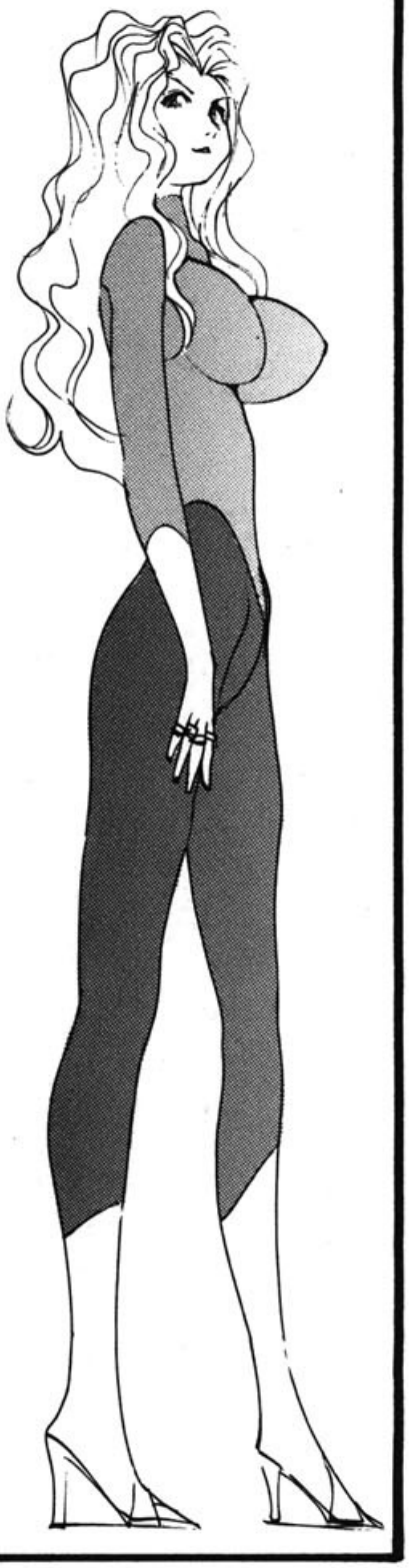
とにかく
彼女はまだ
妾(あたし)たちの世界の
ことは何にも
知らないんだから
……

そうかな……

あまり
歓迎もできないことを
ズケズケいわれて

ウィリアムは
黙って考え込んで
しまった

ポーリーンは
立ち上りながら
いった



ま
貴方はここで
待ってたほうが
よさそうね

じき
出て来る
だろうから

それから
あのヤプーを
どうするか
相談にのって
あげるといいわ

……妾(あたし)
打合せが
残ってるの

明日(あす)
『タカラマハン』に
前地球都督(エキスガバナ・オブ・ジ・アース)を
訪問する予定よ

ちょっとそっちを
済ませてくる
それからヤプーを
受け取るわ

前都督(エキスガバナ)って
あの探検家の
アンナ・テラスの
こと？

そう
彼女にヤプムの
鑑別法(めきき)を
教えてもらうことに
なってるのよ

なんだ
ポーリー
今度の休暇旅行は
ヤプム買いが
狙(ねら)いだったのか

そうなのよ
なにも人に
宣伝することも
ないし

新築別荘の
検分のため
ということに
してあるけど
実はそうなのよ

ソフィアのときは
いちばん高価い
地球ものを
買ったんだけど

あまり
いい品じゃ
なくてね

妊娠七月目に
病気されて……

そうだったね
だから
今度は直接
富士山降臨(フジヤマ・デイセンディング)して
選(え)ろうと思うの
アンナが
案内して
くれるのよ
僕も
会ってみたいなァ
あの女性(ひと)には
♪
♡
一昨年出した
『妾(あたし)たち姉妹は
神話となった』
という本
おもしろかったね
彼女の妹は……

スザンのこと
知りたきゃ
明日行って
アンナから
お聞きなさい

心配を
まぎらそうと
してか

じゃ……

ウィリアムは
もっとその話を
したそうだったが

ウィリアムは
所在なさそうに

スタ
スタ
スタ

気の急いてる
ポーリーンは
早々に
出て行ってしまった

肉痰壺（スピツーン）の頭を
パイプでポカリと
たたいたり

ポカリ

肉足台（スツール）の顔を
蹴（け）りつけたり
していたが

バキッ!!

寝室の扉（とびら）が
なかなか
開かないのに
焦慮して
不安に
苛（さいな）まれてきた

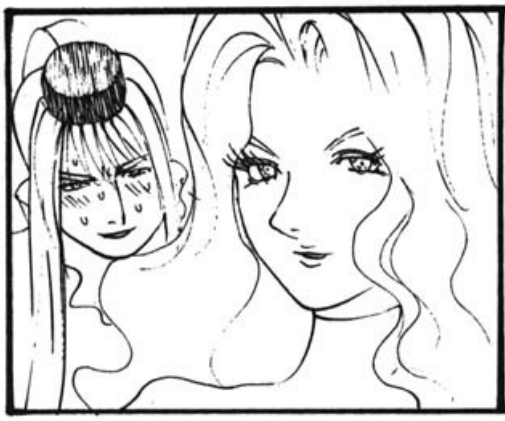
——いったい
いつまで
話してるんだ
おもしろくもない
……

イラ
イラ
イラ

部屋（へや）の外に待つ
従者を呼び入れると
一言命令した。

ソーマ

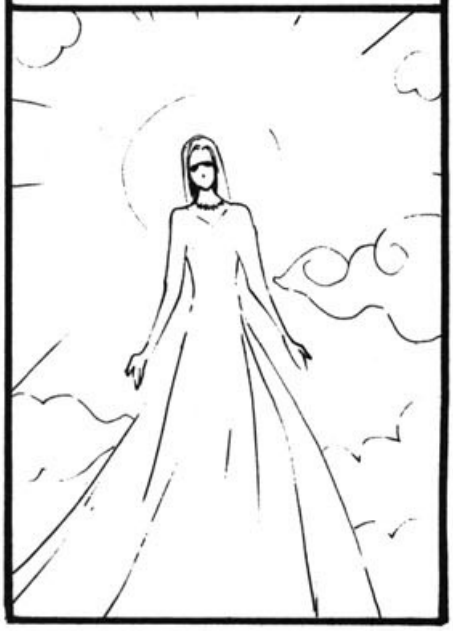
前節の
二人の対話は
解説なしには
理解し難(にく)いだろう
と思われる



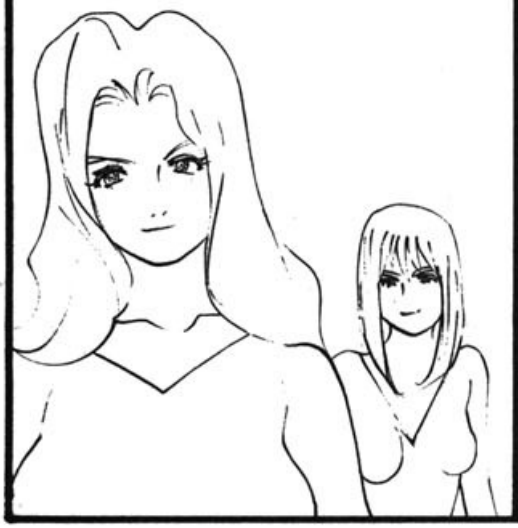
広大な飛行島(ラピュータ)
『高天原(タカラマハン)』や

しかし

その主(あるじ)なる
アンナ・テラス
については



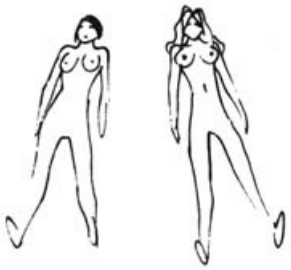
明日
クララがポーリーンと
行を共にするときまで



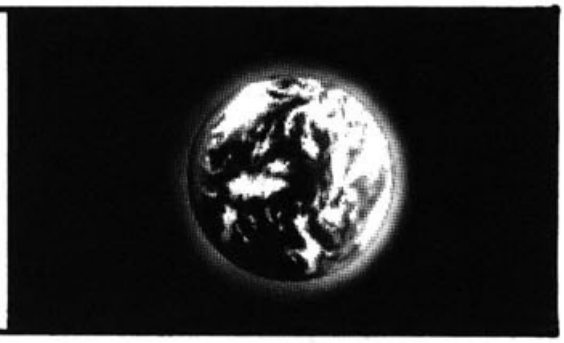
好奇心を
抑えておいて
いただくように
読者にお願いし

ここで
ヤプムに
ついての
説明を
するだけに
とどめよう

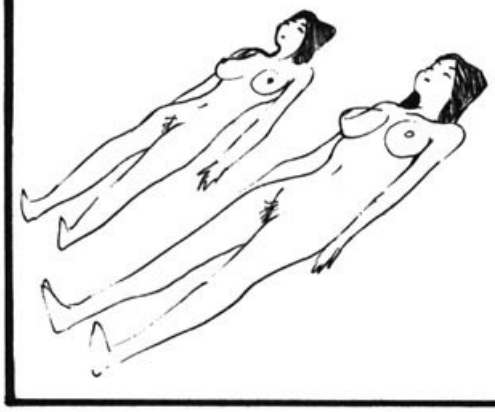
だが
その前に
「敦公手術（クック・オペレーション）法」
について
一言するのが
順序のようだ



地球紀元で
換算すると
二三世紀中葉の
ことだが

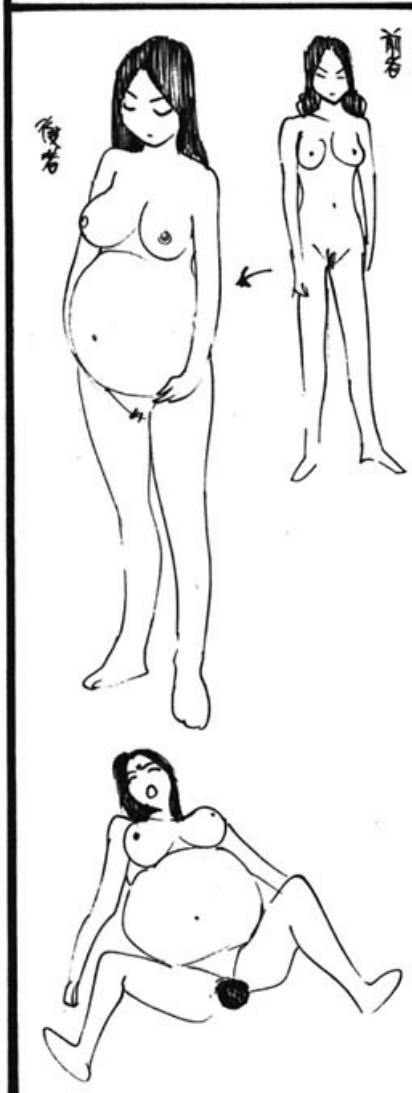


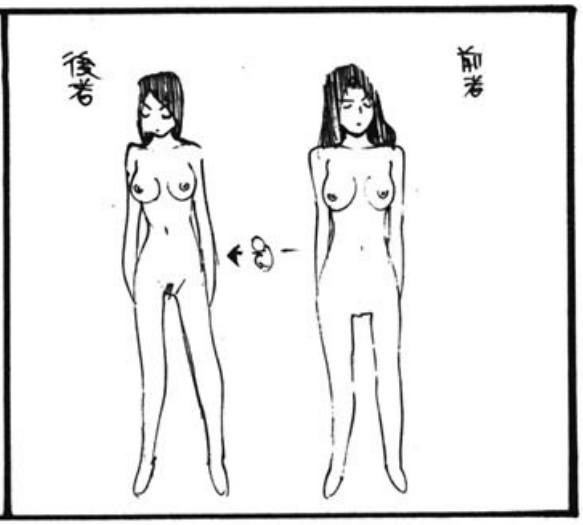
ある畜人飼育所（ヤプーナリー）で
胎盤移植に成功した



妊娠初期の胎児を
雌ヤプーの
子宮から

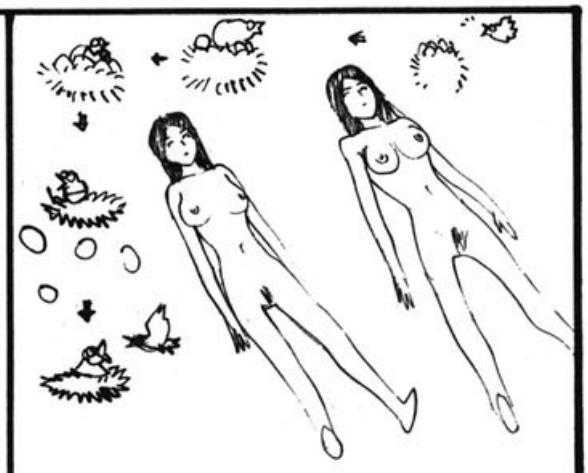
別の雌ヤプーの
子宮に移して
発育出産
させたのである



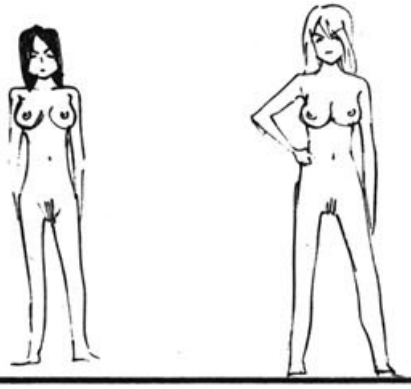


後者は単に
母胎的環境条件として
影響するだけで

生まれて来る仔(こ)は
まったく
前者の遺伝子を
備えているのは
当然のことであった



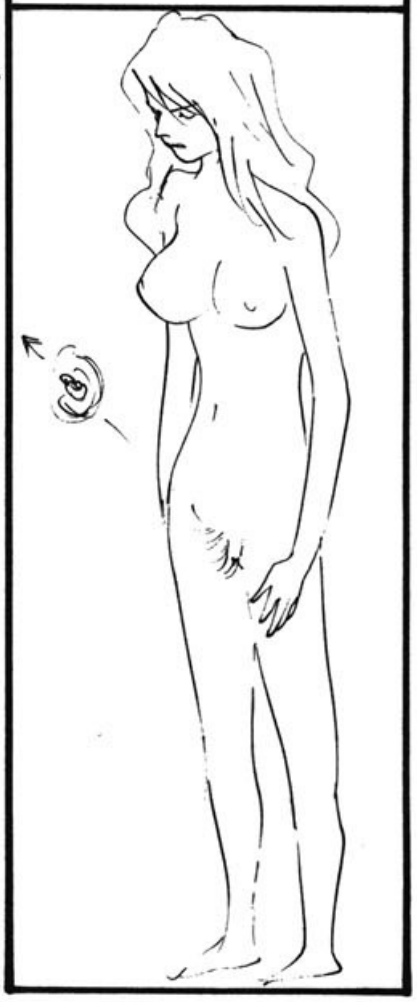
これが
※ほととぎす
敦公手術法の
名を得た所以(ゆえん)である

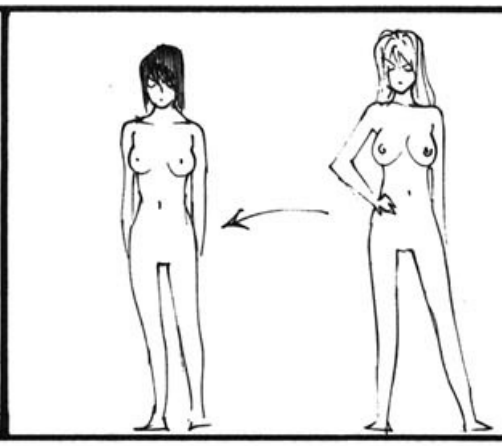


これは
間もなく
人間の女性に
適用されるに
至った

※cuckoo operation

受胎に気づいたら
胎児を
胎盤諸共(もろとも)に
子宮から
取りはずして

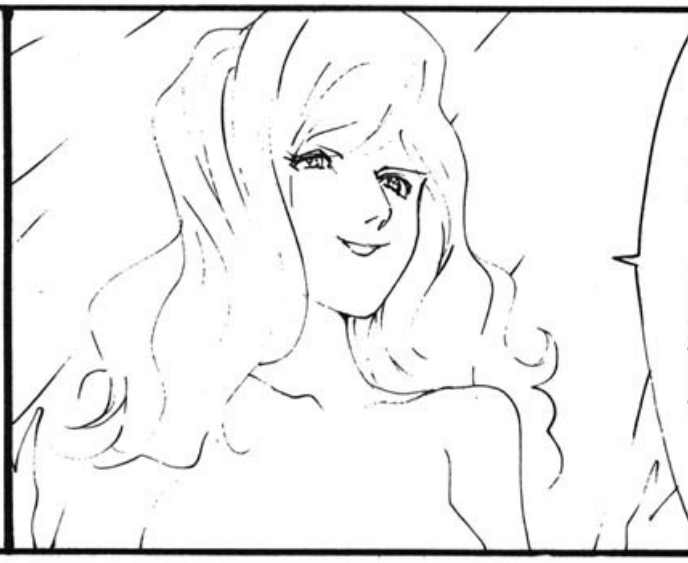




適当な
雌ヤプーの子宮に
植えれば

以後
出産までの
母体の苦労を
味わわずに

自分の子が
得られるのである



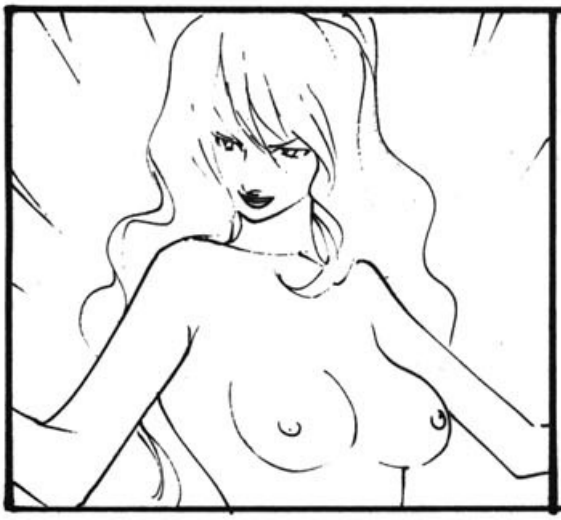
有史以来
最大の
女性の福音

と
喜ばれたのも
無理はない

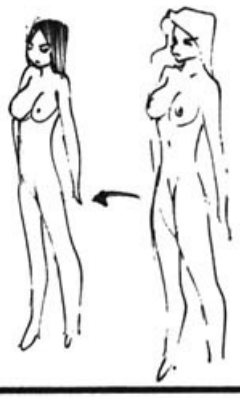
そして事実
二七世紀初頭に起った
女権革命（フェミナル・レボリューション）への
物質的基礎を
形造ったのは

この
手術法のおかげで

女性が
妊娠・出産という
生理的宿命を
払いのけて
しまったこと
だったのである



しかし
発明当初から
比較すると

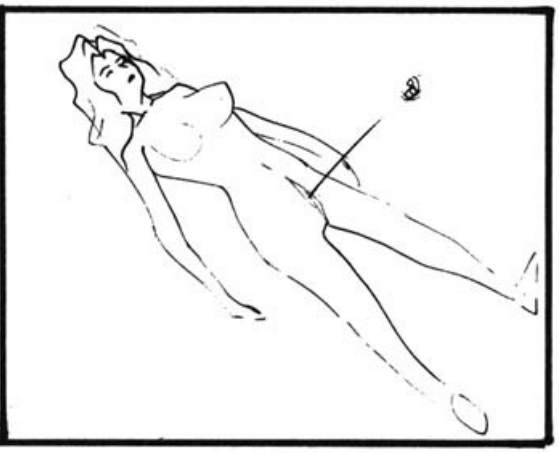


この手術法自体も
その後
大きく進歩した

第一に
白人女性の
母胎から
胎児を取り出す
方法である

掻爬は
危険で
できないから

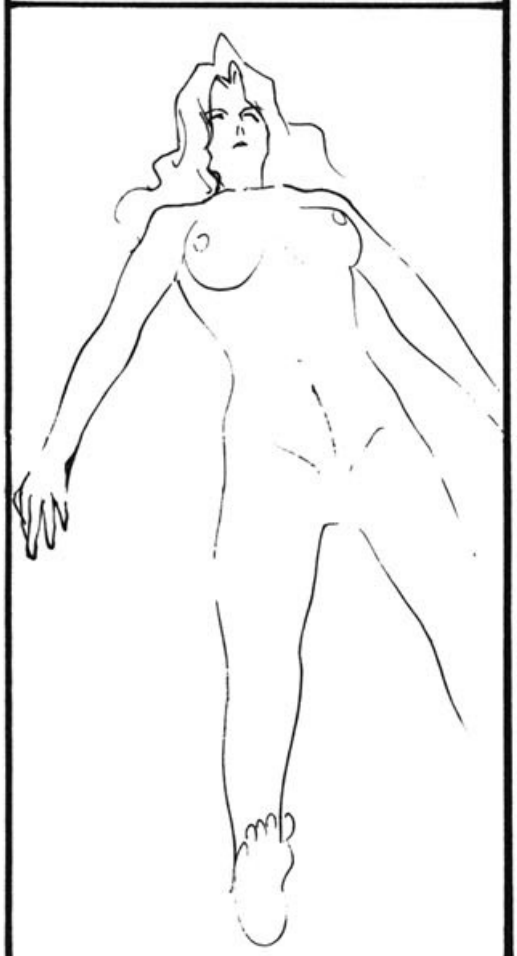
初期には
帝王切開したうえで
取り出した



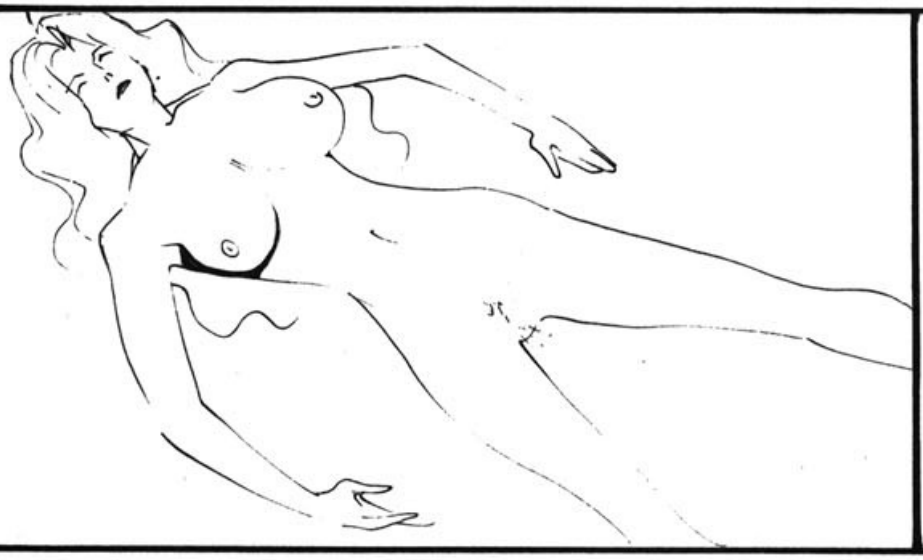
切開手術の
一時間のほうが
妊娠十ヵ月の
労苦よりはいい

と
されたのである

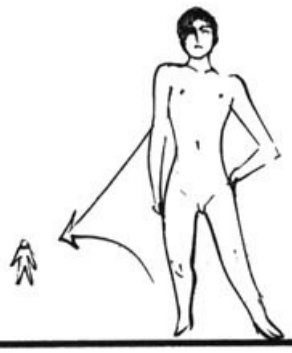
しかし
いくら外科技法が
進んで無痛手術と
いわれても
帝王切開は
大手術である



以後の妊娠への
影響もあるし
なるべくなら
母胎を傷つけたくない



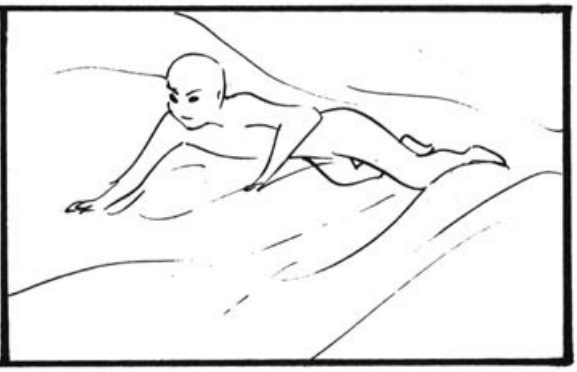
あたかも
前世紀から
発達してきていた
ヤプー縮小の
技術が



直接
母胎子宮内から
胎児を取りはずして
くることを
可能ならしめるように
なったのだ

黄体形成ホルモンの
検出法の進歩によって
受胎直後に胎盤の形成を
確知し得るように
なったことと相まって

現在では
この手術は
妊娠一ヵ月前後に
行なうべき
こととされ



※
「肉鉗子（フレッシー・ピンサーズ）」
として

あらかじめ
子宮内作業を
修得させた
極小畜（ミゼット）を
女主人の子宮にまで
もぐって行かせて

※ fleshy pincers

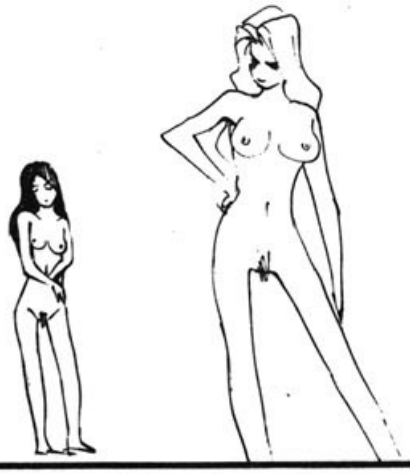
まだ
小さな胎児を
胎盤ごと取って
来させるのが
普通の
やり方である

身長三センチ余の
小人の
繊細な手指(ゆび)には

金属鉗子(フォーセップス)では
不可避な
危険が皆無である

第二には
胎児の
発育容器となる
雌ヤプーの側の
問題である

遺伝因子には
影響しないにせよ



母体の環境条件が
胎児にとって
無視できぬ
重要性があることは
いうまでもない

当時はまだ
「三色摂食連鎖機構（トリコロル・フッドチェーンシステム）」
のできる以前で

エンジン虫の
吸い上げる
栄養液が

ヤプーの栄養が
今日のように
一定しては
いなかったが

およそ
正常の人士の
口にするを
避けるようなもので
あることは

そのころも
今と
変わりはなかった

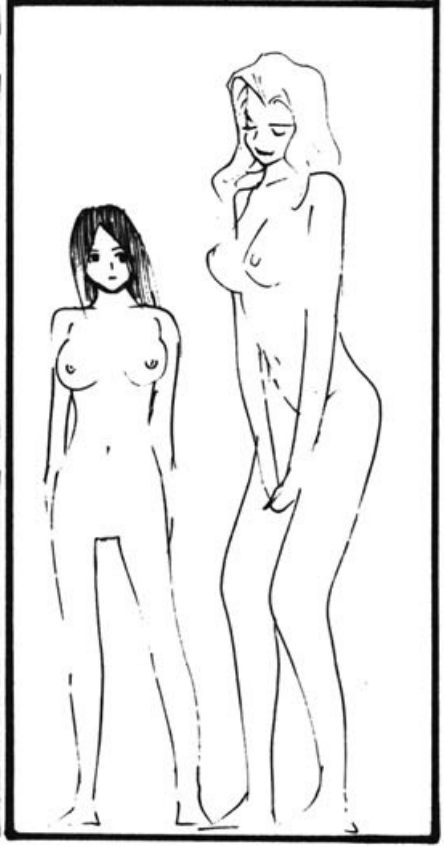
そこで

そういう汚（けが）れた
母胎から
白人の胎児が
栄養を摂取
するのは

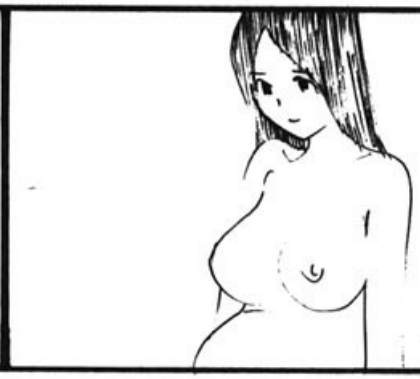
はたして
どうであろうか？

ということが
問題であり

白人女性の
身代りになる
雌ヤプーには

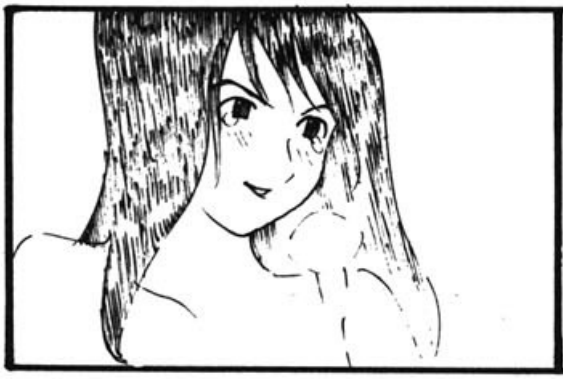


エンジン虫を
寄生させず
人間並の
食生活を許し

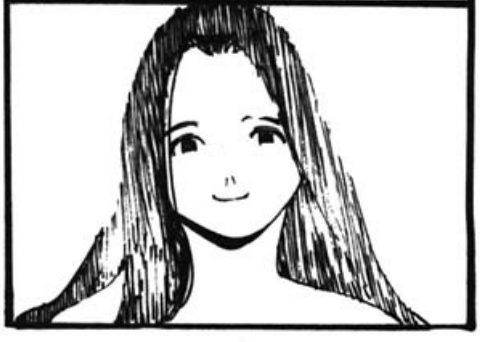


ことにいよいよ
「神の胤(たね)」を
宿して後は

白人とほとんど
同じ高さにまで
食生活を
向上させてやる



一つには
それがヤプーの
精神を明るくして
胎教的にも
好影響が
あるからだが



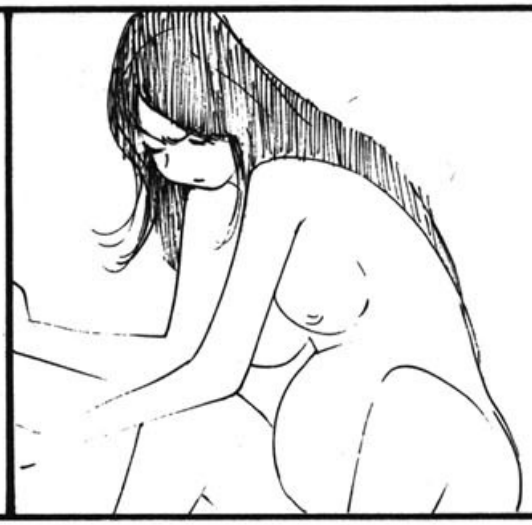
という形で
この問題への
解答が与えられた

だが
まだ難点は
残った

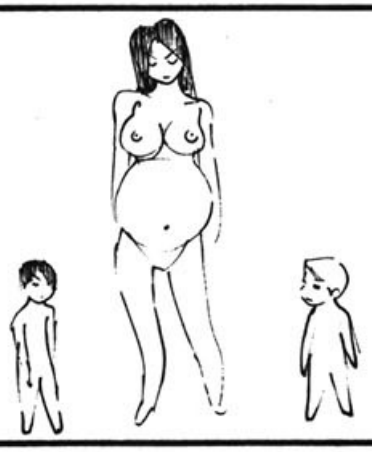
いやしくも
人間の赤ん坊が

畜生たる
ヤプーの股から
生れる
などとは
とんでもない

という
もっともな
違和感である

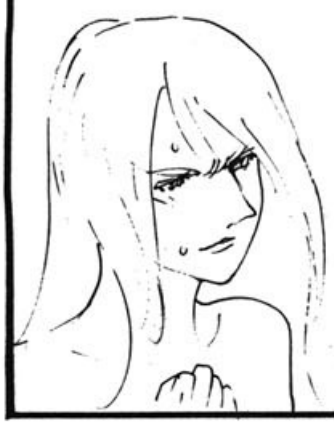


さらには
ヤプーの仔を宿す
同じ子宮に
はいって育つのでは



まるで
ヤプーたちと
姉妹・兄弟同然に
なるではないか

という
当然の
感情論である



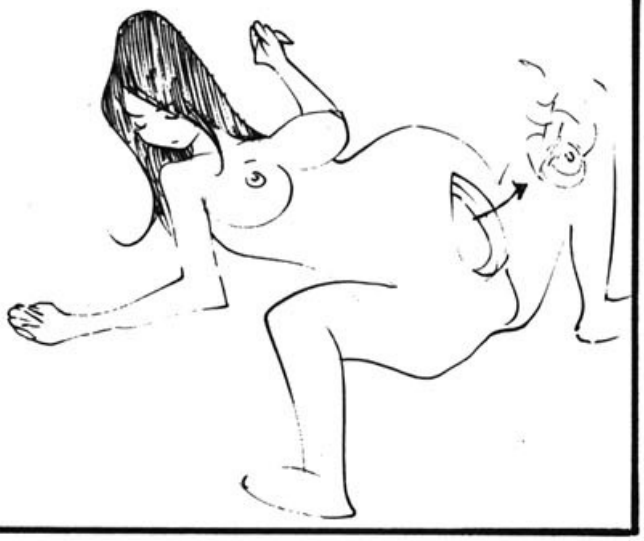
処女の雌を
特に選んで
「神の胤」を
受胎させ
月満ち分娩(ぶんべん)が始まる

その第一期

すなわち
陣痛を感じたら

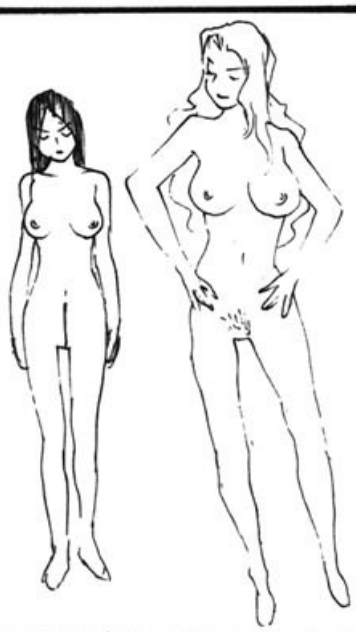
すぐに
帝王切開して

胎児が
膣(ちつ)を通過しないうちに
分娩させる



という方法が
とられたのは
こういう感情問題に
解答を与えるため
であった

同じ帝王切開でも
白人母胎の
場合と異なり



畜体のほうは

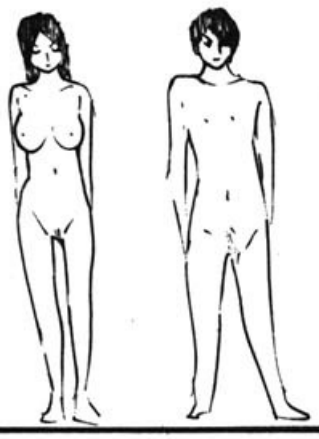
「生きた容器」

つまりは
道具なので

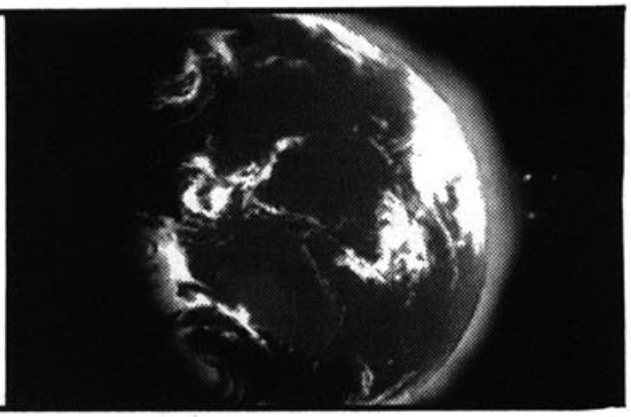
安全配慮の
問題は生じない

胎児の安全さえ
保障されれば
いいのだ

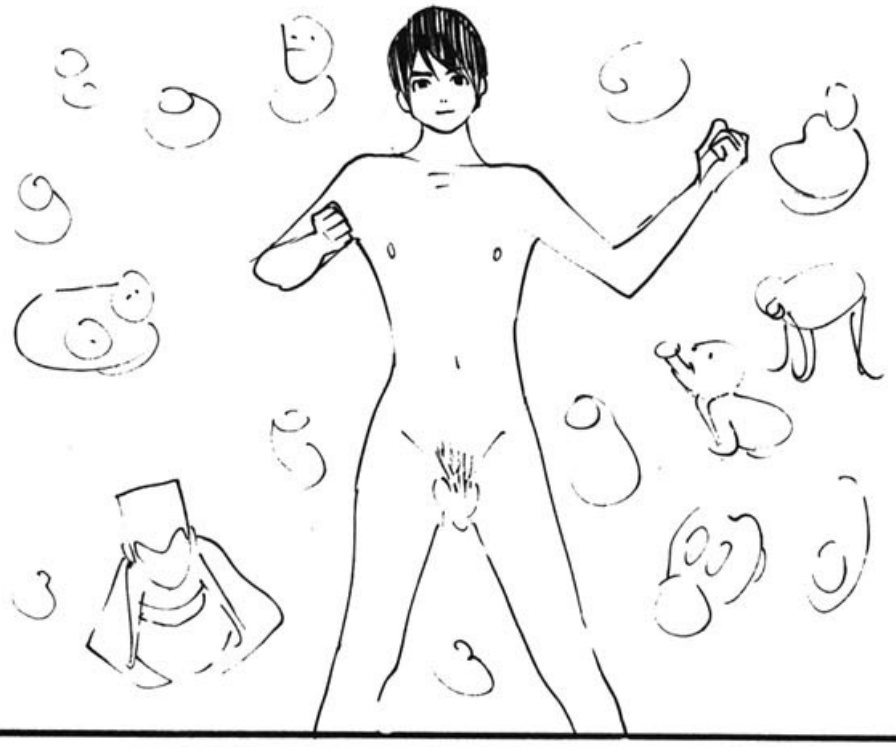
ヤプーの
雄と雌とは
職能を分化し

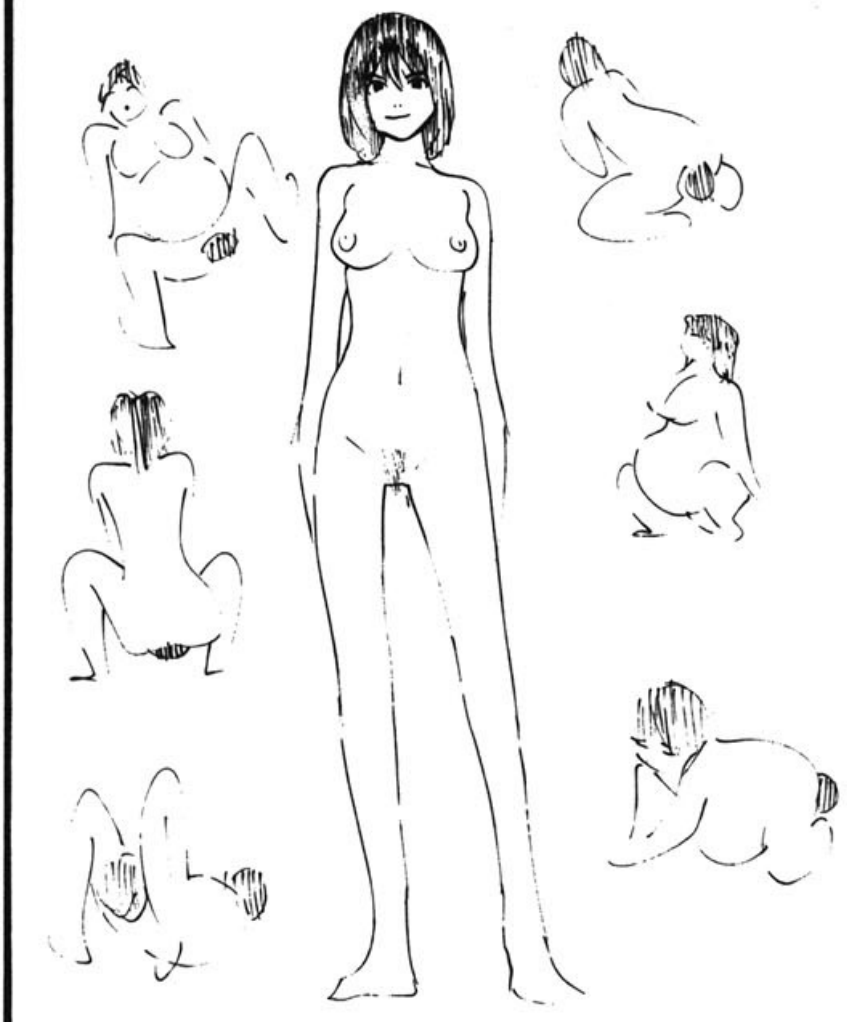


イース文明の
発展に伴い



人間の使役に応ずる
生きた道具としては
もっぱら雄が用いられ



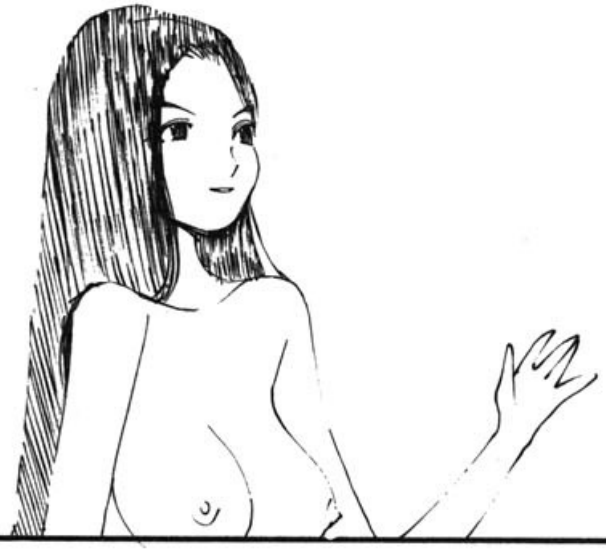


雌はその道具を生産する
機械として存在価値（レーゾン・デートル）を
認められるようになってきた

この雌たちのほかに
数でこそ少ないが

ヤプーを生産する代りに
「神の御子（みこ）」の
成育容器たるを任務とし

そのための
教育を受ける
専門の雌が
現われるに
至ったのは



「敦公手術法」の
進歩に照応するもの
だったということが
できよう

これが
ヤプムである

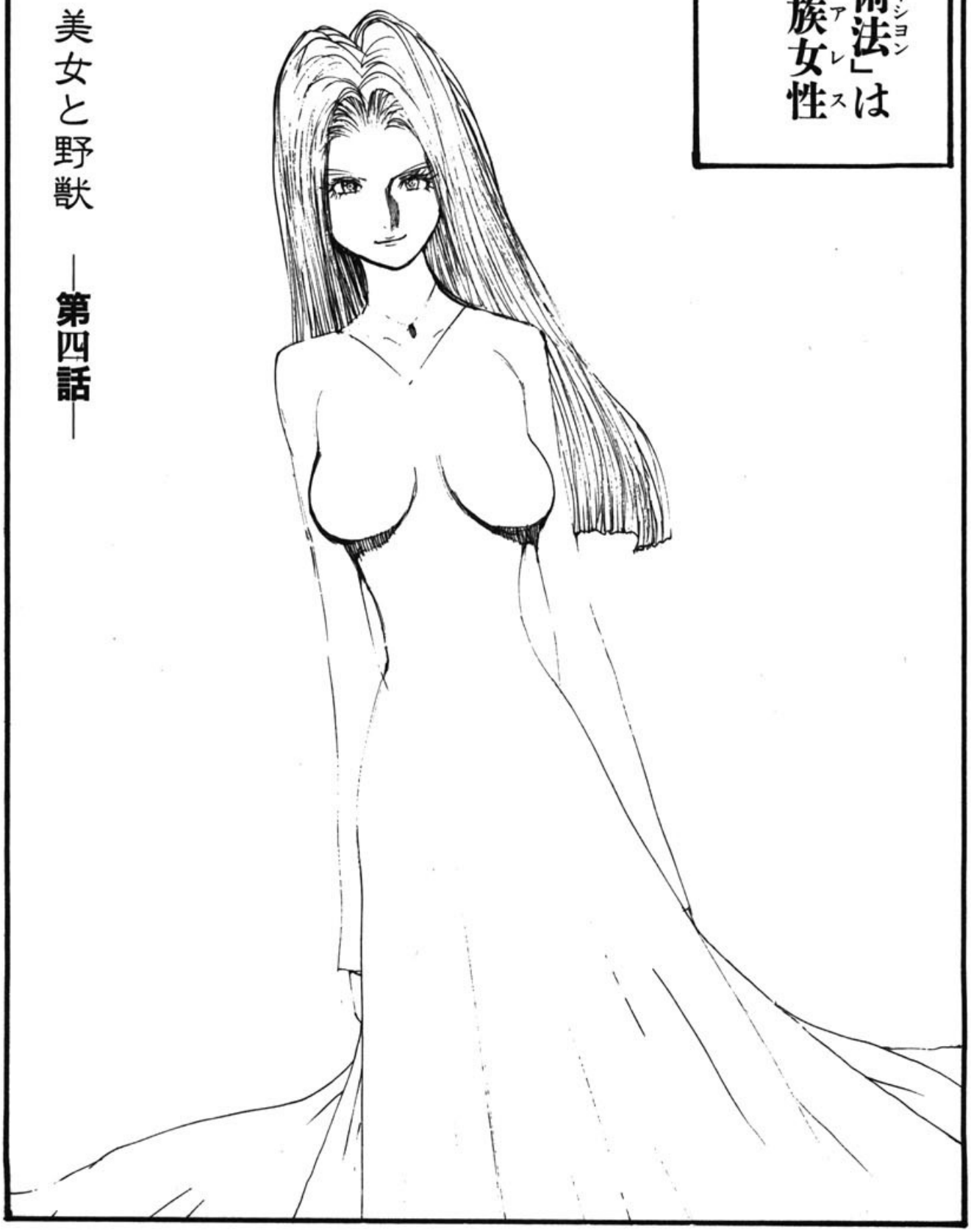
「神の御子」を

家畜が宿す世界（イース）……。

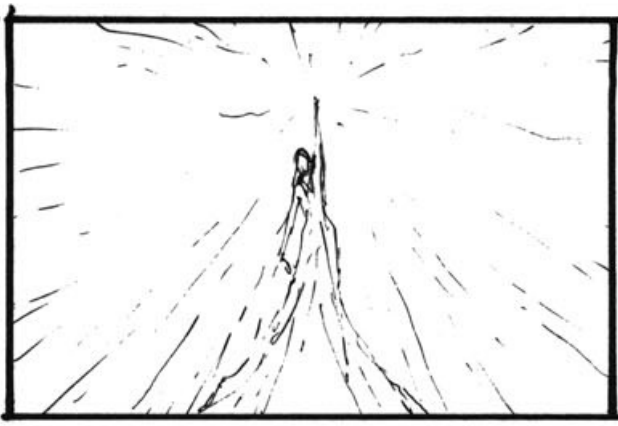
第十三章　美女と野獣

―第四話―

「敦公手術（クックー・オペレーション）法」は初めは貴族女性（ピアレス）――

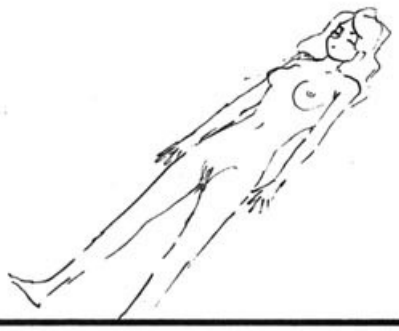


当時は
女権革命以前
である



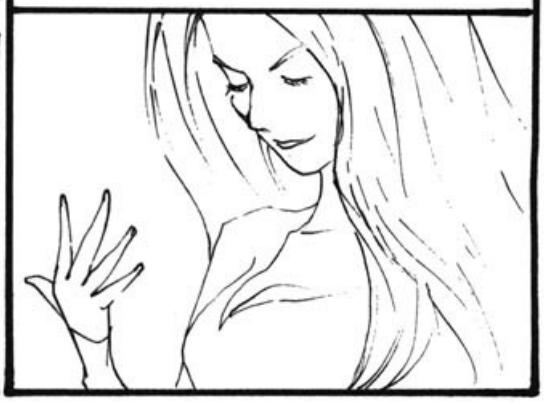
——の
専有物だった

むしろ
この手術法が
平民（プレブス）に
普及して後に

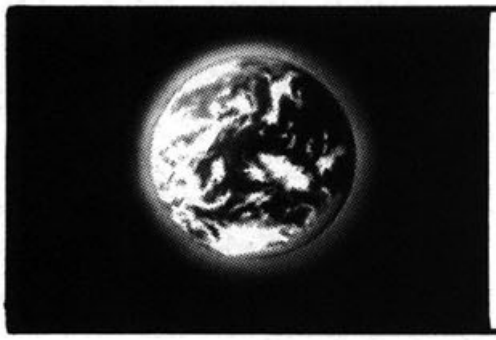


そのゆえにこそ
革命となった
のである

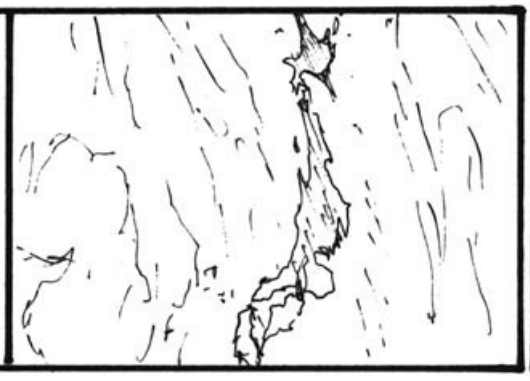
彼女らは
必要に
応じて



地球の



ヤプン諸島に
出かけて行った



読者もすでに
ご承知のとおり

土着ヤプーは
人間的衣食住生活を
享有しているから

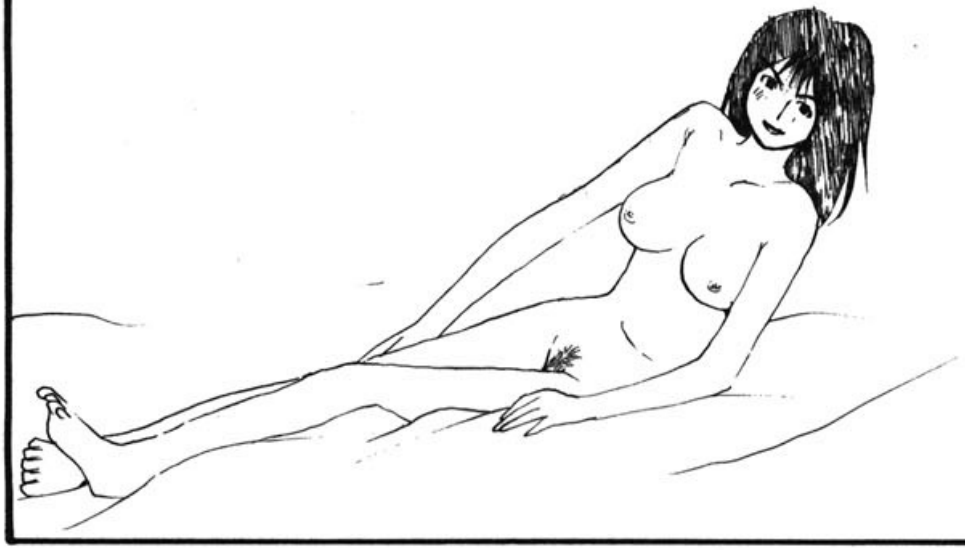
昇天後も※
エンジン虫を
呑(の)まさずにおけば
よいのである

※ 土着ヤプーがイース世界にはいること

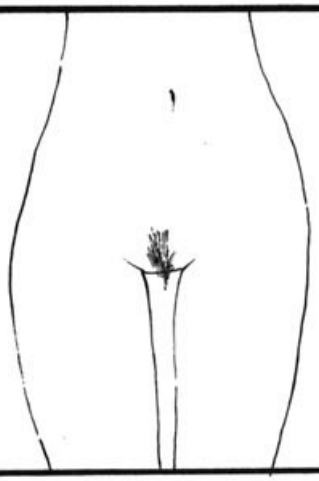
その雌の
※「子宮(ウーム)」を
利用することは
その限りにおいては
不潔感はない

※ Womb

もちろん
処女でなければ
ならない



骨盤は
広く丈夫で
胎児を
充分発育させるようで
ありたい

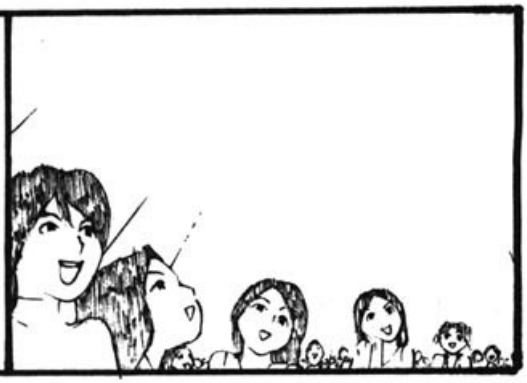


腰部以外は
華奢(きゃしゃ)な難産型の
体格が好ましい

しかし
あまりお産が軽くて
帝王切開手術の前に
胎児が膣(ちつ)を通過しては
困るから

容貌(ようぼう)・知能・血統も
優秀なのに
こしたことはない

貴族女性(ピアレス)たちは
その中から
右の諸条件にかなった
好みの一匹を
選び出せば
よかったのだ



――
昇天したい雌は
無数にいるので

こうして
選び出した雌を
貴族女性（ピアレス）は
※ヤプムと称（よ）んだ

※ yapoo＋womb

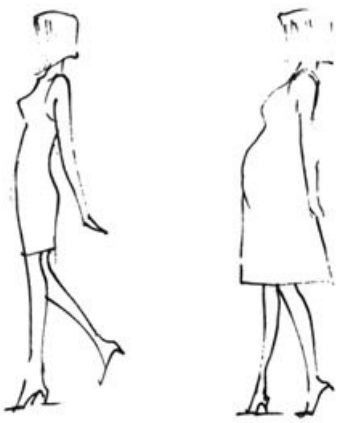
※ヤプー・ウーム
子宮畜
の意である

そのうち
平民女性も
貴婦人（レディ）を真似して
ヤプムを使う
ようになり

※ yapomb

以後
イース白人社会
——

——からは
下腹を
つきだして歩く
孕（はら）み女の
みっともない姿は
一掃されてしまう
ことになった



厳密には
白人居住星

しかし
そうなると
ヤプン諸島の
ヤプーだけでは
需要を満たし
きれなくなった

ここには
地球のヤプン諸島から
移住させられた
標準型のヤプムが

処女生殖（ヴァージン・バース）によって
繁殖させられていた

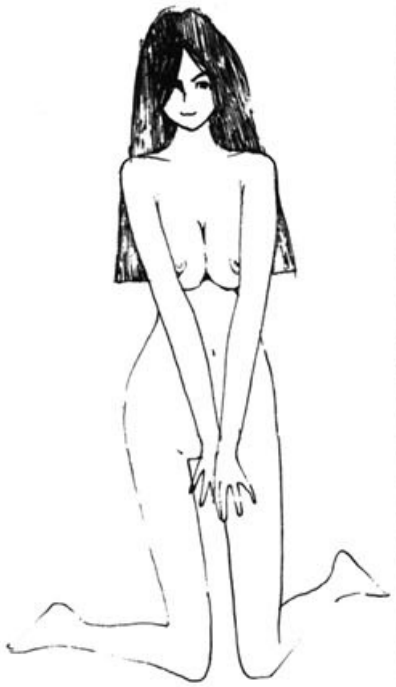
これが
シリウス圏
第五惑星なる
アマゾン星にある
「女護島」である

平民用の
ヤプム専門の
大飼育所を
興した

貴婦人たちは
特権を維持
するために

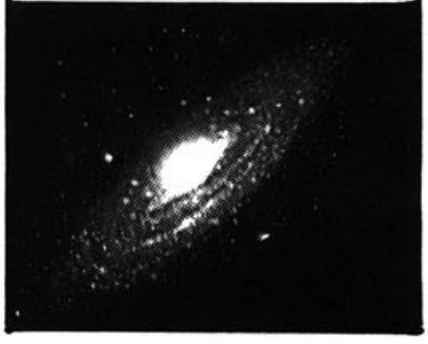
ヤプムは
食生活は特別でも
衣生活は
一般ヤプーと同じで

ここで育って
十八歳になった
処女が



皮膚強化処置（デルマタイジング）を
受けているのだから
島の全住民が全裸である

「イース」中に
移出されて
平民女性の
身代り子宮と
なるのである

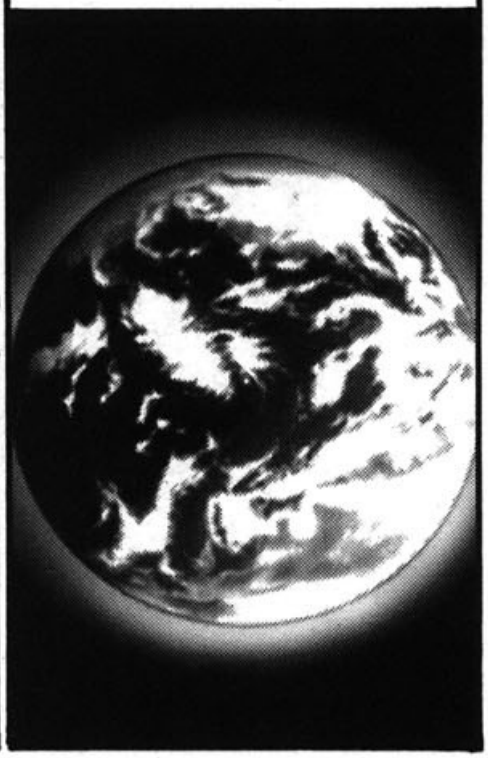


貴婦人たちはこれを

「アマゾン物（もの）」

として軽蔑（けいべつ）する

彼女たちは
直接
「地球物」
を使用する
特権があるのだ



平民たちの
需要を排除すれば
必要数も
少なくなるから

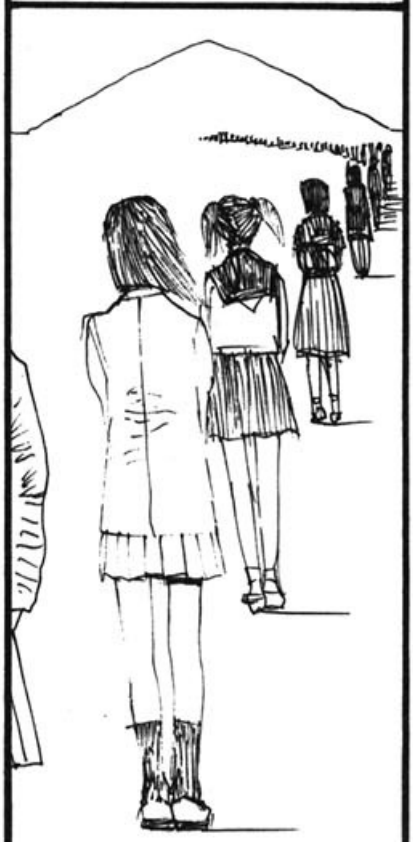
自由に
選択できる

そのための
大規模な組織が
いわゆる
処女検査制度(ヴァージン・エクザム)であって

しかもこれが
「畜人省士着畜人局」
の事業としてではなく

邪蛮国(ジャバン)政府のほうからの
自発的措置として行なわれて
いるのだからおもしろい

邪蛮国の
全女性は
満十四歳になると
国立検査場に行って



容貌(ようぼう)・体格・
健康・知能・性格等

あらゆる面からの
検査を受け
登録される

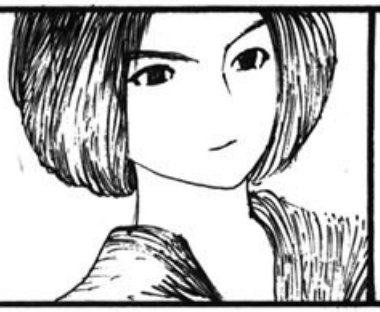
ちょうど
昔の兵役義務による
徴兵検査のような
国民的義務なのだが

合格者が
何千人に一人
というほど
選別基準が
きびしいこと

受験者の誰(だれ)もが
合格を
熱望している
といったことが

兵役とは
異なる点で
あった

検査成績になお門他その他の内申を統合したうえ



特別優秀者だけが選抜されてヤプム要員となる

国民は彼らを※「お袋様」とか

※ 家畜語のおふくろとは、子袋、すなわち子宮を意味する

※「聖母様（マリア）」とか称（よ）んで崇（あが）め尊（とうと）ぶ

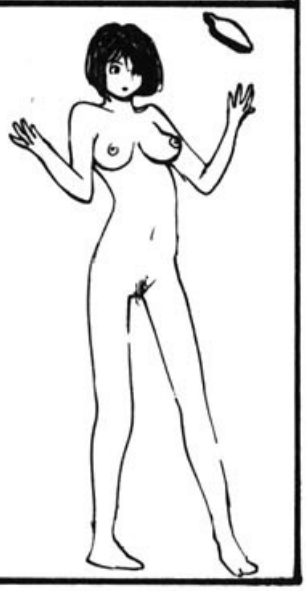
※ 神の胤を処女受胎するからである

満十五歳を過ぎると

その次の
満月の夜
富士登山(フジヤマ・クライミング)が
行なわれる

山麓(さんろく)で
再検査を受けて
合格すると

裸になって
皮膚強化処置を
施され

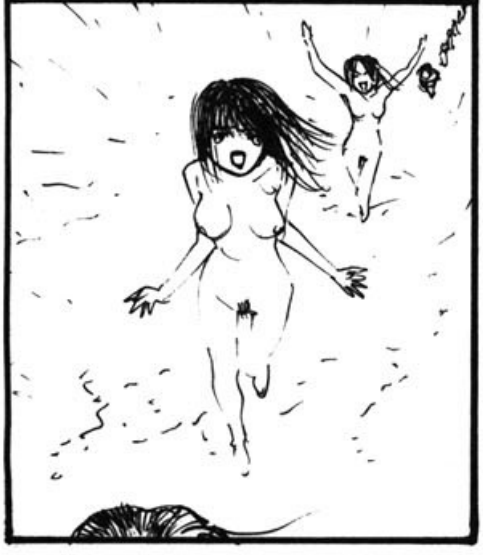


そのうえで
山頂を目ざす

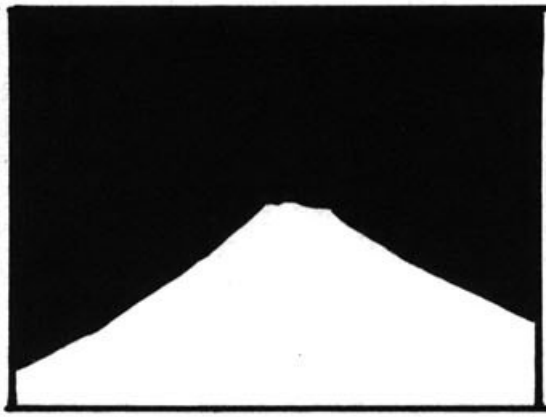
烈風が
黒髪を乱し
激しく
吹きおろして
きても

素裸に
肌をさらし
ながらも
何の寒さも
感じない

彼女らは
いよいよ神に
近づいたのかと
歓喜するのである



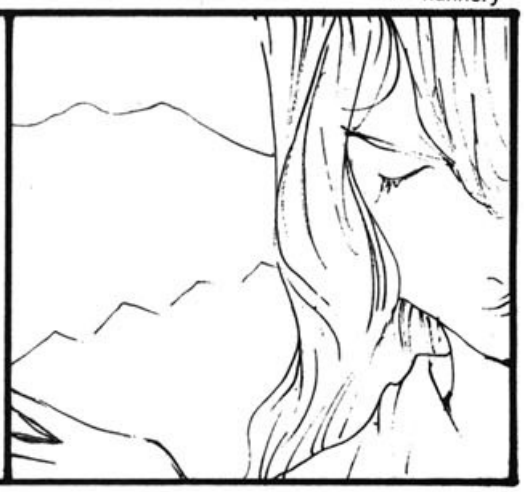
山頂にある
修道院(※ナナリー)——



※ nunnery

——で
邪蛮全国から
選り抜かれた
美貌の
乙女たちは

イース貴婦人に
とっては
飼育所(※ヤプーナリー)だが



※ yapoonery

満十八歳に
なるまで
修行する

高貴な神々の
「お袋」となる
身の幸福(しあわせ)を思い

それに伴う
責任を
感じている
彼女たちは

妊娠・出産・授乳時の
衛生法等の学科を
授けられる一方

健康に留意して
スポーツに励み

胎児教育に
最適の母体
たらんと努める

こうして
三年の期間が
過ぎると

身心共に
今や準備
まったく成った
子宮畜(ヤプム)となって
昇天し

市場に
出される

このように
規模としては
アマゾン星の
「女護島」の
何十分の一だが

質においては
はるかにまさる
貴婦人用ヤプム専門の
飼育所がこうして
できているために

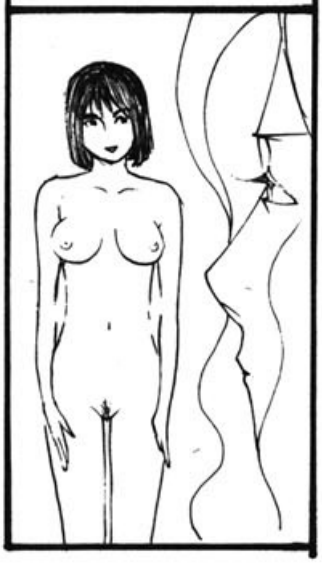
貴婦人たちは
わざわざそのつど
地球まで
出かけて行かなくとも

優秀な
「地球物」が
入手できることに
なっているのである

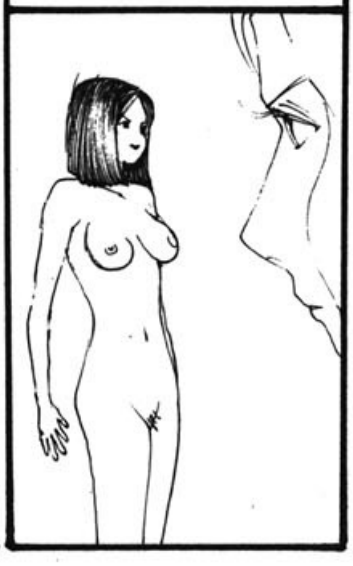
だが
贅沢(ぜいたく)には
キリがない

長女ソフィアの
妊娠のときに使った
ヤプムに失敗した
ポーリーンは

市場で見る品では
満足できず

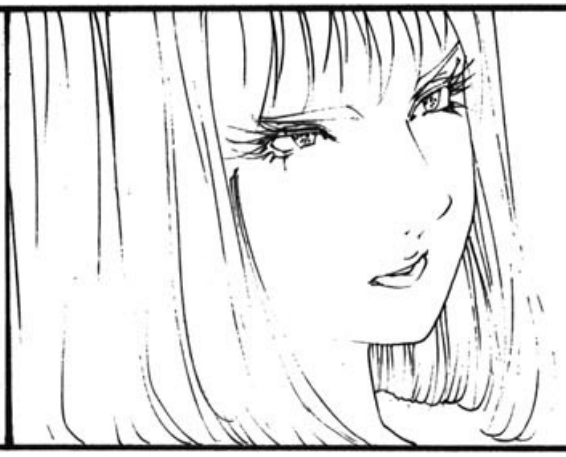


今度は
その飼育所まで行って
気に入ったのを
捜そうと
いうのである



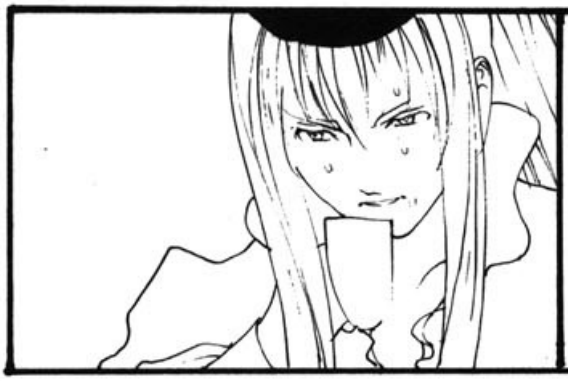
もっとも
こういう
富士山降臨(フジヤマ・ディセンディング)は
彼女が初めて
ではない

地球別荘に来る
有閑女性は
しばしば降臨を
試みるのである



さて
我々はここで
ふたたび
クララの部屋に
目を転じねば
ならない

焦々しながら
ソーマの杯を
あおっていた
ウィリアムは



ふと隣室から
器楽の旋律が
流れて来るのに
気づいた

それは
子守歌のような
単調な調べだった

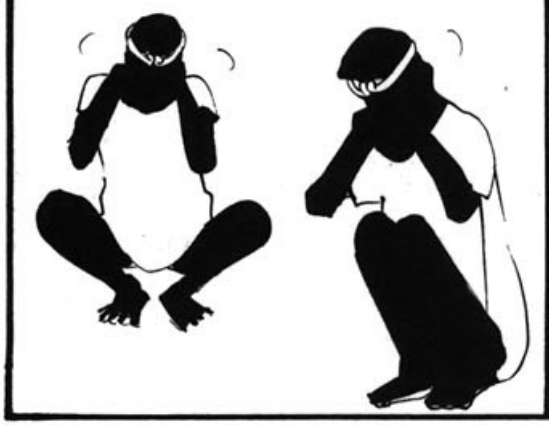
あっ
催眠楽(スリーピング・ミュージック)だ！
さては寝台で
……

美青年は
顔色を変えて
ソファから
身を起した

案の定
猛烈な眠気が
おそってきた

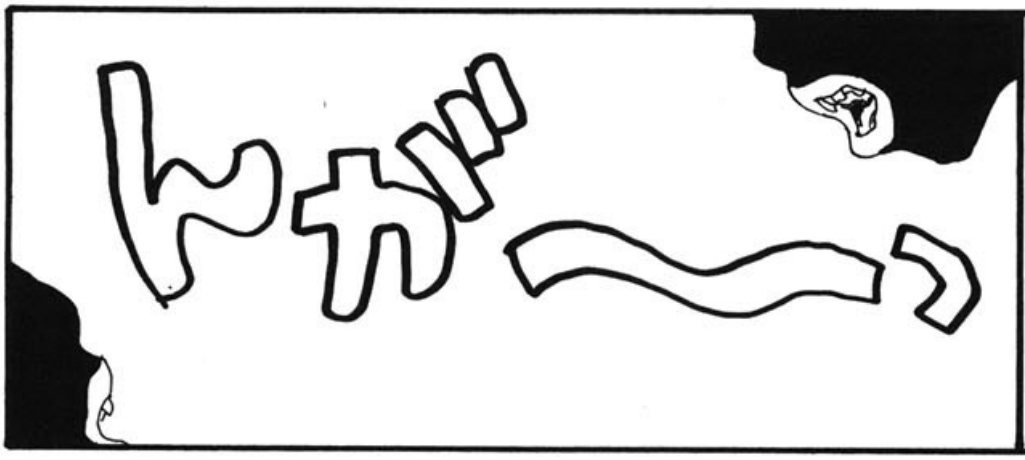
二人の黒奴は
もう床(ゆか)に
しゃがみ込んで

それでもしきりに
手で顔をこすりながら
眠気とたたかっているようだったが

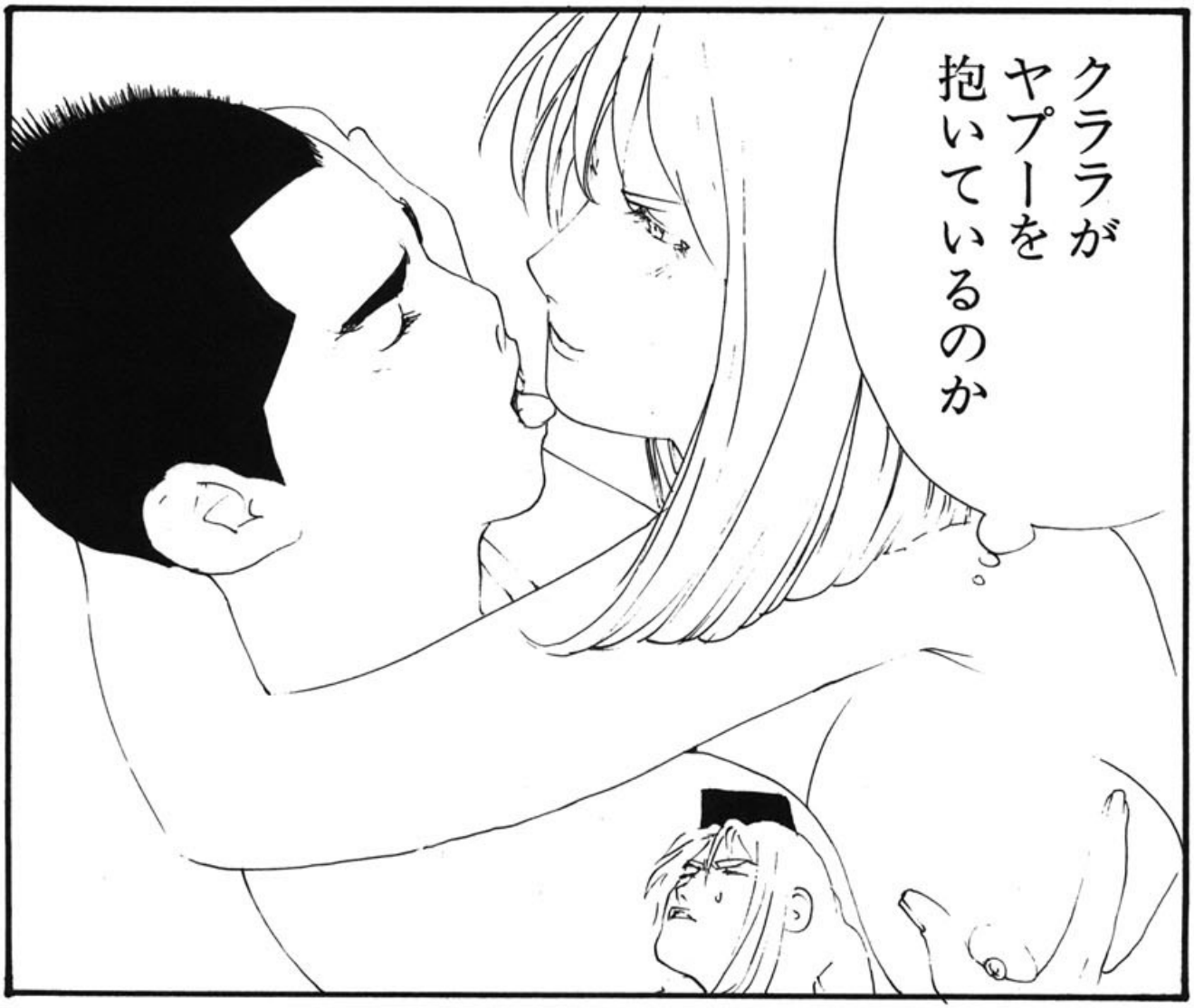


やがて
そこへ突っ伏すと
額の金輪が
床に触れ

同時に
鼾(いびき)をかきだした



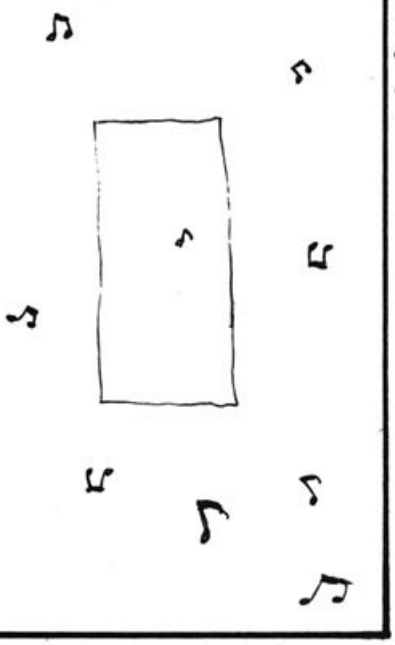
クララが
ヤプーを
抱いているのか



という
おぞましさと
嫉妬(しっと)と

ひとつには
ソーマによる
神経の昂奮(こうふん)とから

扉ごしの
楽の音は
いちだんと
強くなり

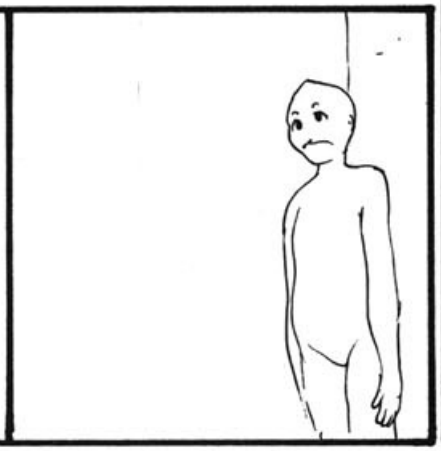


ウィリアムは
やっと持ちこたえて
隣室の扉(とびら)の前まで
行ったが

ついに彼は
扉の取手に
手をかけたまま
パタリと腰を落し

そのうち
だらしなく
扉にもたれて
眠り始めた

肉痰壺(スピッツーン)
その他の
生体家具たちだけは
何の影響も受けず
キョトンとして
立っているのが
異様であった



ぐ〜〜

ぐ〜〜

やがて
音楽は消え
かすかな
鼾のほかは
静寂があたりを
支配した

ぐ〜〜

ぐ〜〜

だいぶ
たってから
ポーリーンが
外からのドアを
開けた

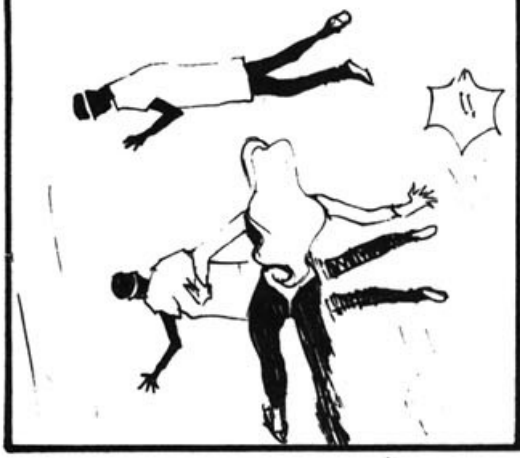
虫が知らせでも
したのか
アンナとの
打合せが終ると
早々に戻って来た
のである

奥への扉の前に
倒れている
ウィリアムの姿に

ハッ

と
驚いて
走り寄る

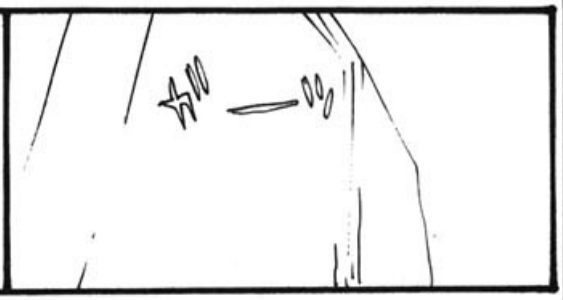
その足元に
倒れている
二人の黒奴の体に
あやうく
つまずきそうに
なった



三人とも
ただ眠っているだけ
だとわかって
安心はしたが
奥の部屋が
気にかかる

奥への扉は
クララ
ならば

開け(オープン)よ

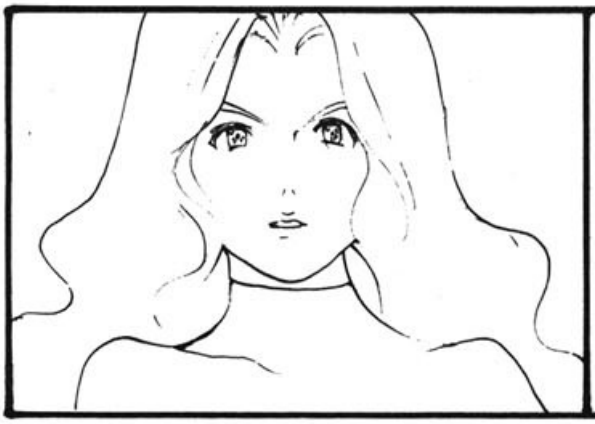


の
命令で
開けるが

他の人には
それが
できない

ポーリーンは
水晶宮の
マスター・キーを
取り寄せて
開かねば
ならなかった

真っ先に
目に映ったのは

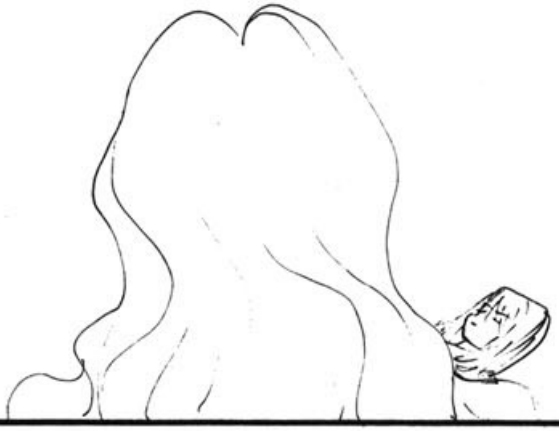


床に倒れている
クララとヤプーの
姿であった

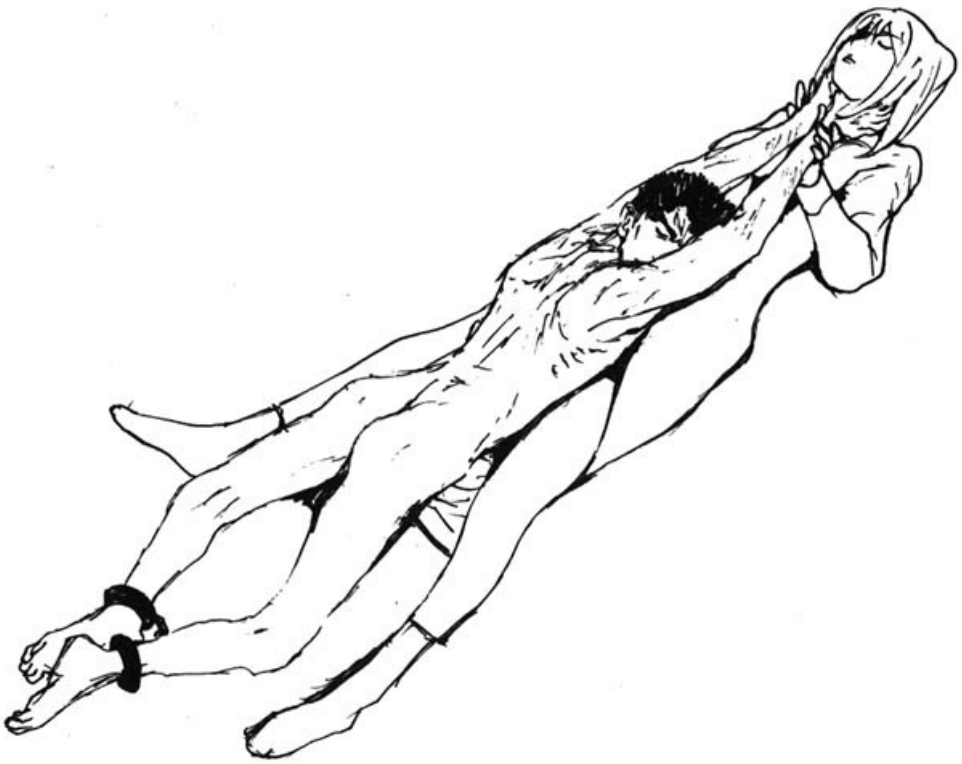
美女と野獣

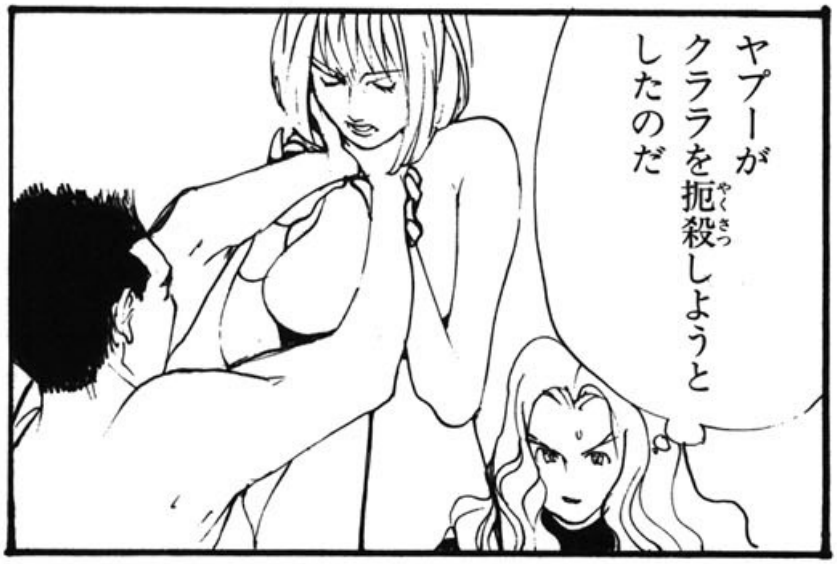
そんな表現が
ピタリとする
印象だった

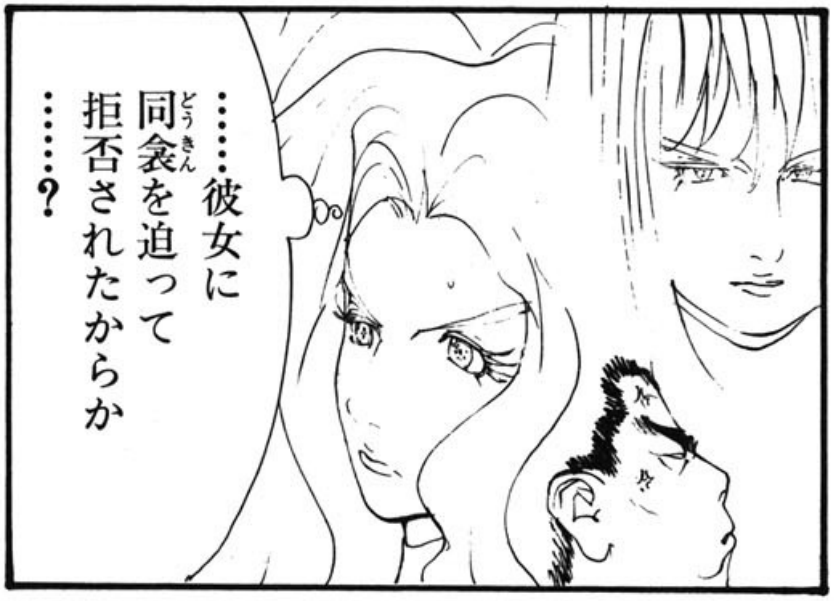
クララの
仰向けに横たわった
上半身に
のしかかるように
して



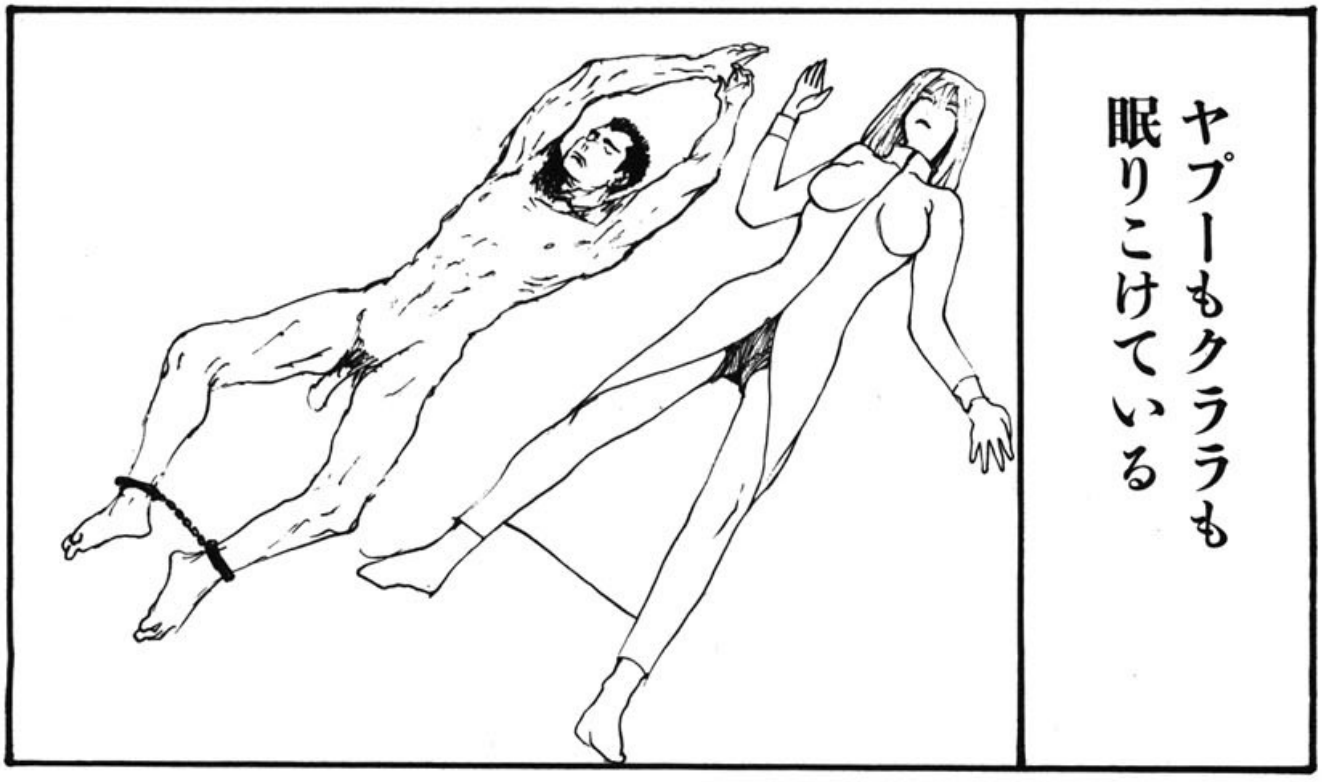
手錠だけは
はずされた両手が
彼女の喉にかかり
その両手首を
彼女の両手が
さえぎるように
握っている
衣装の乱れ方は
なおその場に
激しい揉合いの
あったことを
示していた




ヤプーが
クララを扼殺しようと
したのだ

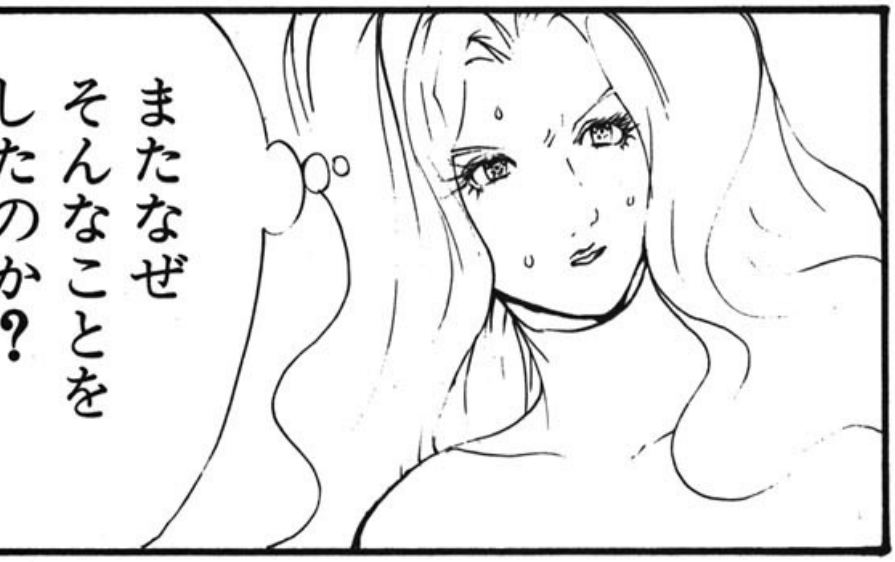

……彼女に
同衾を迫って
拒否されたからか
……？

ポーリーンはまず
クララの上に
俯伏せに重なっていた
ヤプーを
足で床の上に
仰向けに蹴落した


ヤプーもクララも
眠りこけている

——誰かが
麻酔短銃（ナルコチック・ピストル）を
使ったとしか
思えない

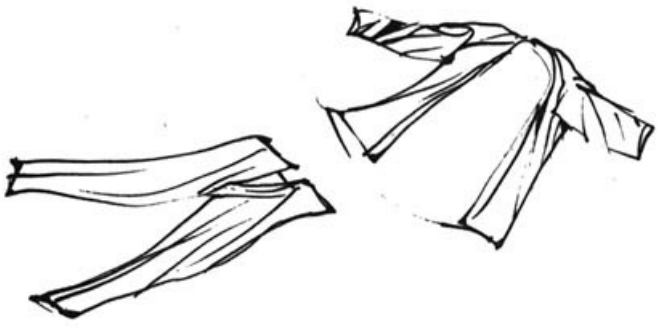
いったい
誰か？



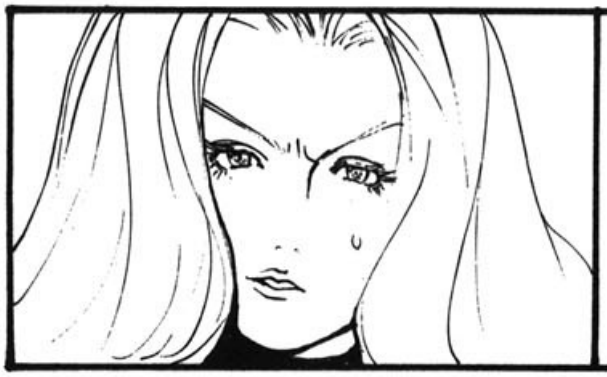
またなぜ
そんなことを
したのか？

部屋中見回しても
手掛りらしいものは
なかった

だが
小テーブルの横に
衣装箪笥（いしょうだんす）から
出したらしい
スーツ一着分が



ほうり出されたままなのが不審といえば不審であった



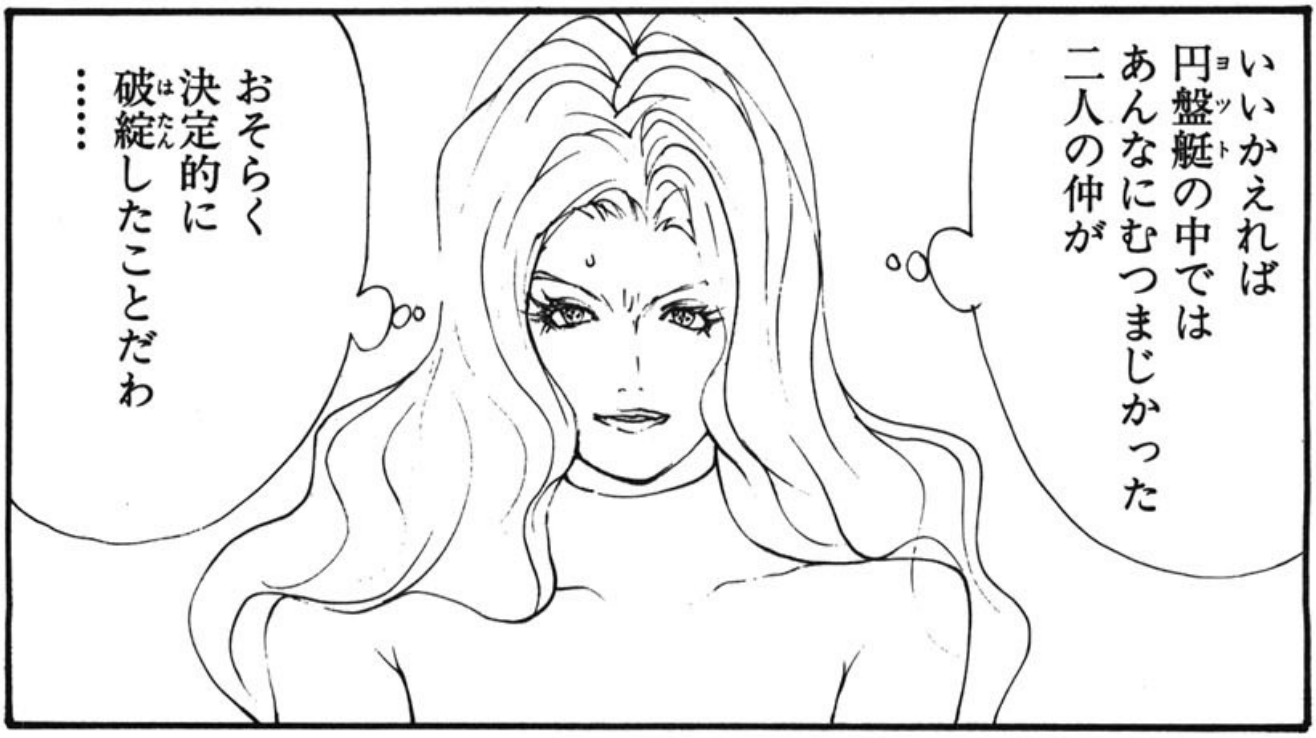
検事長という職業がら犯罪捜査には慣れているポーリーンだが

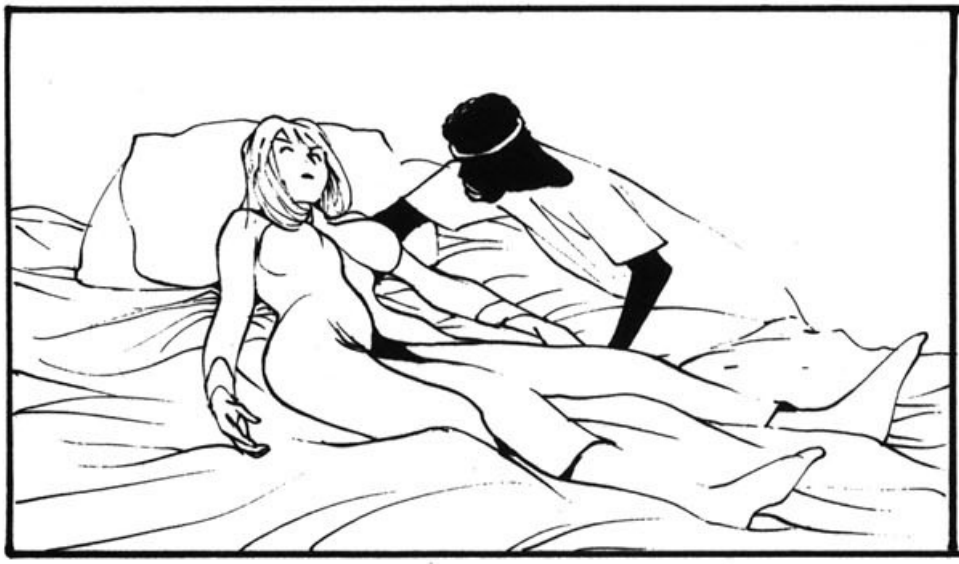
この不思議な突発事態（アクシデント）にはとんと見当がつきかねた

——ただ一つ確かなのはヤプーがクララに手向かいしたこと

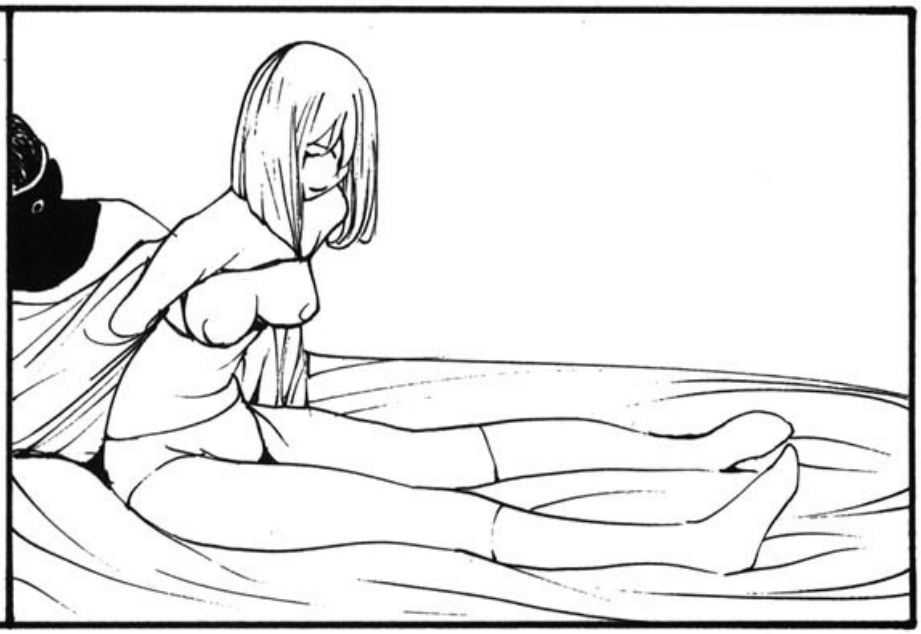
いいかえれば円盤艇（ヨット）の中ではあんなにむつまじかった二人の仲が

おそらく決定的に破綻（はたん）したことだわ……

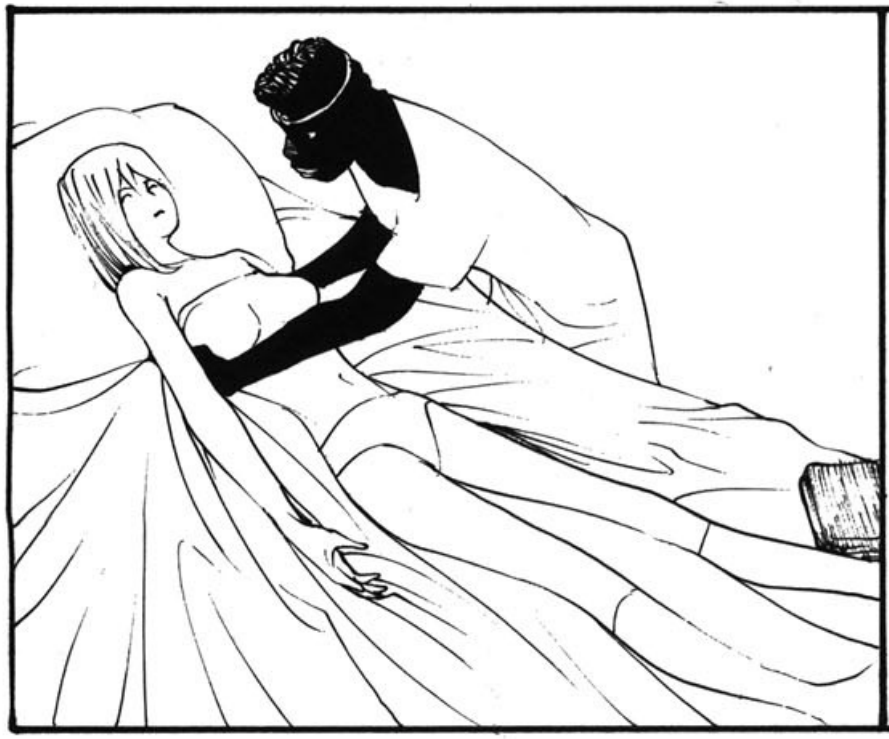




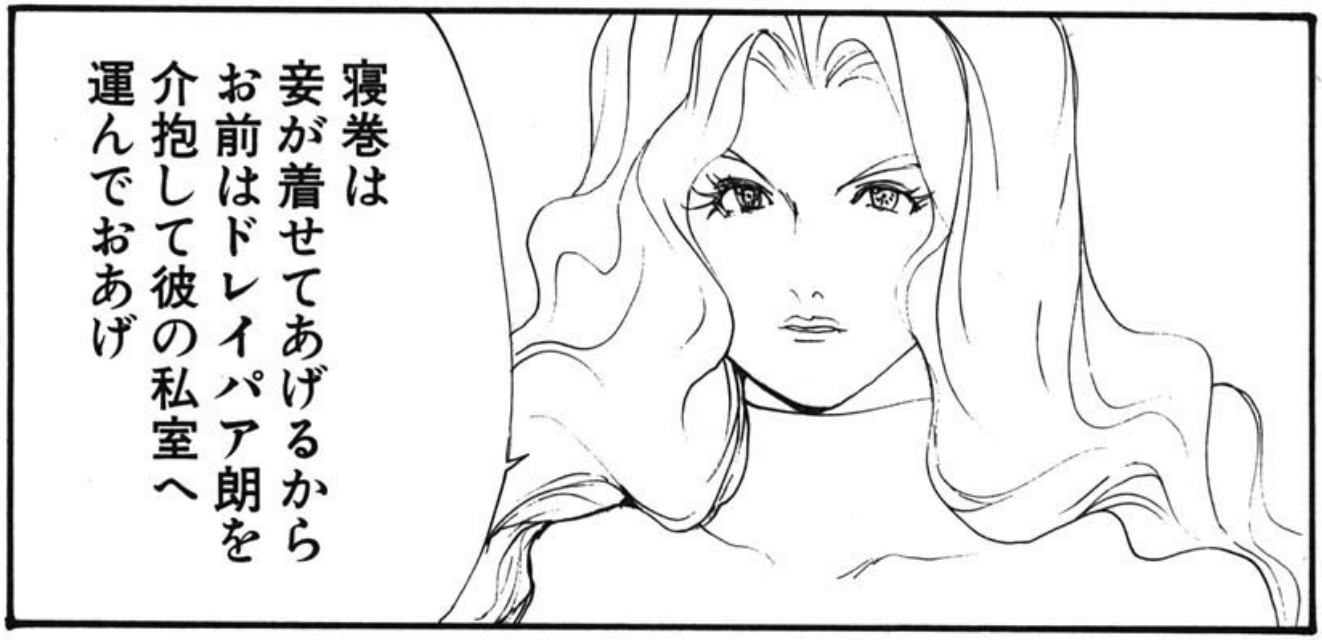
従者A3号は
かいがいしく
クララを
寝台に運び



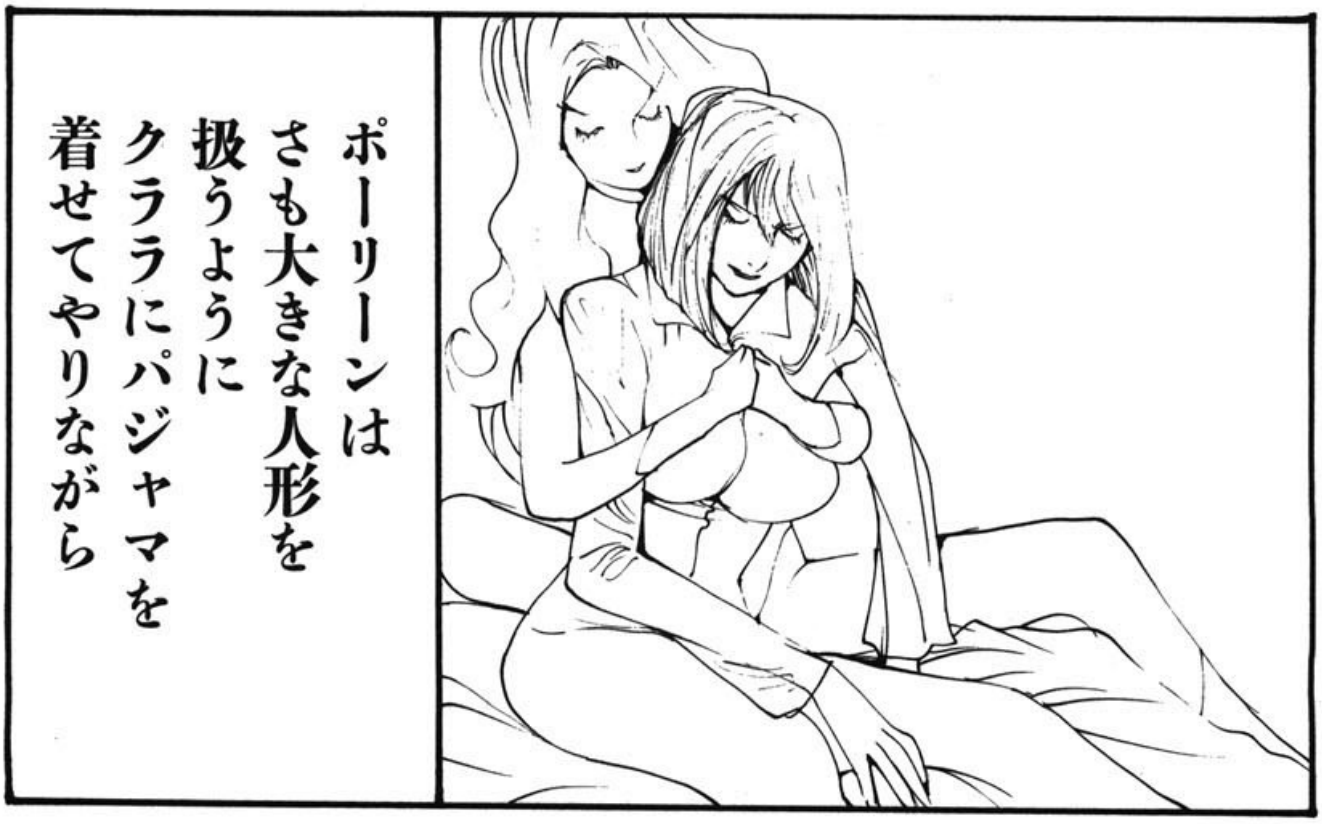
昏々(こんこん)として
正体のない肢体(したい)を
じょうずに扱いながら
服を脱がせた



パジャマを
出して来て
下着も脱がせようと
したところで
ポーリーンは
押し留(とど)めた


寝巻は
妾が着せてあげるから
お前はドレイパア朗を
介抱して彼の私室へ
運んでおあげ

ほかの
従者たちも
適当に……


ポーリーンは
さも大きな人形を
扱うように
クララにパジャマを
着せてやりながら

心中
そっと話しかけた

クララ嬢(さん)
さぞこわかった
でしょう

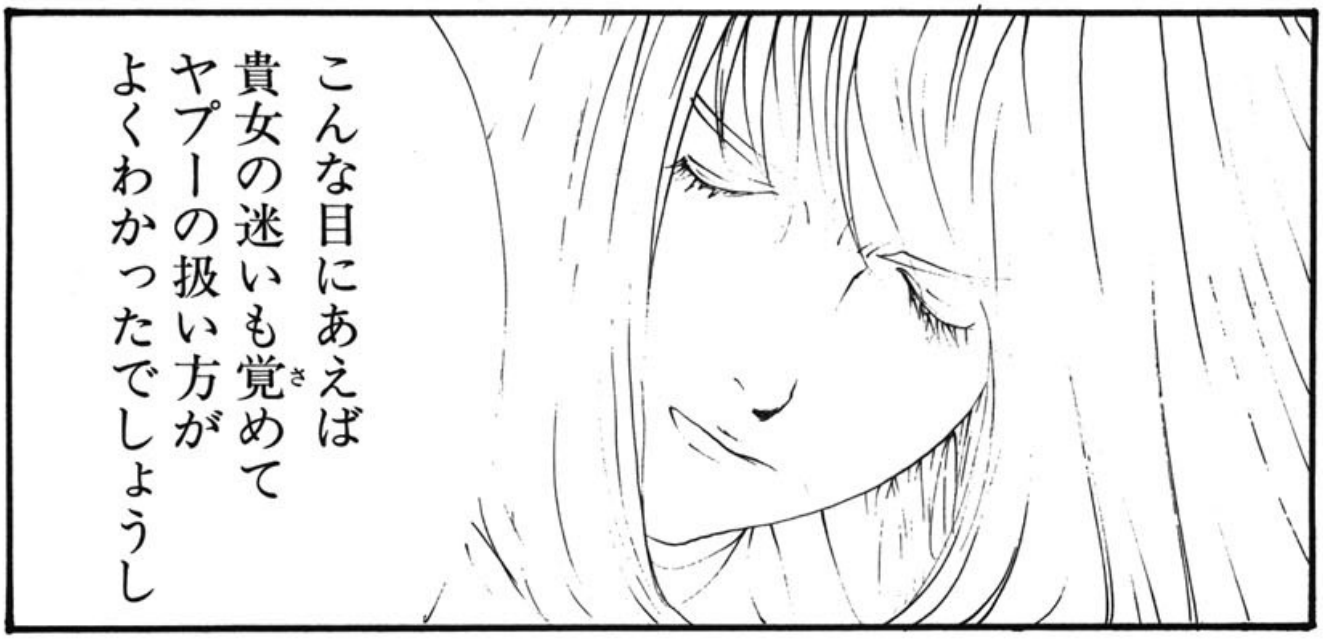
可哀(かわい)そうに
あんなに愛して
いたのにね……

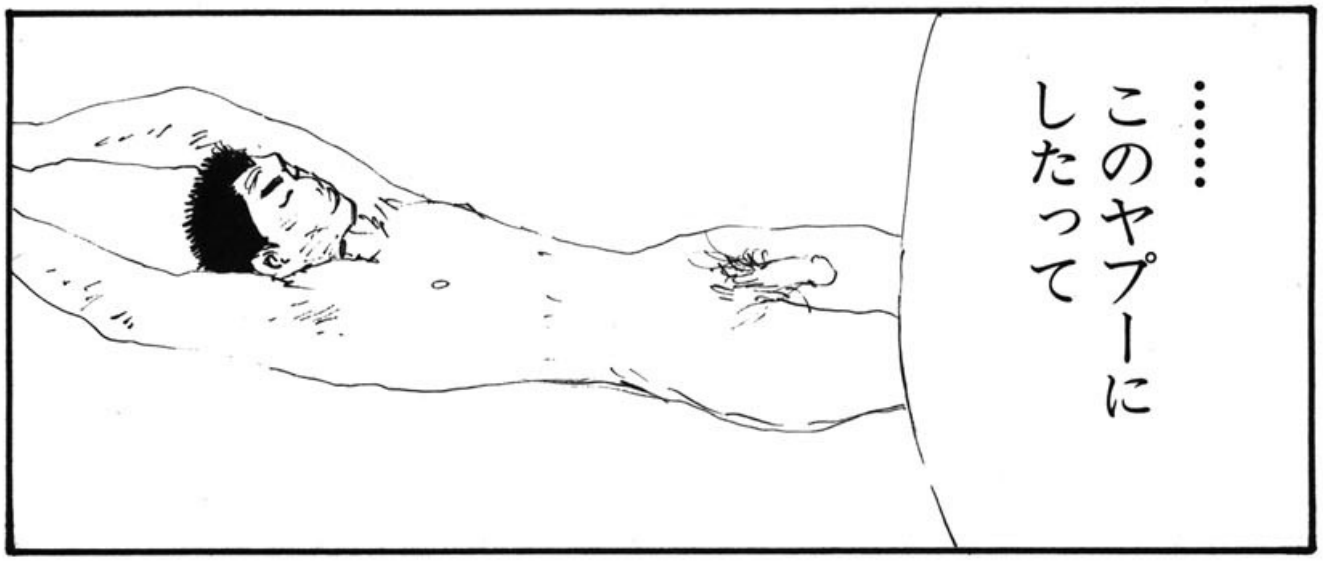
でもかえって
よかったのよ
所詮(しょせん)畜生相手の
恋愛沙汰(れんあいざた)

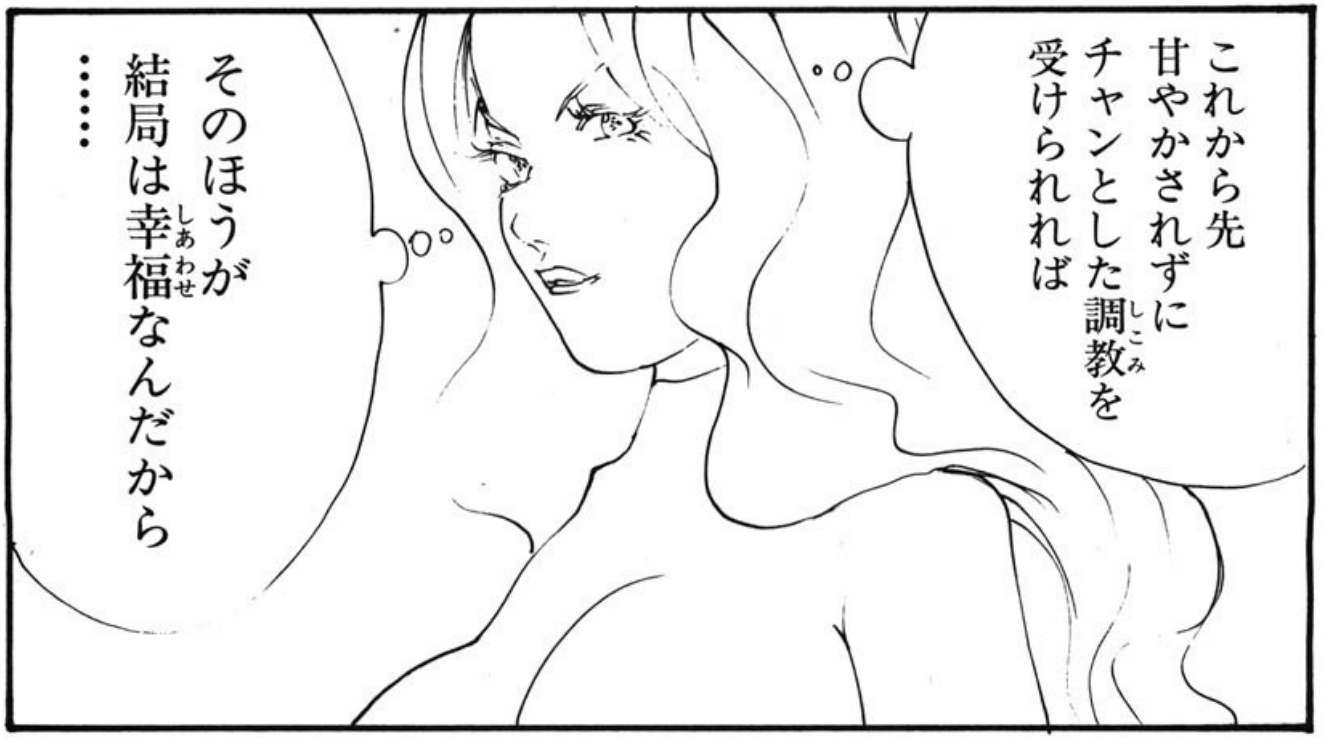
獣姦愛(ソドミ)は
早く清算したほうが
いいの

貴女(あなた)の
病的愛情は
根が深いから

へたすると
憐憫(れんびん)の気持が
残るんじゃないかと
心配してたのよ……


こんな目にあえば
貴女の迷いも覚めて
ヤプーの扱い方が
よくわかったでしょうし


……
このヤプーに
したって


これから先
甘やかされずに
チャンとした調教を
受けられれば
そのほうが
結局は幸福なんだから
……

クララの靴下を
脱がせていた
ポーリーンの手が
ふと止った

足の小趾の爪を
見たからだった

――そうだった
この令嬢は
五趾爪なんだ

前史時代には
人類は
五本の足趾全部に
爪を持っていた

それが
宇宙文明の
発達とともに
小趾がだんだんと
退化の一途をたどり

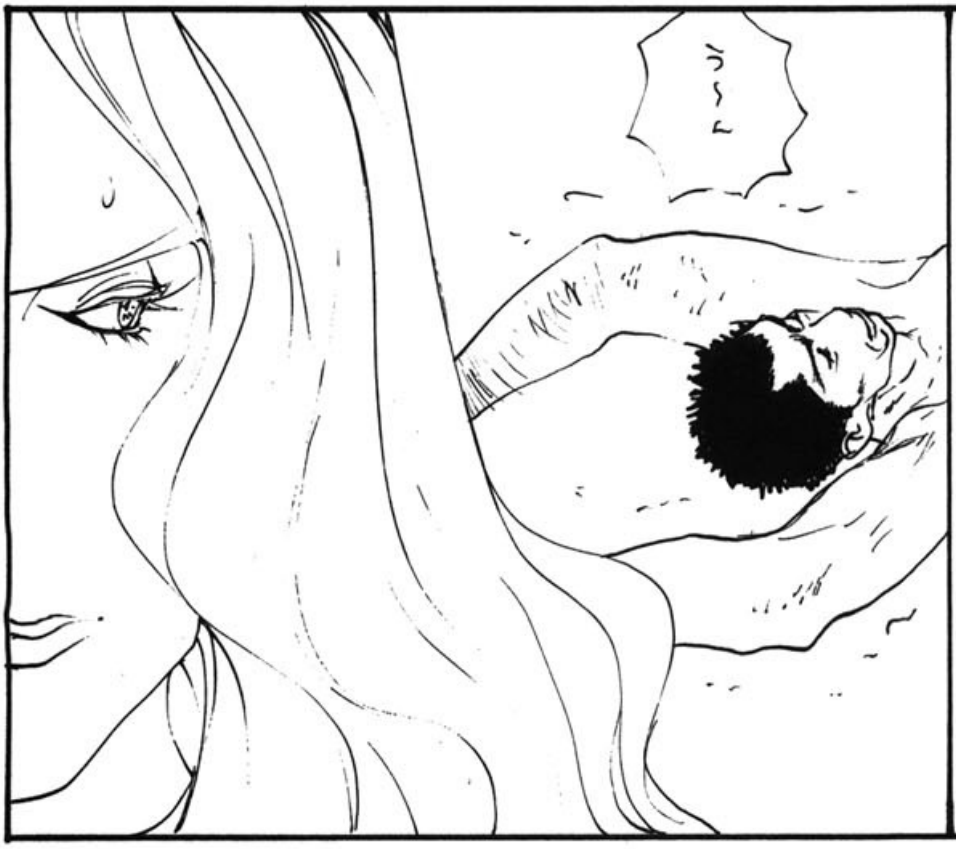
今から
千年ほど前には
小趾の爪は
完全に消滅した

イース人は
四趾爪の動物に
進化したのである

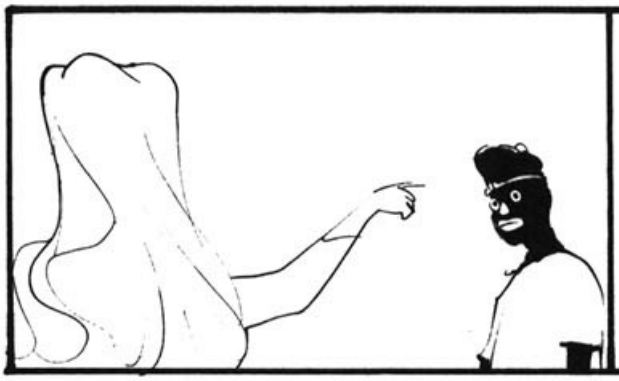
――
四趾爪にならなければ
イース人で
通用しないわ

アレマン医師を
呼ぼう

そう決心したとき
床上のヤプーが
急に身動きして
唸り声をあげた



不安になった
ポーリーンは
従者を呼んだ



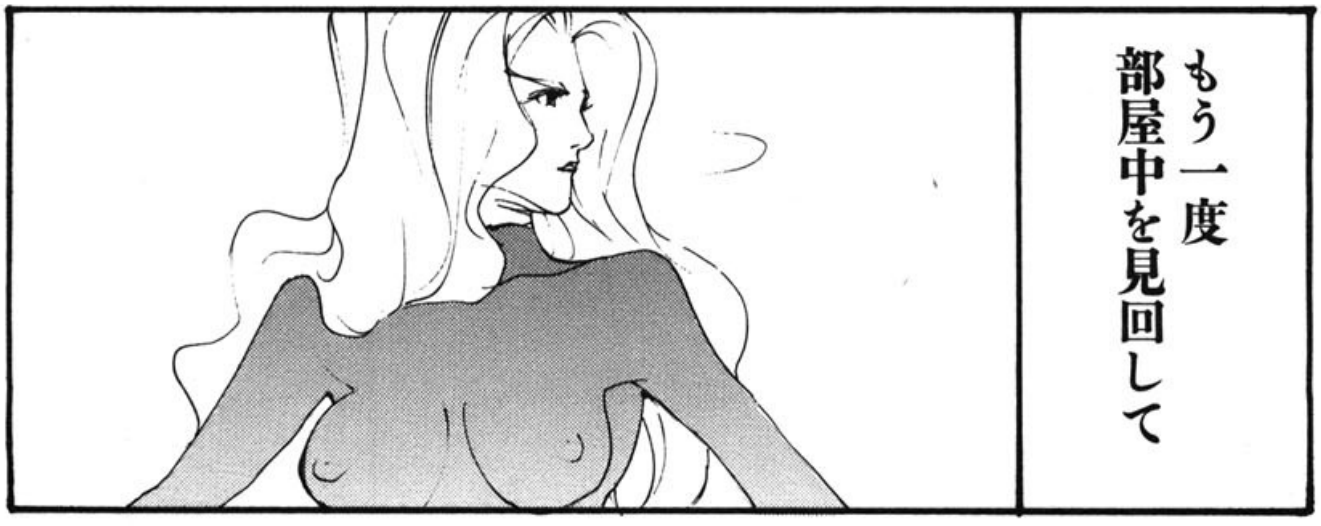
このヤプー(ローヤプー・ホールド)を
原畜舎に
連れて行って
※(スペア・ペン)予備檻にお入れ！

※ spare pen

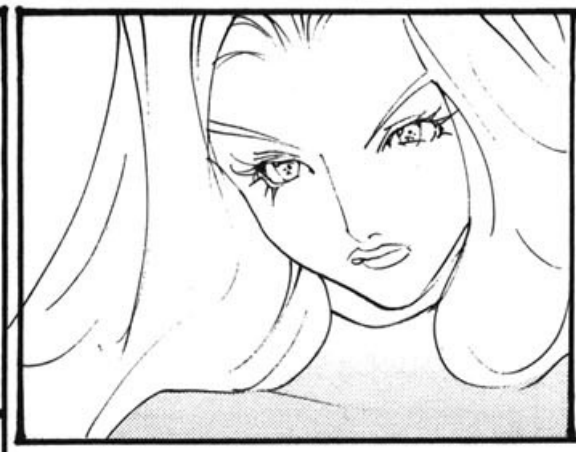
やはり手錠が
必要だ

その途中で
こいつが
あばれだせば事だ

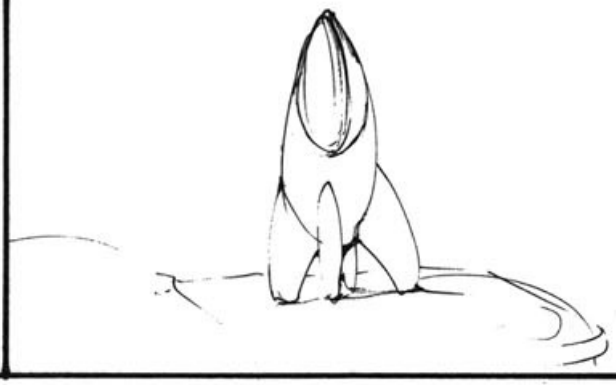
もう一度
部屋中を見回して



ポーリーンは
寝台の枕元の台に
立派な置物
——



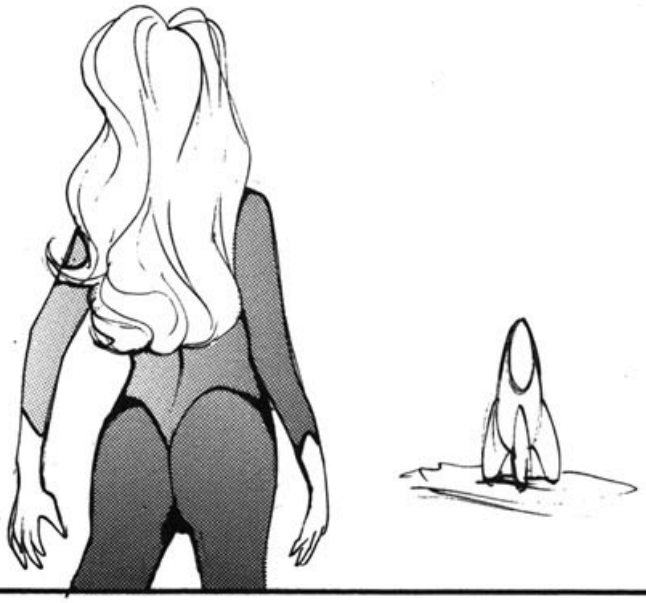
旧式宇宙船模型



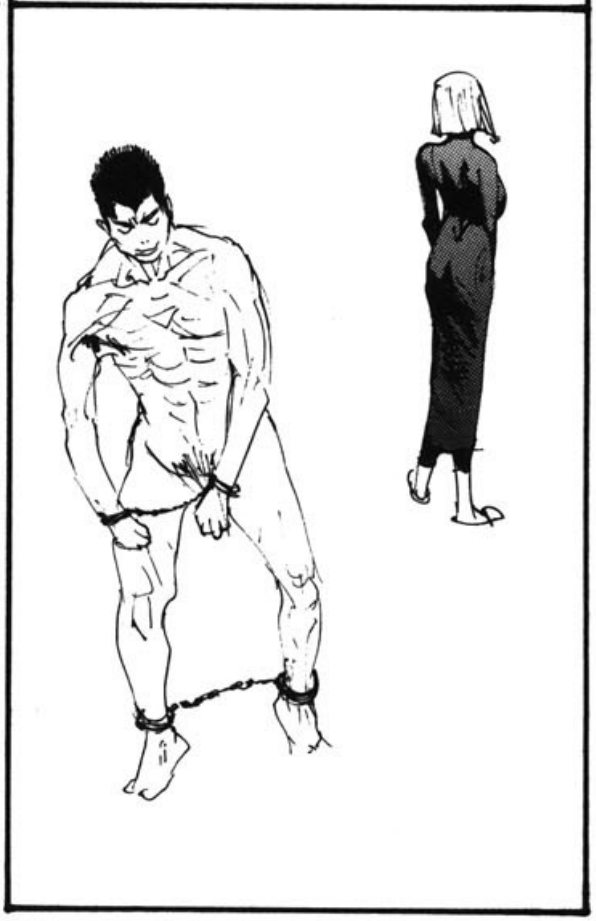
——があり
その横に
一度はずされた
ヤプーの手錠が
置いてあるのを
見いだした

手錠を
従者に渡し
ヤプーを担がせて
出て行かせた
彼女は

そのロケットの模型の
ほうに近寄った



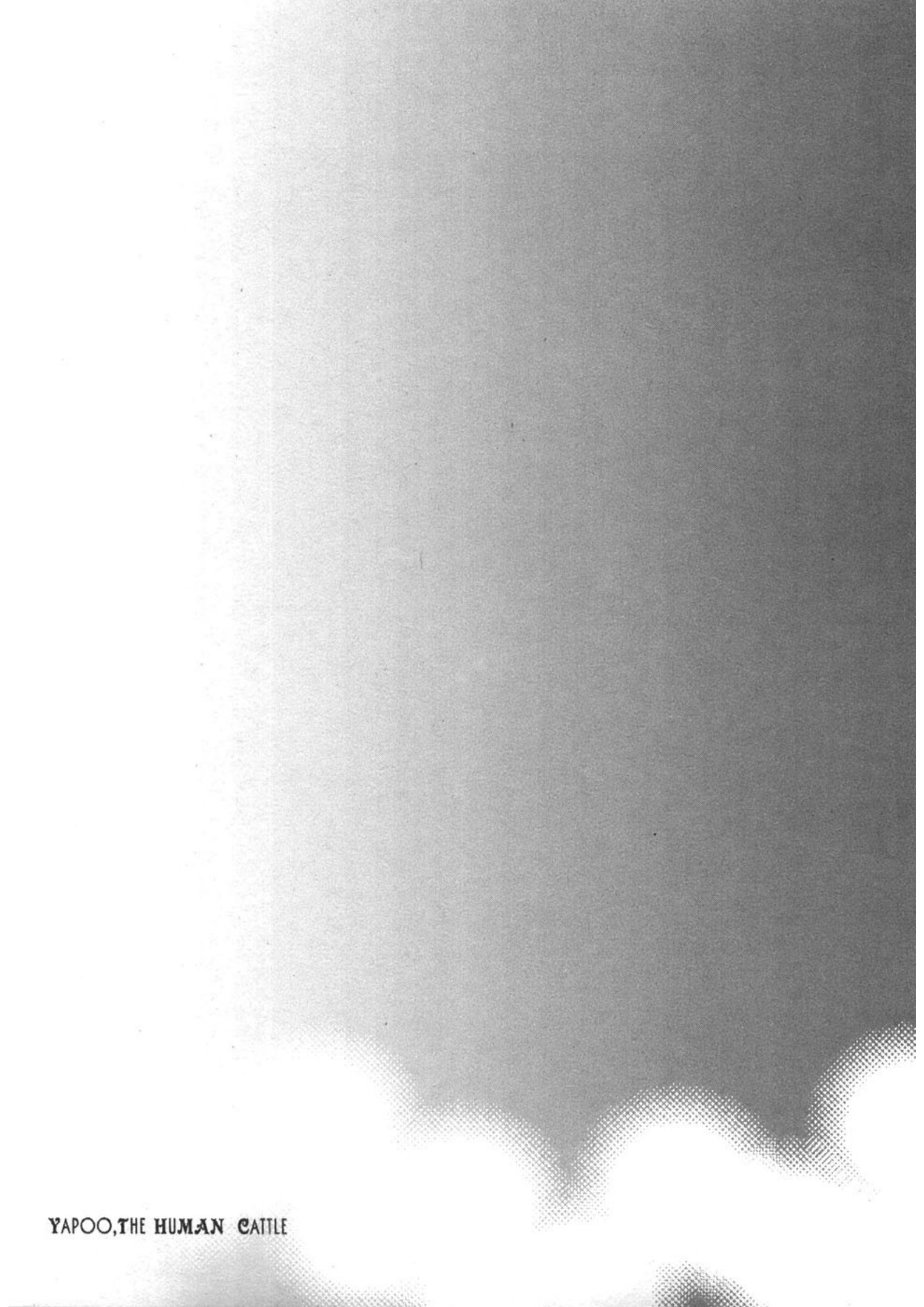
ともあれ
再会も束の間
クララと麟一郎とは
こうしてふたたび
引き離された



恋人同士としての
二人の間は
永久に破綻して
しまったのだ

この次に
両者が
顔を合わせる
ときは

一人のイース婦人と
一匹のヤプーとして
であろう

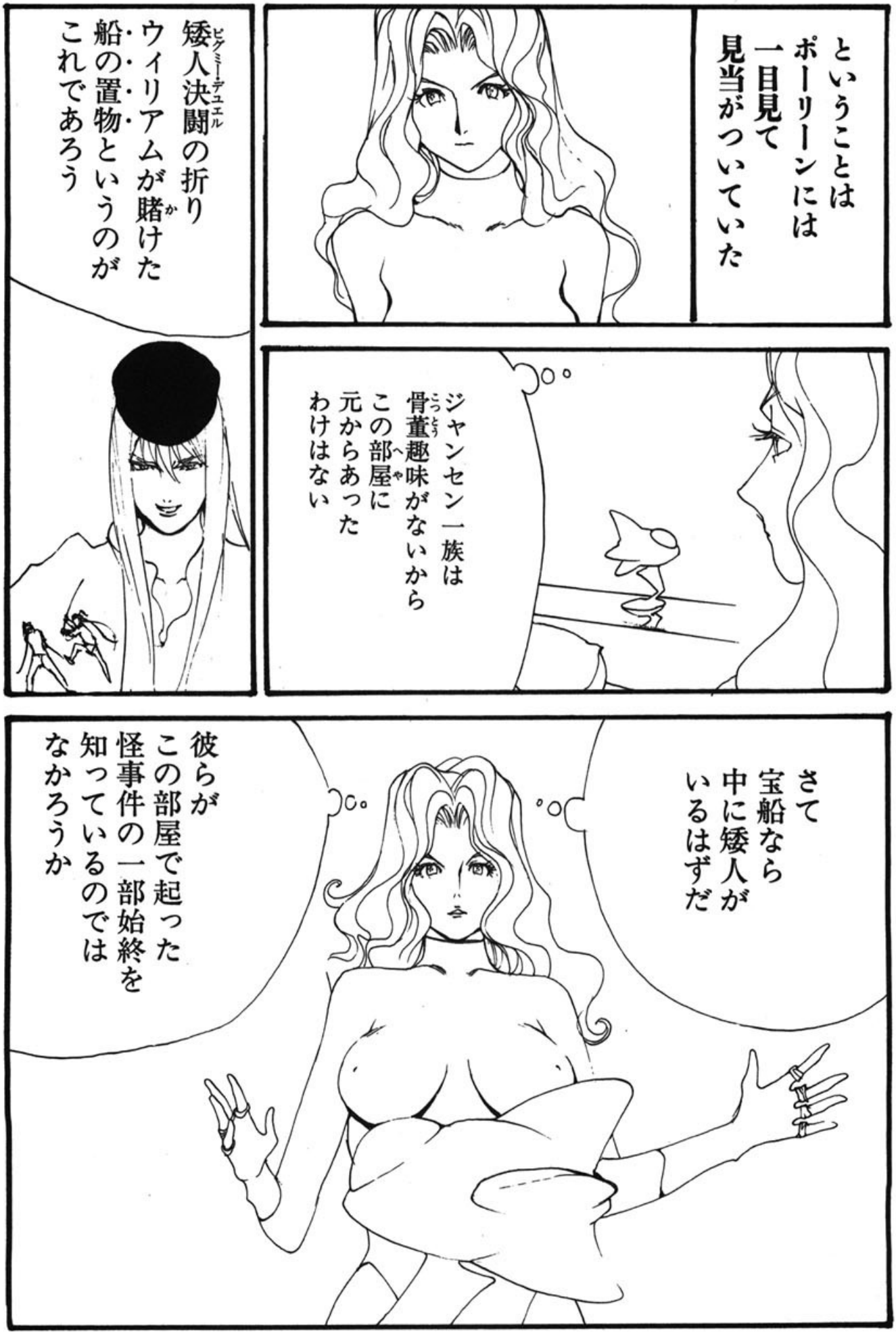


YAPOO, THE HUMAN CATTLE

YAPOO, THE HUMAN CATTLE

旧式宇宙船模型（ロケット・モデル）が宝船だろう

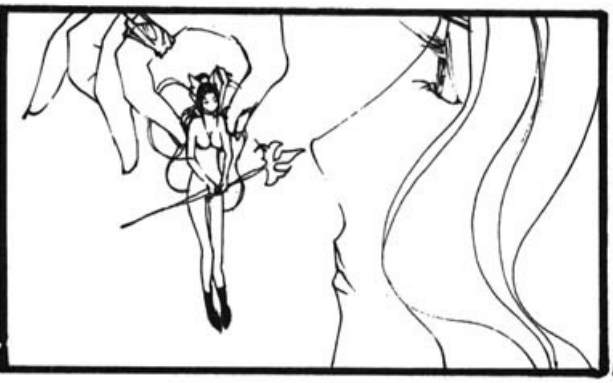
第十四章　二つの手術　―第一話―


ということは
ポーリーンには
一目見て
見当がついていた
ジャンセン一族は
骨董趣味がないから
この部屋に
元からあった
わけはない
矮人決闘の折り
ウィリアムが賭けた
船の置物というのが
これであろう
さて
宝船なら
中に矮人が
いるはずだ
彼らが
この部屋で起った
怪事件の一部始終を
知っているのでは
なかろうか

敏腕な
検事長としての
捜査の勘だった

ポーリーンは
躊躇(ためらい)なく
上蓋(うわぶた)をはずした

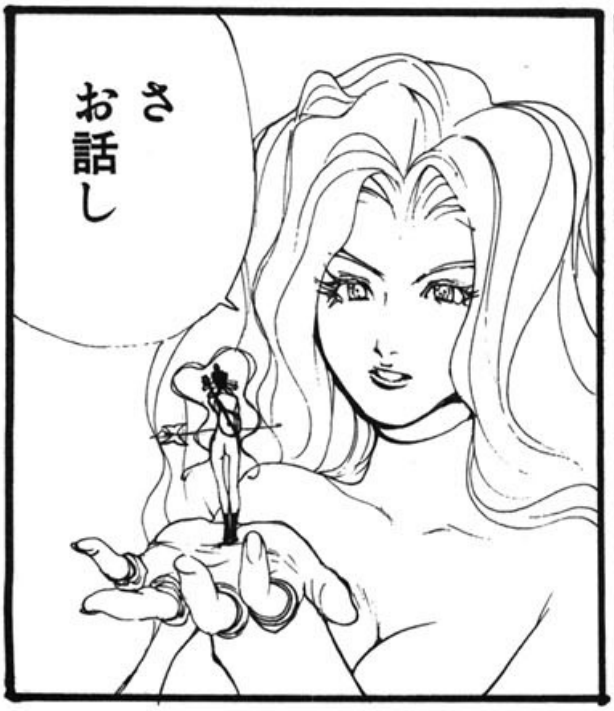
案の定
七矮人(しちわいじん)が
とりどりの
奇形の姿を
さらしている中で



船長格の
弁財天(べんてん)女を
つまみ出すと

そっと
掌上(てのひら)に載せて

さ
お話し



お前の見たこと
聞いたことを
……

弁財天女(※)は
人間の肌に
まごうばかりの
白い肌をした
うら若い美人
だった

手に持った宝槍(※)を
横に置くと
ひざまずいて
最敬礼し

しとやかに
立ち上って
話し始めた

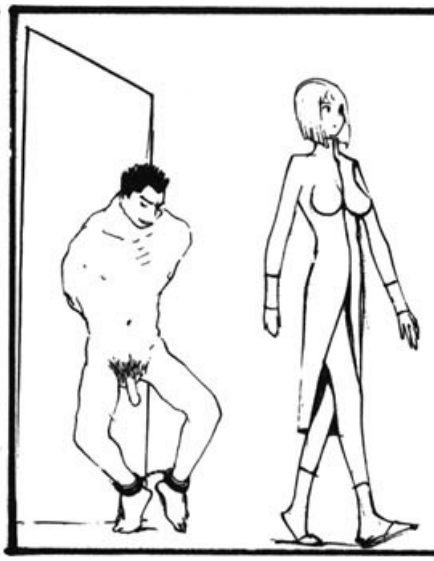
低いが
鈴を振るような
美声である

わたくしは
司令室に立って
覗き窓から
部屋の様子を
見ておりました

※ 白人

※ 昔は多聞天の持物だったもの

女神(めがみ)が
ヤプーをつれて
はいっておいでに
なりました

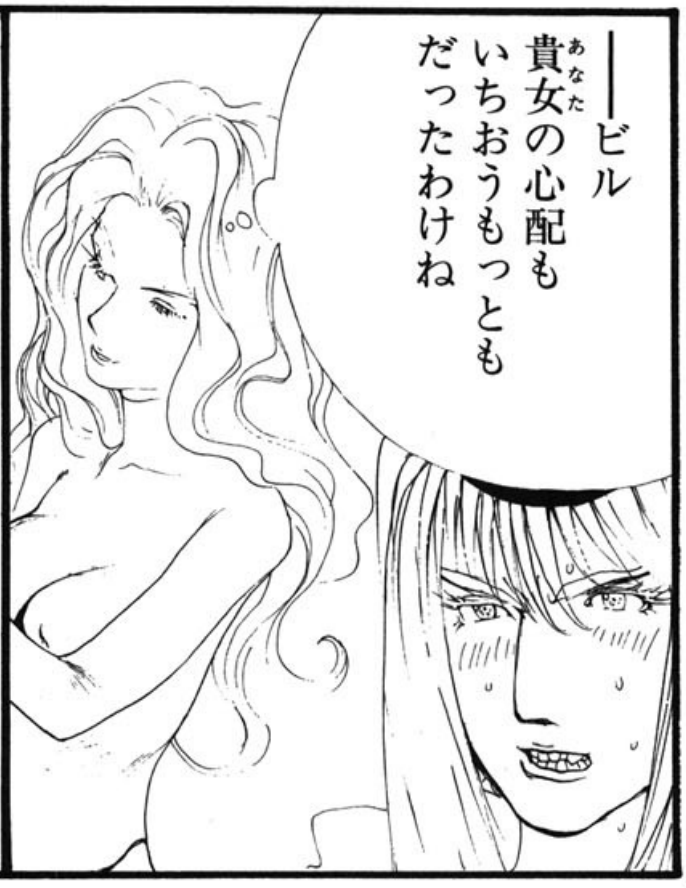


すぐ
手錠をはずして
おやりになります
ので

わたくしは
てっきり女神が
このヤプーを
舌人形(カニリンガ)として
お慰みになるの
だろうと存じて

光悦楽演奏(インタコース・ミュージック)の
用意を
致させました
……

——ビル
貴女(あなた)の心配も
いちおうもっとも
だったわけね



と
ポーリーンは独り思った

ところが女神は
簞笥から服を
お出しになると
ヤプーにお渡しに
なりました

彼はそれを
引きつかむや
何か叫んで
横に放り出しました

わたくしには
わからない言葉で
命令なさりつつ
……

何のことか
わかりませんでした

？

妾にはわかる

クララは
奴に服を着せようと
したのだわ

だが奴(あれ)は
自分が
服の着られない
体になっている
ことを
知っていたのだ

驚きました
ことに

ヤプーは
女神と並んで
ソファに
腰掛けました

話が続きましたが
船内スピーカーで
聞きましても

わたくしには
全然
理解できません
でした

ただ
女神がむしろゆっくりと
頼むような口調で
お話しになるのに対して

ヤプーのほうが
強い怒った声で
しゃべっていました

彼はたびたび
隣室への扉を
指さしました

——ビル
貴女が
奴のことを
嫉いていたように

奴のほうでも
貴女のことを
嫉いていた
らしいよ

お笑い草ね

……クララが
頼んだっていうのは
いったい何かしら？
頼むなんて

ポーリーンには
クララが麟一郎(りんいちろう)を
原球面に
一人帰らせようと
していたことなど
想像(おもい)も及ばなかったのだ

急にヤプーは
飛び上がって
ぴょん
尻(しり)をさすり
もう腰を
おろそうとは
しませんでした
……
――
皮膚反応痛(デルマチック・ペイン)
だわ

ビルは

ヤプーが
寝台の中に
はいるんでは
ないか

なんて
心配してたけど

寝台どころか
強化皮膚には
ソファさえ
許されてないって
ことを忘れていたのね

今度はヤプーが
哀願し始めました

彼は
女神の掛けてらっしゃる
ソファの前に
ひざまずいて
頭を下げました

女神は
断っておられ
ました

―クララは
ヤプーに

お前を
何々にする
つもりだ

と
宣告したに
違いない

奴(あれ)は
その運命を恐れて
決心を変えてくれと
頼んだのだろう

これは
無理もない
推測だったが

実は
麟一郎は

自分といっしょに
原球面に
帰ってほしい

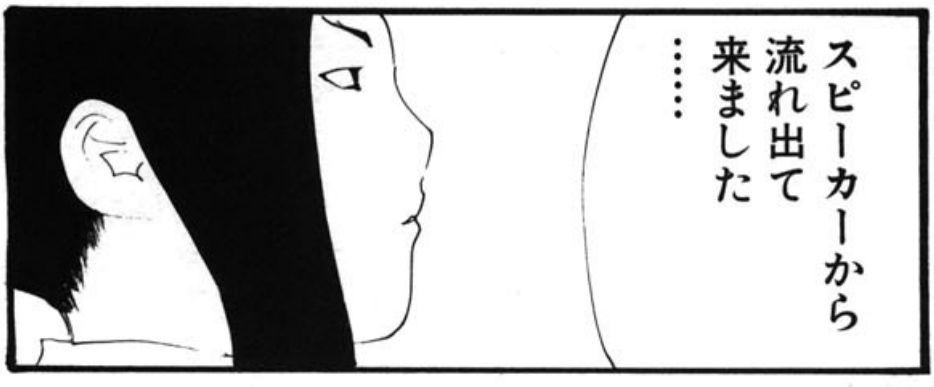
と懇願して
クララに
断られたのであった

ヤプーが
ヤプーらしい姿勢を
取ったことに
満足と安心を
覚えまして

わたくしは
ちょっと
目を放しました

突然
今まで
チンプンカンプンでした
言葉の中に
家畜語(ヤプーン)が混って

スピーカーから
流れ出て
来ました
……



何といったの？

ポーリーンは
思わず口に出して
聞いた

はい
『心中ダ
クララ
オレモ死ヌカラ』
そう聞えて
きました

それで
びっくりして
覗(のぞ)きますと

ヤプーは
自由になった両手で
女神の咽喉元(のどもと)を
締めつけ

女神は
苦しそうに
身悶(みもだ)えして
おられます

ヤプーの
恐ろしい形相(ぎょうそう)と
今の言葉

それで
非常措置として
催眠楽(スリーピング・ミュージック)を
平生の倍の強さで
演奏させ

無理心中を
図っていたことは
疑いようがありません

さらに
五倍に増幅して
放送しました
……

この宝船は
自動演奏具(オルゴール)兼用
なのね？

はい
多聞天(びしゃもんてん)が
小伶人(リッツル・ミュジシャン)血統で
ございますので
……

——
そうだったのか

それが
珍しい品
というわけ
だったんだわ

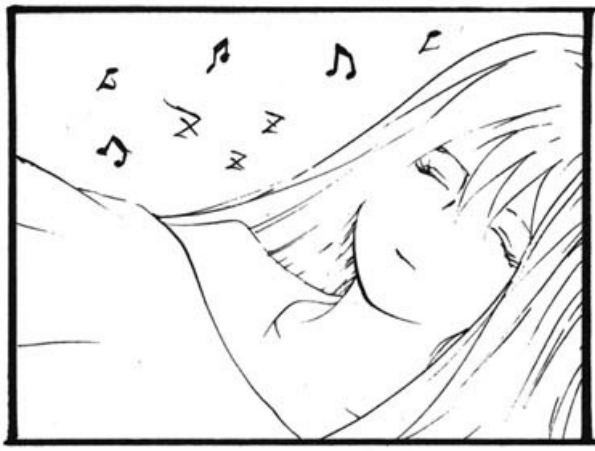
やっと
昏睡現象の
謎が解けた

就寝時に
催眠楽を奏する
自動演奏具

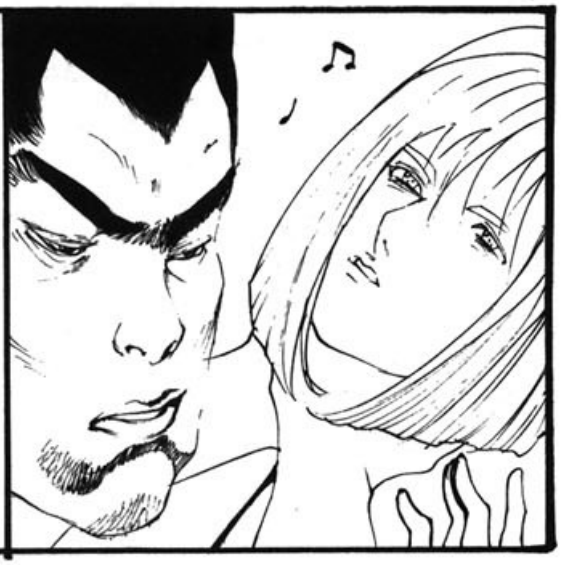
副次的に
人間の
鼓膜にのらぬ
高周波の
昏睡波動（コーマ・ウェーブ）を伴う

その催眠楽は
耳で聴いては
子守歌に
過ぎないが

常は
徐々に人を眠りに
導くだけだが

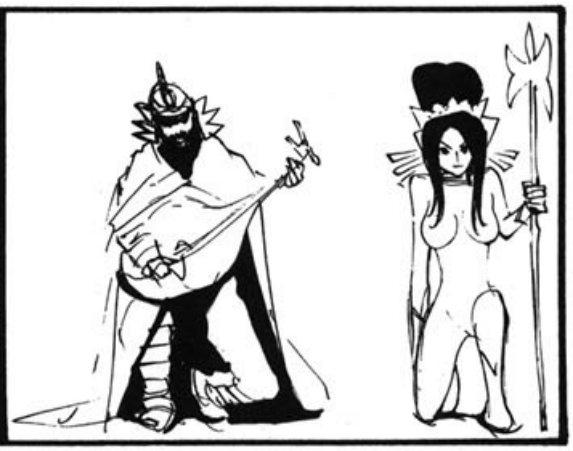


この雌矮人の
機転のおかげで
クララは
危ういところで
ヤプーの暴力から
救われたわけだ



それが十倍に
強化されて
麻酔短銃(ナルコチック・ピストル)で撃ったのと
同じ効果を
示したのだ

よくやった
ごほうび

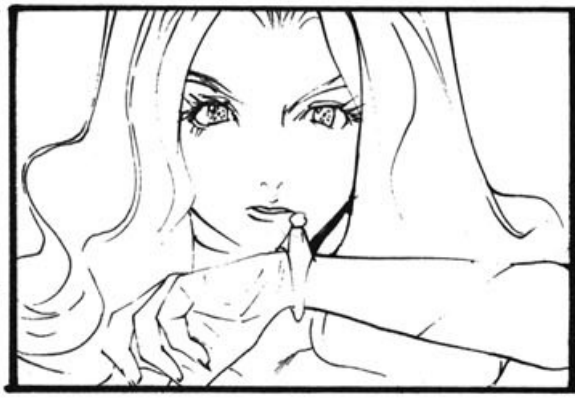


弁財天(べんてん)女と
彼女の
昔の持物だった
弦楽器を抱いている
多聞天(びしゃもんてん)と

二匹に一口ずつ
唾(つば)を吐き与え

感激に
頬(ほお)を紅潮させて
恩賜の聖唾(サリバ)を
すすり始めた
小動物を
横目に見ながら

ポーリーンは
腕送話器(リスト・マイク)に
命令した

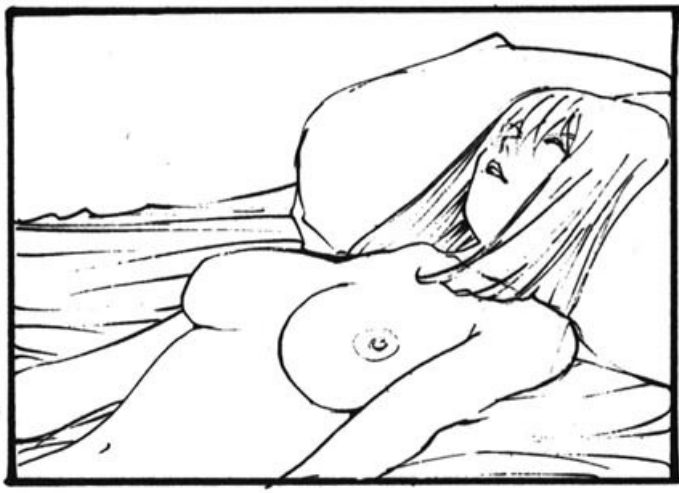


アレマン医師を
大至急
この部屋に
よこしておくれ

極秘で
簡単な
手術道具を持って
……

寝台の
クララは
身動きひとつ
しない

昏睡波動の
襲うまえに
気絶していたのかも
しれない



首を絞められて
失神したクララと
違って

麟一郎は
黒奴の肩の上で正気づいた

昏睡(こんすい)が
浅かったのだ

――
クララを
殺してしまったのに
俺(おれ)はまだ
生きている……

悔恨が
胸を噛(か)んだ

黒奴は
地階の裏庭の
下に当るあたりに
立てられていた
原畜舎(ローヤプー・ホールド)まで
降りて来た

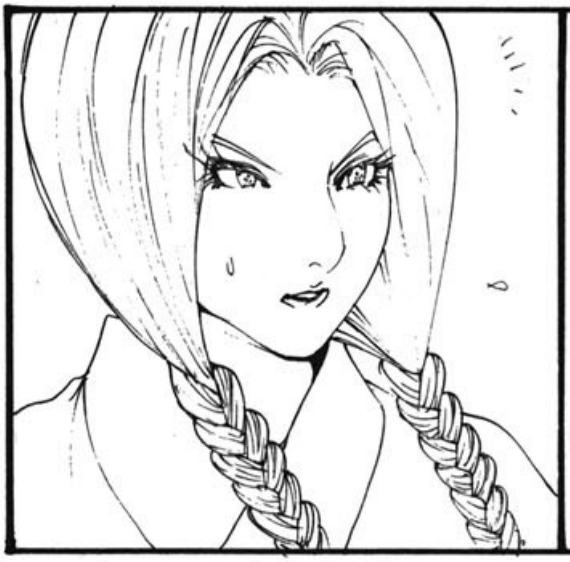
自殺の機会を
狙(ねら)おうと
決心した

ちょうどその時
ドレイパア伯爵夫君
セシルが居合せた

彼は
出発前やった生餌(いきえ)を
巨大蜘蛛(ジャイアント・スパイダー)が
もう食べたのを
調べたあと

晩餐(ばんさん)前の一刻を
原ヤプーの調教に
費やしたが

ここで
今しがた
例のヤプーが
さっき地階で大暴れした
という噂を
聞いたところだった



そこへ
やって来たのが
まさに噂の
ヤプーではないか

見れば
手錠・足錠が
つけられている
……

御用中※(イン・ハー・サービス)

※ これは欠礼の挨拶(あいさつ)である

と
通り過ぎようとする
従者A3号を
セシルは呼び留めた

黒奴は
ヤプーを
肩からおろして
立たせ

待て
どこへ行く

このヤプーを
予備檻(スペア・ペン)に
入れますので……

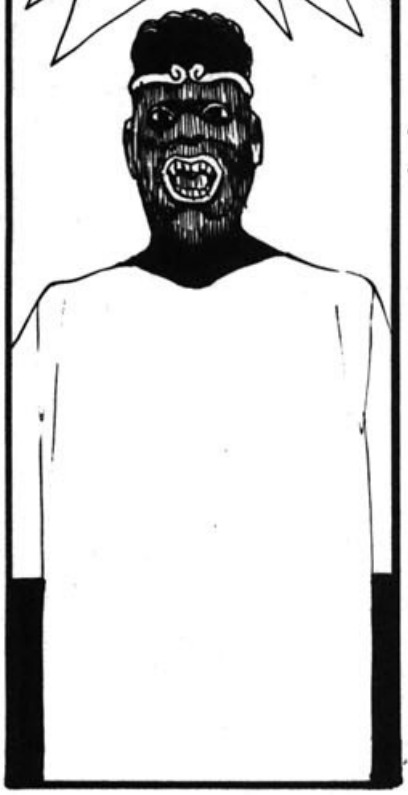
予備檻(スペア・ペン)？
そうじゃ
あるまい

特別檻(※スペシャル・ペン)だろう
決ってるじゃ
ないか
馬鹿！

※ special pen

白人から
そう決めつけられると

は
特別檻（スペシャル・ペン）で



自分が
聞き違えていたに
違いない

という気になり
黒奴は

と
確認すると

この白人こそ
船中で
自分に好意を
示してくれた人だ

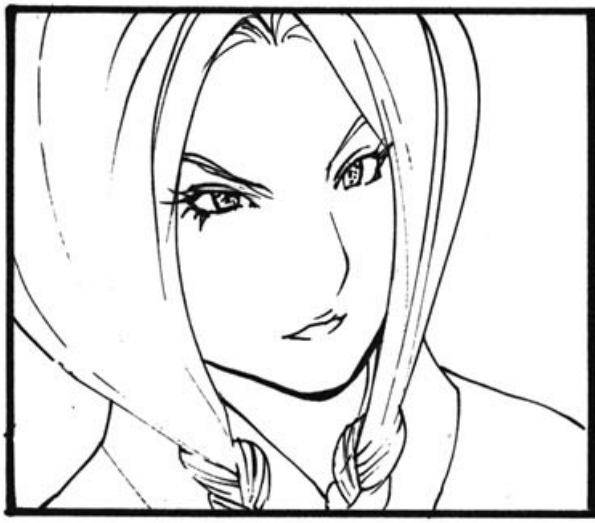
麟一郎は声の調子と
着物の裾模様（すそもよう）から

貴方(あなた)
先ほどはどうも

ヤプーは
人間に
話しかけては
ならないが

そう呼び掛けると
さっそくあれ以後の
黒人の非行を訴えた

未訓練の
土着ヤプーは
その禁令が
わかってないから
例外である



だから
セシルは
話しかけられたことには
平気であったが

先ほどは
どうも

という
挨拶には
驚いた

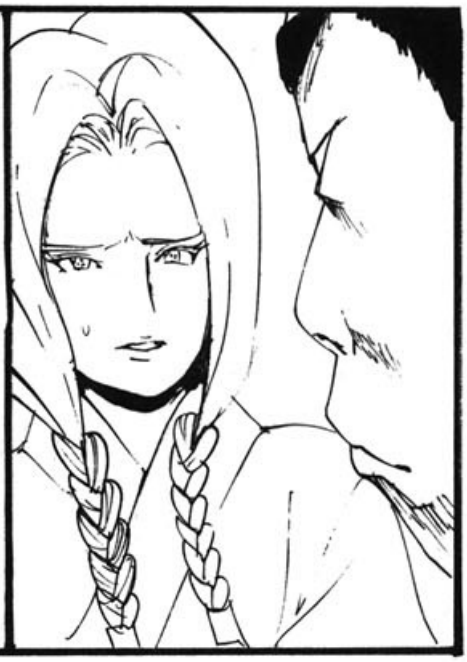
そして
さらに
このヤプーが

黒奴が
彼の命令を濫用して
悪戯(わるさ)したためである

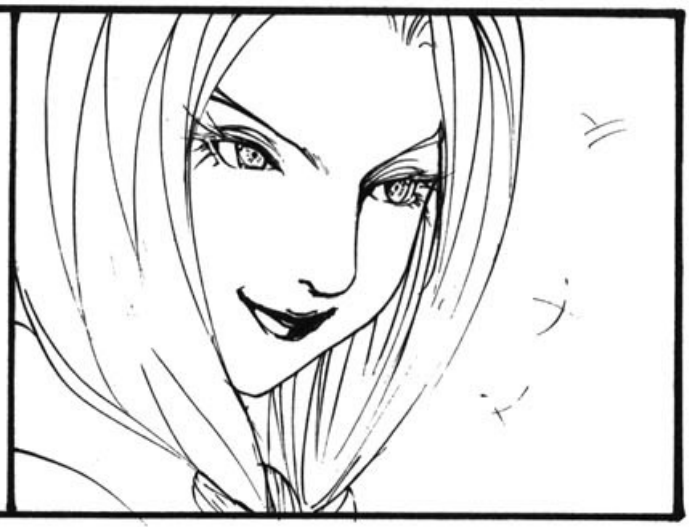
自分が
服の着られない
体になったのは

と
信じきって
いるのを知ると

このたくましい
原ヤプーの
知能の低さを
哀れみながらも

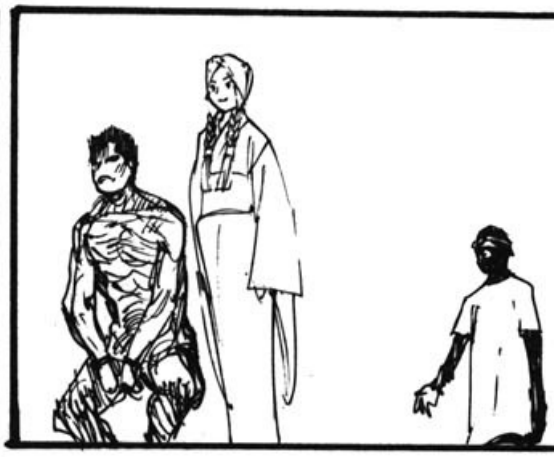


セシルは
笑い出さずに
いられなかった



その笑顔(えがお)を

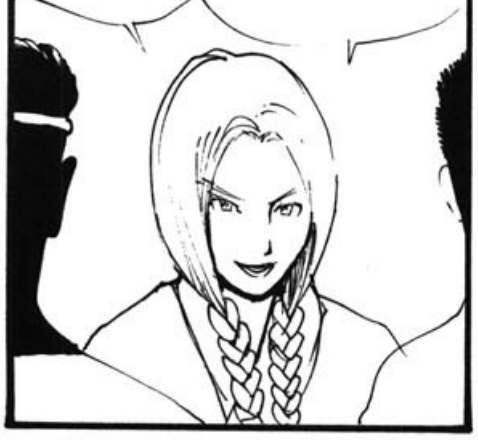
また麟一郎は
彼への好意の印と
思ってしまったのだから
始末が悪い



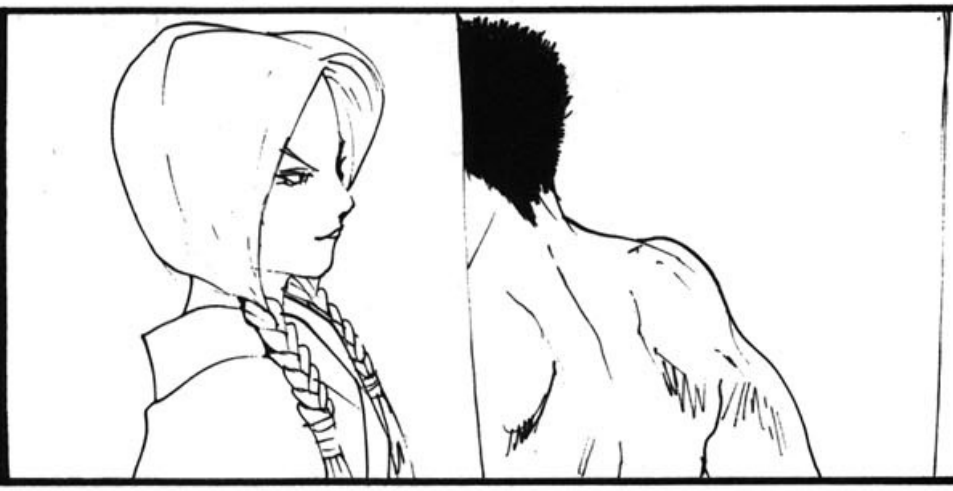
一人と一匹が
こうして並んで

ある扉(ドア)の前まで
来ると

この中へ入って
待つがいい
悪いようには
しないから
……A3号
錠をはずしてやれ



この一言で
ますますセシルを
親切な人と
信じ込んだ
麟一郎は



彼の言葉を
寸毫(すんごう)も疑わず
扉を開けて
中へはいっていった

さっき
檻(ベン)という言葉が
話されていたが
ここには鉄格子もない

明るく照明された
殺風景な八畳敷くらいの
一室であった

造作といっては
中央に奇妙な腰掛？
があるだけだ

細長い鞍馬状で
背中の寄懸もなかった

奇妙な形だったが
四脚から見て
腰掛以外の用途に
用いられるものとも
思えなかった

ほかには
何もない真っ白な
床と壁に
脚の黒色と
背面の黄色が
よく映えていた

麟一郎は
何気なく近寄り
跨って
休もうとしたが

ふっと
先ほどソファに
うっかり腰をおろして
ひどい目にあった
ことを思い出し

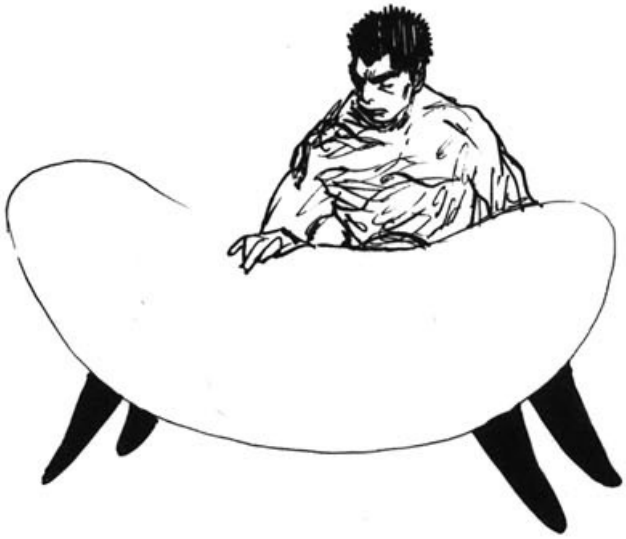
布地が
張られていないか
どうか
手でさわってみた

——
生きている
！

そういう
直感があった

手には
例の肉質金属の
弾力に富んだ
肌触りしか感じない

しかし
その全体から
「生物（いきもの）」
の印象を
受けるのである



生体家具（リビング・ファニチュア）というのではなく

人間とかヤプーとかいった高等生命体とは全然別種の

いわばなまこやひとでを眺めて感じるときの

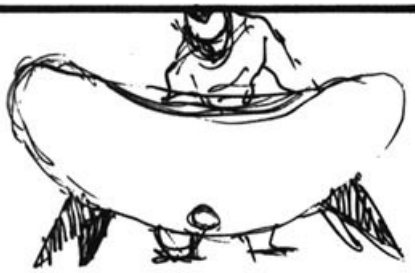
あのような「生命」の認識だった

——いやこの時にはまだ認識というより予感だったが……

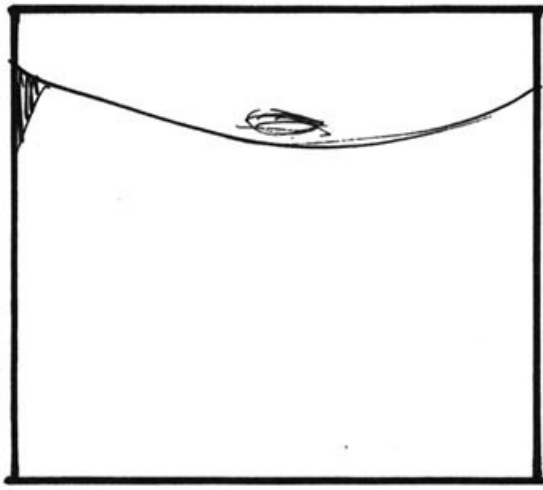
無気味さに麟一郎は思わず後退（あとじさ）りしようとした

その瞬間

鞍形胴体の
下腹部

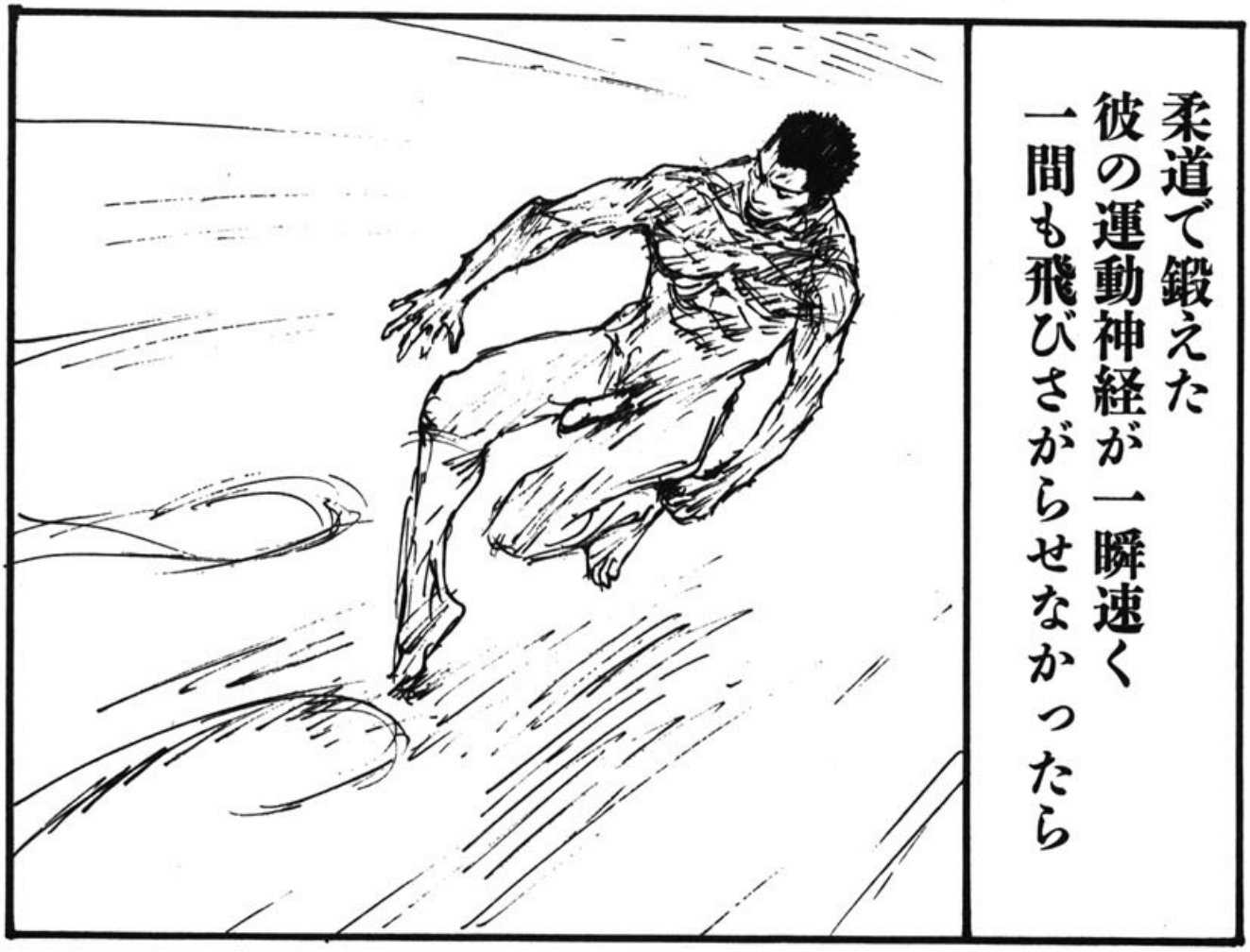


ちょうど
鐙(あぶみ)の垂(た)れ下る
両側の部位から



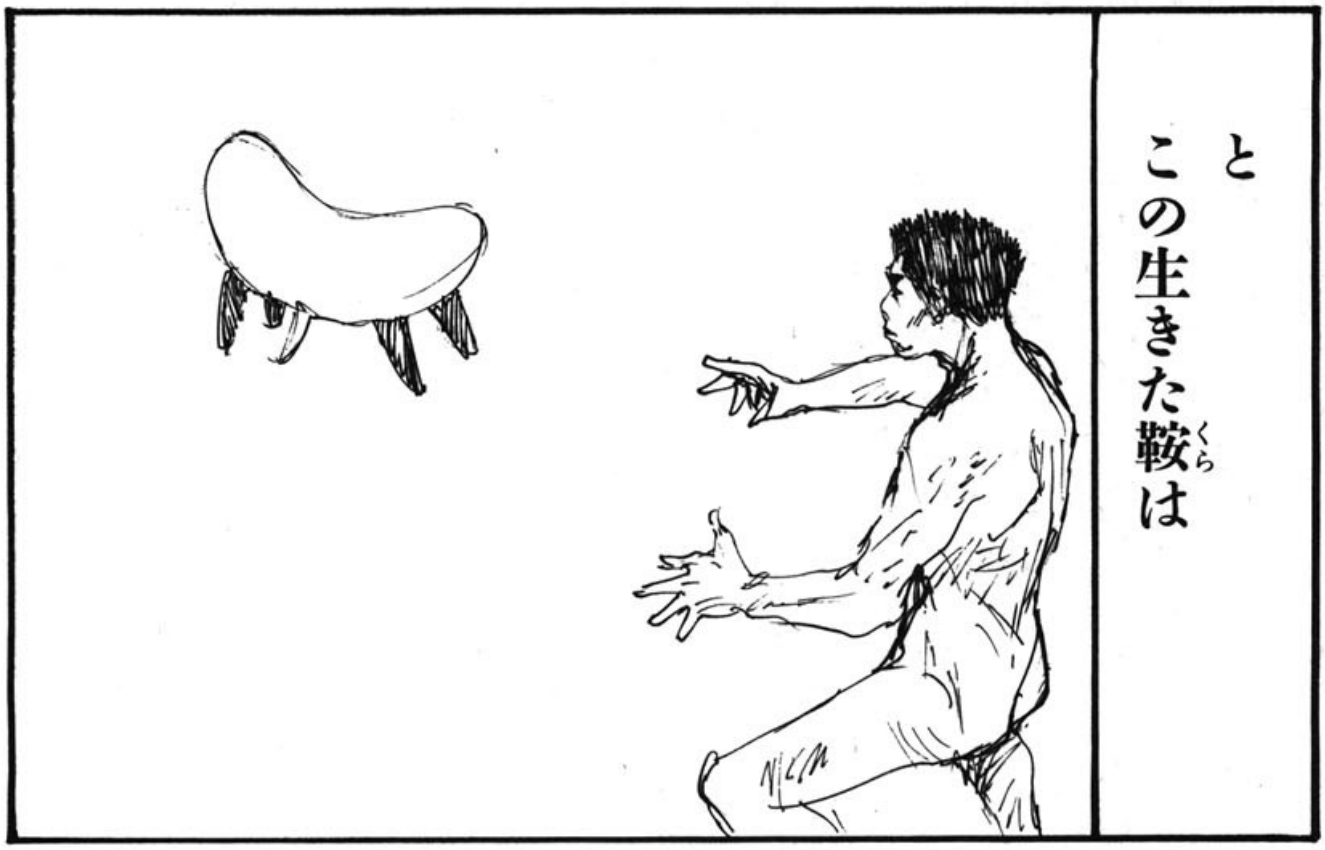
サッ

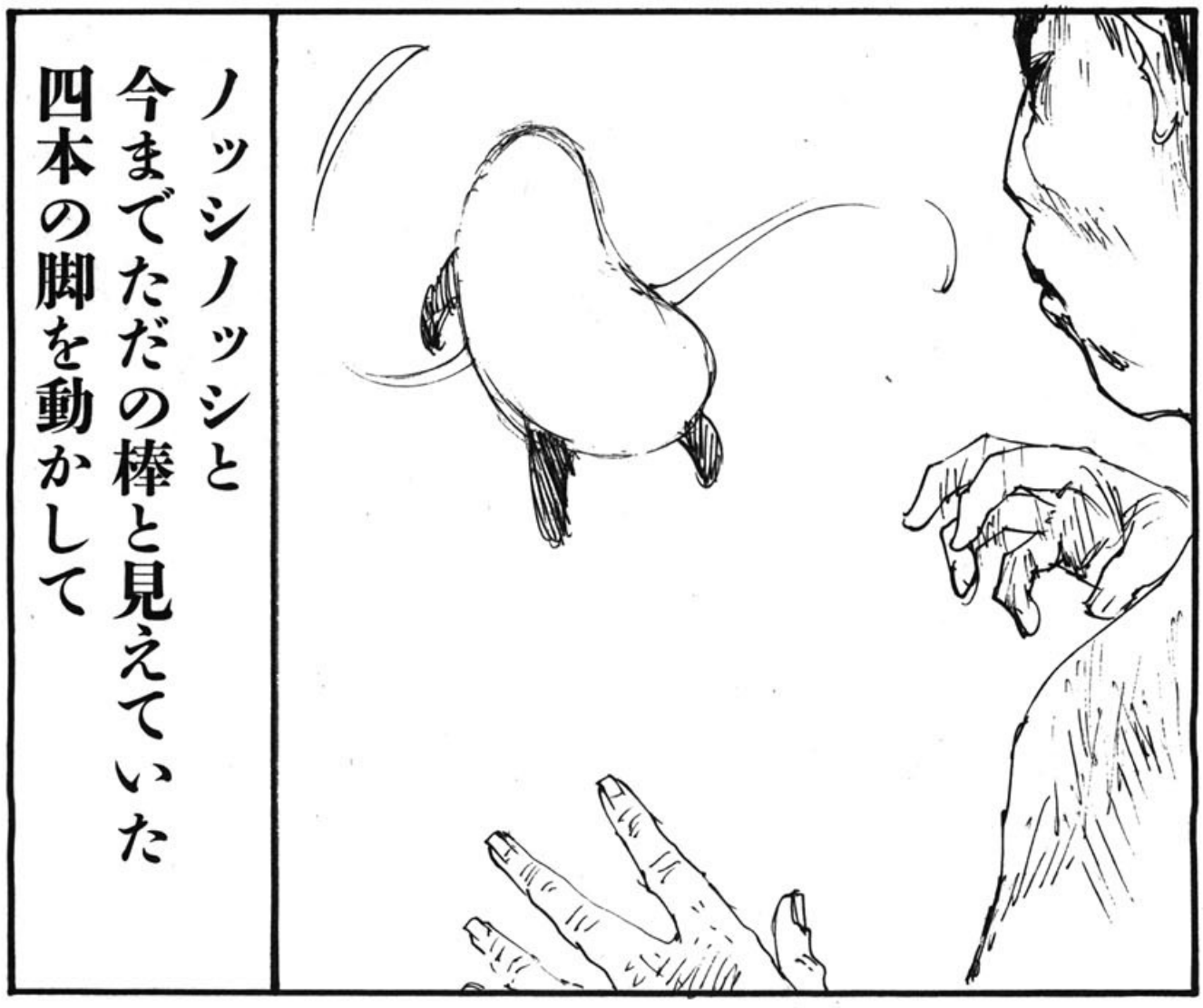
と
二本の触手が
飛び出して来て
彼の両脚を
とらえようとした



柔道で鍛えた
彼の運動神経が一瞬速く
一間も飛びさがらせなかったら

彼は
簡単につかまって
いたに違いない

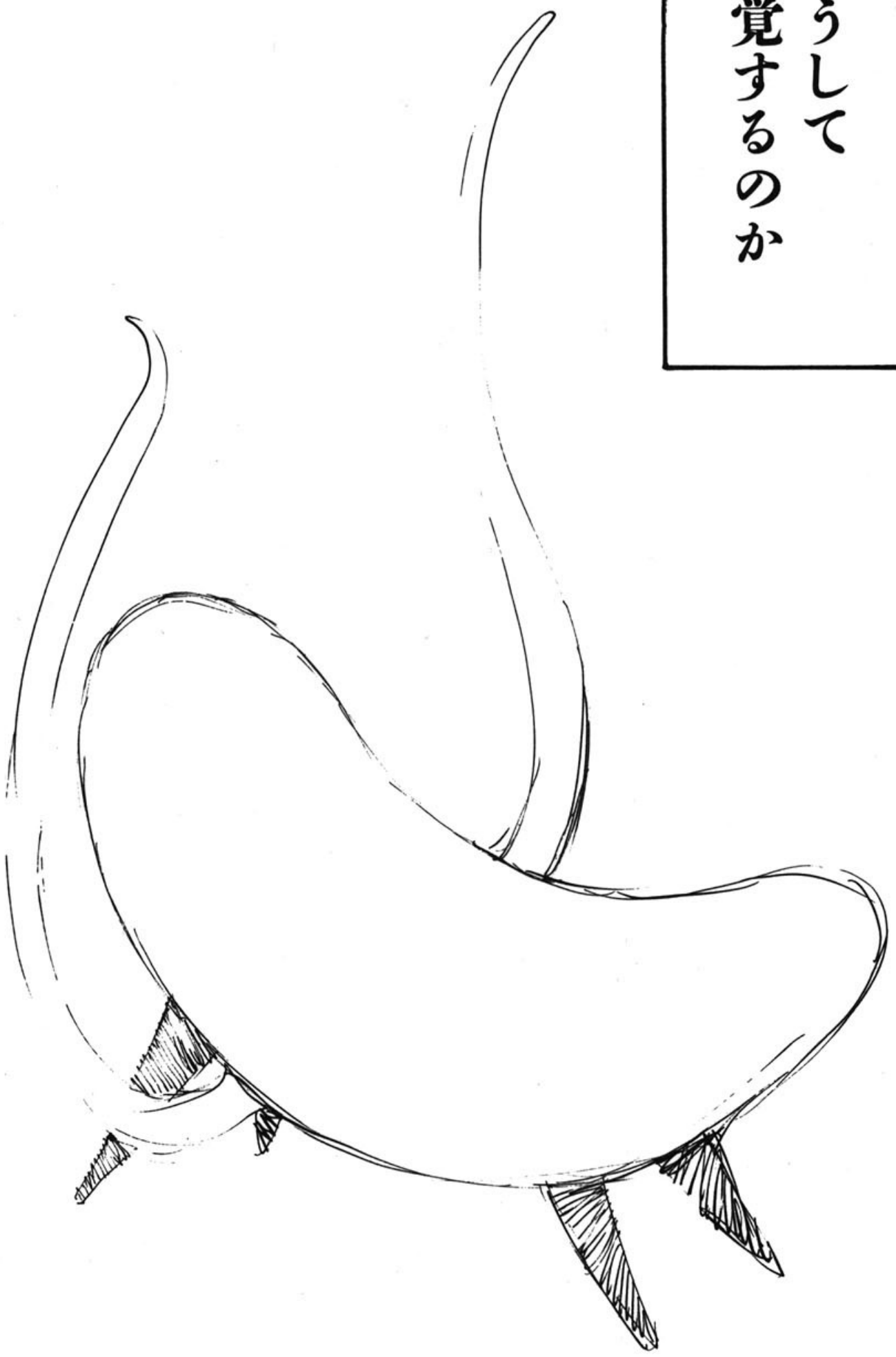

と
この生きた鞍(くら)は


ノッシノッシと
今までただの棒と見えていた
四本の脚を動かして

触手を
振りつつ
隅(すみ)に立っている
麟一郎のほうに
寄って来る
ではないか

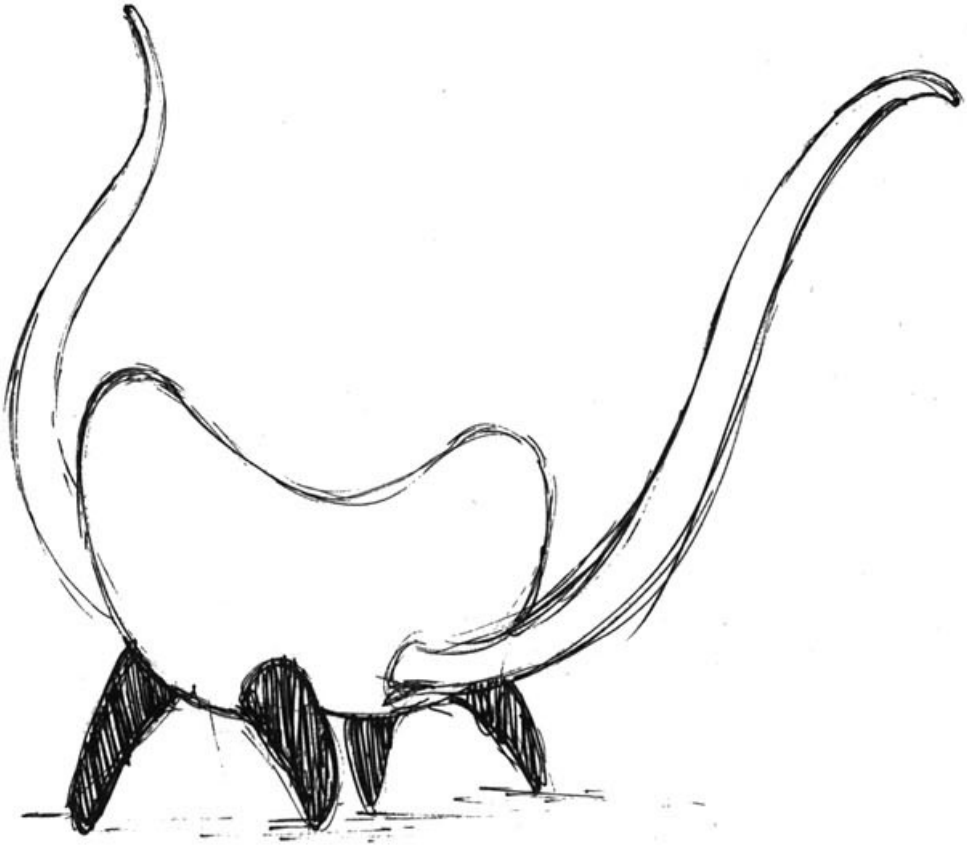
彼が
素早く
他の隅に
まわり込むと

どうして知覚するのか



確実に
彼の位置を
探り当て
方向を変えて
寄って来る

ゆっくりだが
歩みは
確かだった



特別檻（スペシャル・ペン）の中で
麟一郎を
追い回していた
動く腰掛は

去勢鞍
カストレイチング・サドル

と称（よ）ばれる
人工合成による
生物の一種
なのであった

蛋白質の
合成に始まる
生命体の人造は

『イース』においても
長い歴史を
閲していたが

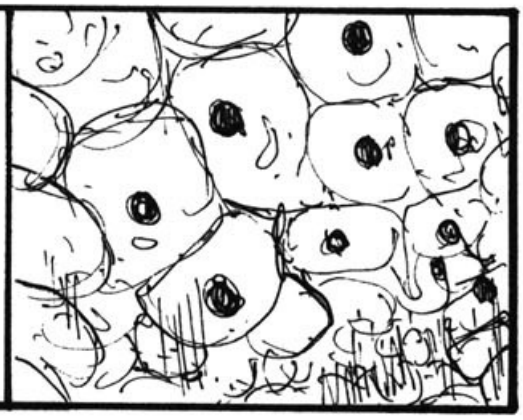
DNA
組換えによる
遺伝子工学の
発展も

生物進化の跡を
たどり尽すには
研究室内の
二千年の時間は
あまりに短く

今まで
せいぜい
腔腸動物
程度のものが
合成されたに
すぎなかった

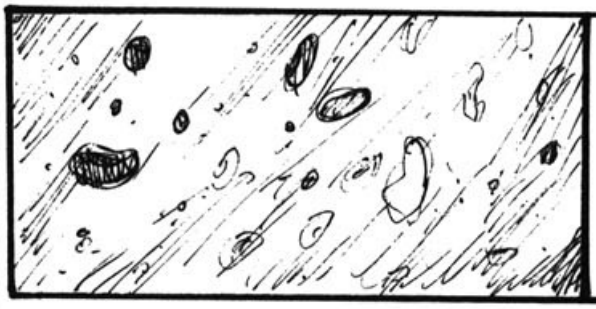
しかし
天然に存在する
生物と同じものを
作ろうとあせらず

人工で別種の生命体を
作り出そうとする試みは
予想外の成功を示した



原形質細胞の
代りに
肉質金属粒子

血液として
特殊な
科学溶液



神経作用は
電磁気——

これらを
統合する脳髄として
小型人工頭脳

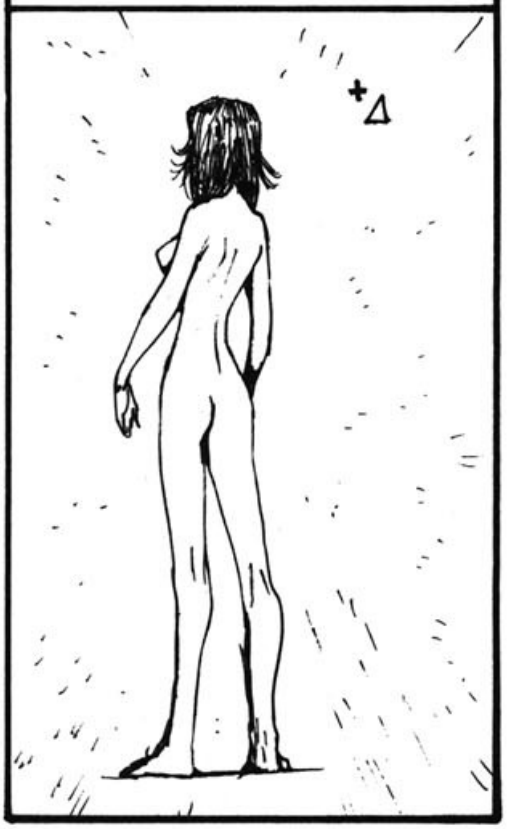
——
こうして
出来上った作品は
動物体の持つ
あらゆる特徴を示し

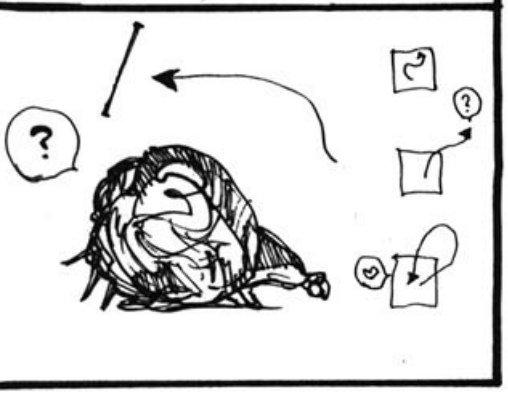
ただ生殖による
再生産の能力を
欠くだけだった

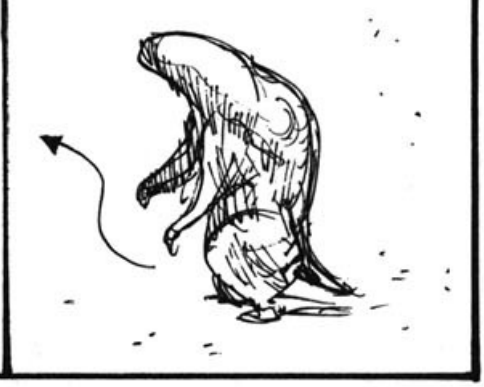
その最高のものは
後章に登場する
ダイシー・タイプ
のような

陽電子頭脳(アシモフ・ブレイン)を
備えた
アンドロイドたち
であるが

予定された枠(わく)
以外での
適応行動という
知性能力は
示し得ないが

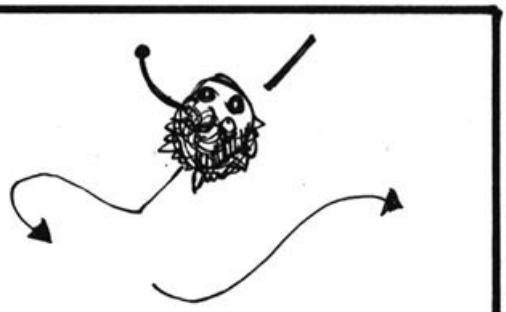






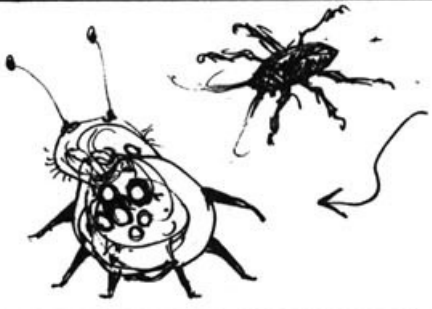
そこまで
高度な作業を
要求しない場合のため
本能行動をするものも
作られている

それは
あらかじめ
一連の作業を
本能化しておくと



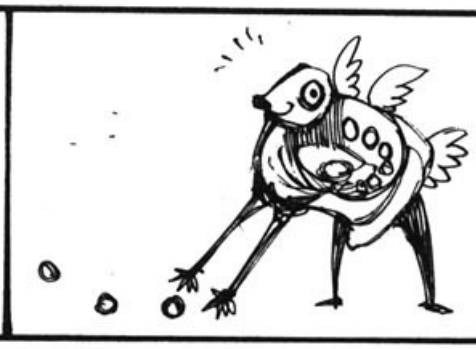
忠実に
正確に
遂行する

本能的行動としては
ずいぶん
複雑高次な段階に達し



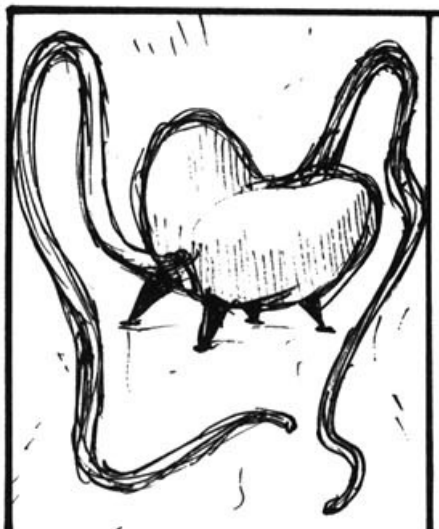
ほぼ
昆虫類と
同程度に並ぶ

これが
人工動物（アーティフィシャル・アニマル）
である



そこで
いろいろな作業が

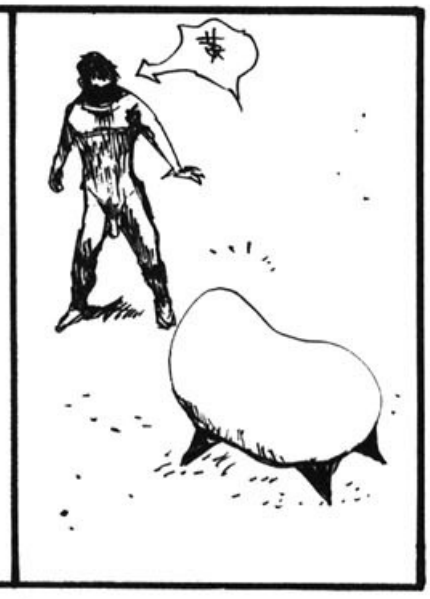
こうした
人工動物に
委（ゆだ）ねられることに
なったわけである



「去勢鞍（カスト・サドル）」
というのも
その一つで

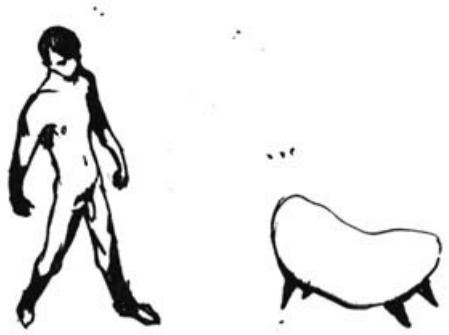
原ヤプー（ロー）の
去勢手術をすることを
本能にしている
人工動物であった

その
真っ黄色の
背部表面は



相手の肌色（はだいろ）が
黄色である場合にだけ
反応を起すための
識別器官である

表皮中の
メラニン色素を
一瞬のうちに
定量分析して
しまうのだ



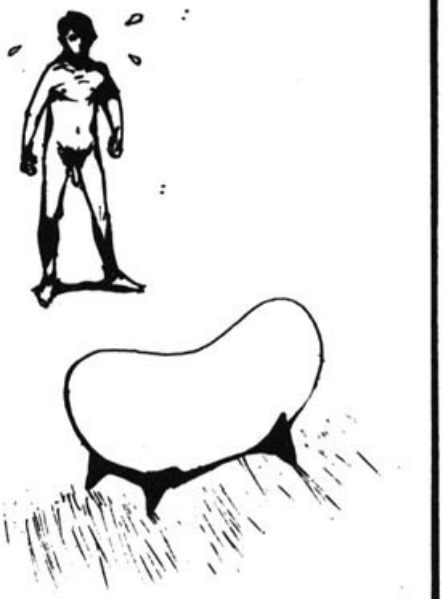
白人や黒人には
これは単に
鞍馬状の腰掛に
過ぎない

しかし
肌の黄色い奴が
掛けると

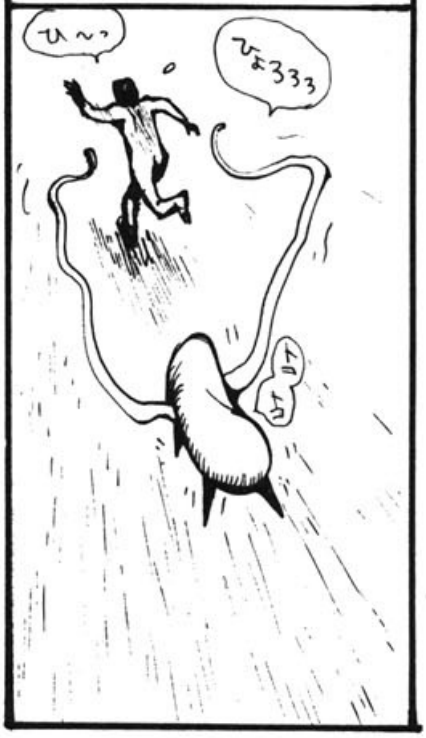
この鞍は
恐るべき
去勢機械
として作用する

そして
近くに
黄肌の奴がいて

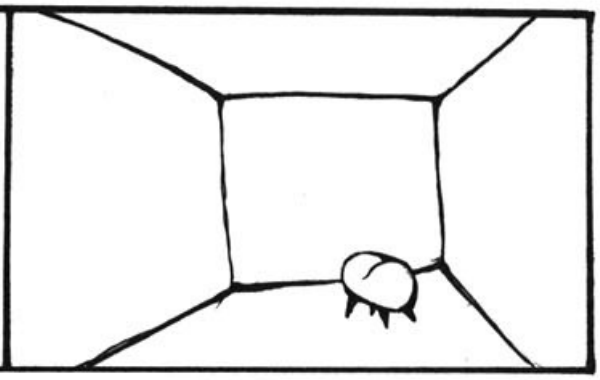
しかも
台に乗らない場合



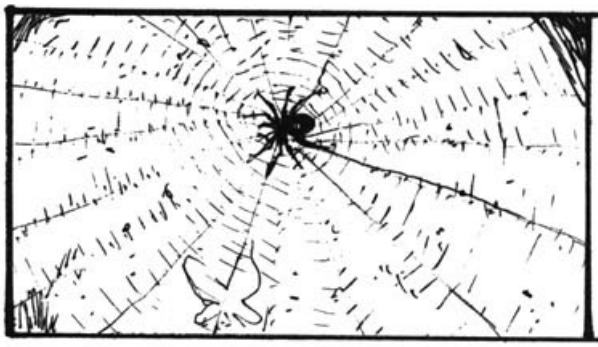
それを
捕えに行く



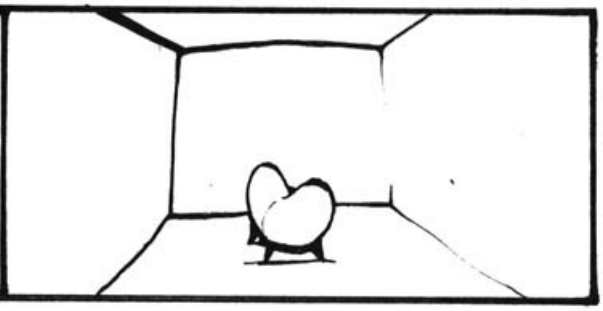
どんな
敏捷(びんしょう)なヤプーも
結局は彼の蝕食(えじき)に
ならざるを
得ないのだ



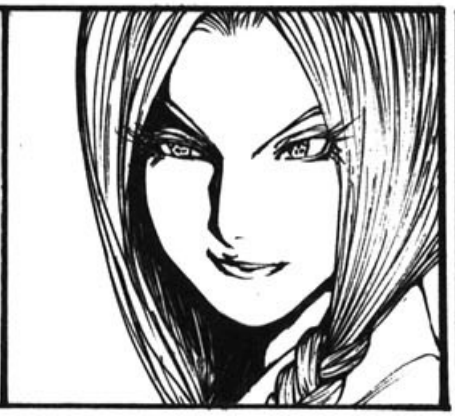
行動範囲は
特別檻と呼ばれる
白色平面で囲まれた
空間に限られるが



蜘蛛(くも)が
自分の巣に
おけると同じく

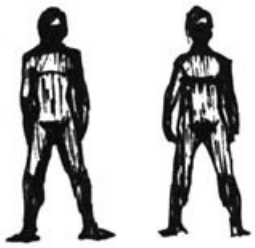


この檻(おり)の
内部にある限り
はなはだ有能で



ところで
セシルが麟一郎を
この檻に入れたのは
どういうわけ
だったのか？

いったい原ヤプーは
必ずしも去勢
されなければ
ならないものでは
ないのである



×

○

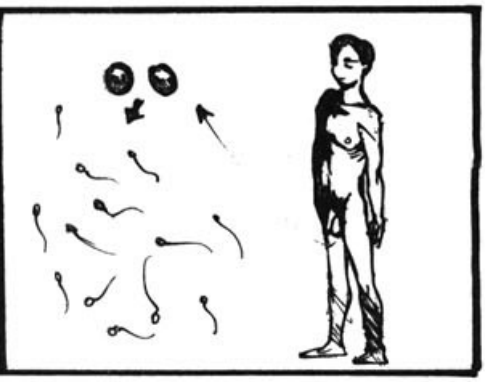
ことに以前は
去勢してしまっては
雄心が減じて
鞭打ちを忍耐しやすく
するので

調教するうえでの
楽しみがなくなる
という理由と

去勢してしまうと
後で仔胤(こだね)を
取りたいとき困る
という理由から

原ヤプーは
去勢しないのが
普通だった

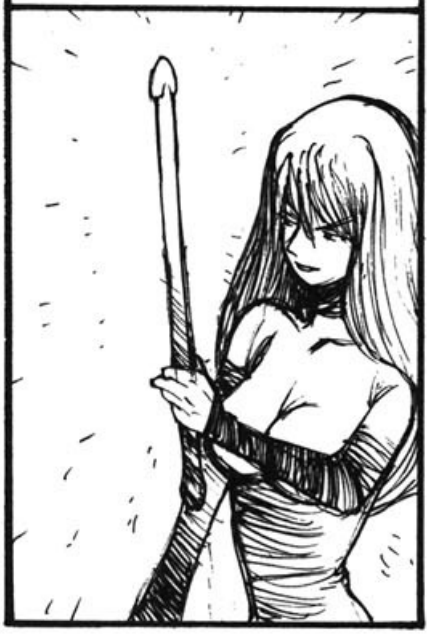
ところが
畜乳中の
男性ホルモンにより
去勢ヤプーも
女性化する心配が
なくなったこと

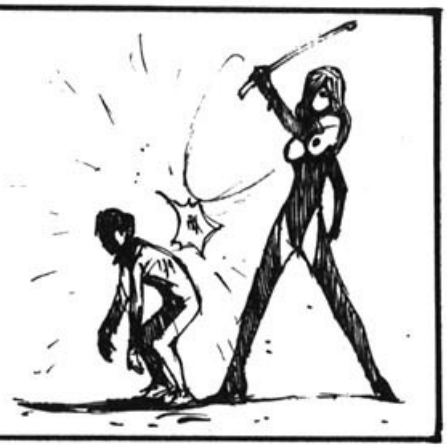


剔出睾丸(てきしゅつこうがん)を
精虫銀行(シメン・バンク)に預けて
いつでも仔種(スパーマ)が
引き出せるように
なったこと

などから
この反対理由が
なくなった

また一方には
上流人士の
珍棒(チンポー)愛好





ことに
自己珍棒訓練(セルフ・チンポーディシプリン)の
流行があり
このころでは
原ヤプーの
約半数が去勢される

だから
ヤプーの大暴れの
噂(うわさ)だけ聞いて
その後の出来事を
知らなかった
セシルが

客室から
手錠・足錠で
送られて来た
このヤプーを

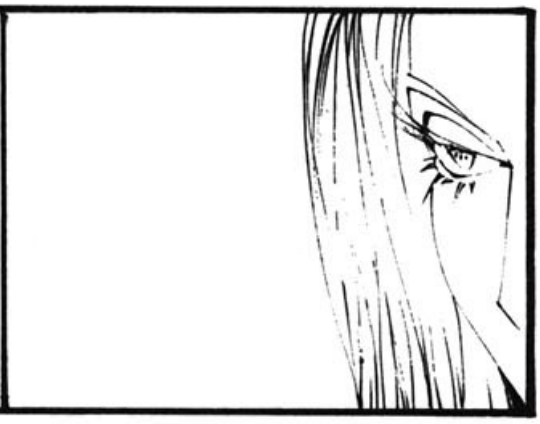
特別檻行き

と
思い込んだのも
無理はないので

「ヤプーの
処分は
持ち主の
意思に従う」

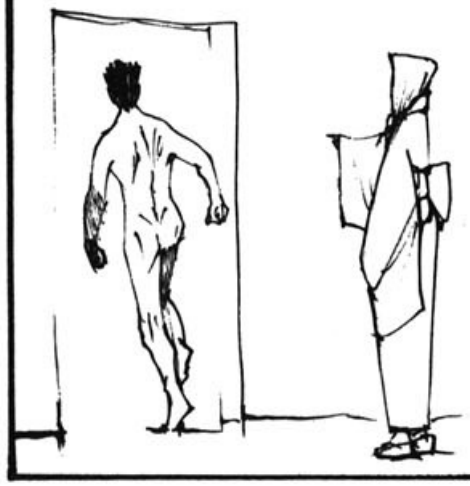
という原則から
いちおうクララの覚醒まで
予備槍(スペアーペン)に
入れておこうとした
ボーリーンの意図は
セシルには通じなかった
そして
ドリスやウィリアムが
それぞれクララに
贈物をしたとき以来
自分も何か
と
考えていた
セシルは
このヤプーを去勢し
珍棒を作ることになれば
自分が立派な握り柄(ヒルト)を
プレゼントしてやれる

と
とっさに
思いついたので
――



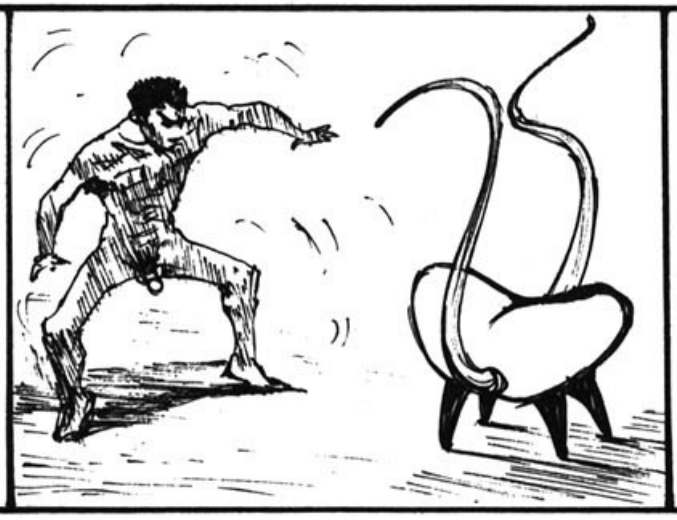
一つは
そんなこともあって
spare pen を
special pen と
誤解したのだ

――
すっかり乗気になって
特別檻に直接
このヤプーを
送り込むことまで
執行したのだった



檻の中では
麟一郎が
ハッハッと
口から舌を
吐き吐き

襲いかかって来る
怪物から
辛うじて
身をかわすのに
精一杯である



もう
時間の問題であった

クララの寝台のわきでは
医師カルロス・アレマンが
ちょっとした
外科手術をしていた

彼は
年のころ三十五くらい

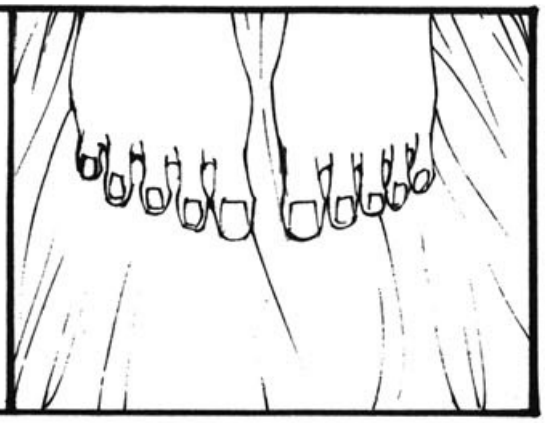
南欧系で
黒い髪
灰白色の肌(はだ)

背はあまり高くなく
性格をそのままの
情熱的な目に黒い瞳(ひとみ)だった

しかし争えぬもので
表情にどこか
卑(いや)しげな
ところがあり
一見して
平民(プレブス)であるとわかる

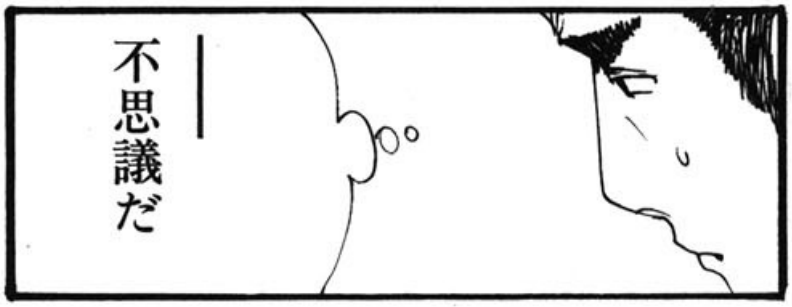
御用医師団の
一人として
若夫人に随行して
やって来た
練達の外科医だった

彼の
目の下には
象牙を
刻んだような
美しい足と



それに
貝殻を嵌め込んだとも
たとえたい
趾の爪とがあった

……ただ
それが
五つある！



――不思議だ

こんな
可愛い足の持主に
こんな奇形が
出るなんて……

メスで小趾を
削りながら
彼は心につぶやいた

染色体医学の
発達が
肉体形質の
奇形因子を
絶滅した

と
彼は学んだのだ

学者の常識としては
隔世遺伝(アタビズム)としてでも
五趾爪のイース人が
存在するはずが
ないのだ

しかも
眼前のこの患者は
明らかに
小趾に爪を持っている
小趾自体も大きい

――
いったい何者だろう
きっと美人に
違いないが……

まさか
検事長の
ジャンセン若夫人が

隠れて前史時代人を
連れて帰るなどという
重大犯罪を犯した
とは知る由もない
アレマンは

なお
不思議でしょうが
なかったのだ

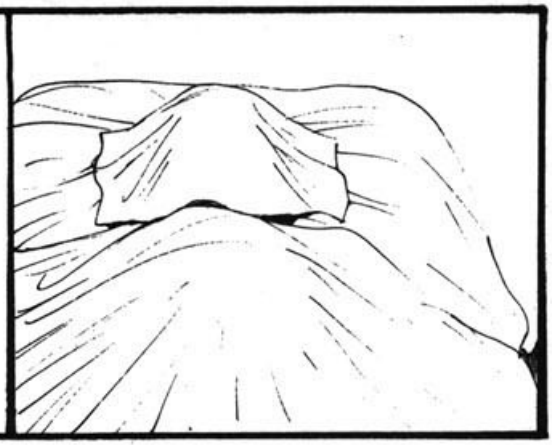
奇形を恥じて
家出した友達だから
極秘に手術してほしい

？

という
ポーリーンの説明を
鵜呑みにして
クララをイース貴族と
信じていたから

彼は
横に立っていた
外科道具を満載した
※移動架（ウォーキング・ホルダー）に向い
皮膚鑞（スキン・ナイロン）を
出すように命じた

患者は
顔をハンカチで
覆ったまま
眠り続けていた

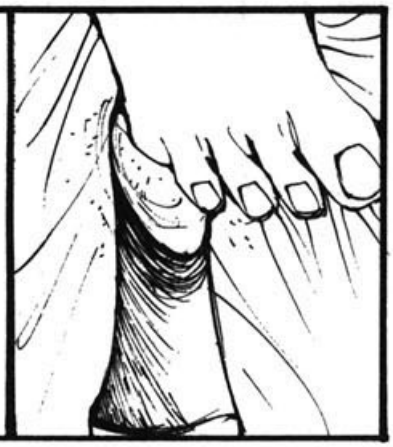


さっき来たときも
そうだったし
手術前に超笑気ガスで
麻酔し直したときも

ポーリーンが
自分でガスを吸入させ
彼には患者の顔を
見ることを
許さなかったのだ

今も後方で
彼女が監視するように
彼の作業ぶりを
見守っているのを
彼は全身で感じていた

左右の小趾の
爪を剝がし
皮膚に埋まった
爪根を切除し



ついでに
小趾の大きさも
人並みに削ってから
皮膚鑢を使うと

手術の痕跡(こんせき)も
わからない

クララの足は
生れながらの
四趾爪としか見えぬほどに
整形された

終りました

鏝(アイロン)を移動架の手に
渡しながら
アレマンは
ポーリーンに報告し

改めて
自分の手術した
美女の足先に
見入った

この足先の
筋肉には
今まで自分の知っていた
どんな貴婦人(レディ)にも
見られなかった

――
何という
変った美しさ
だろう

異様な野性が秘められている

この天下一品（ユニーク）の足の持主はいったい……

秘密厳守はいうまでもないけどカルロス

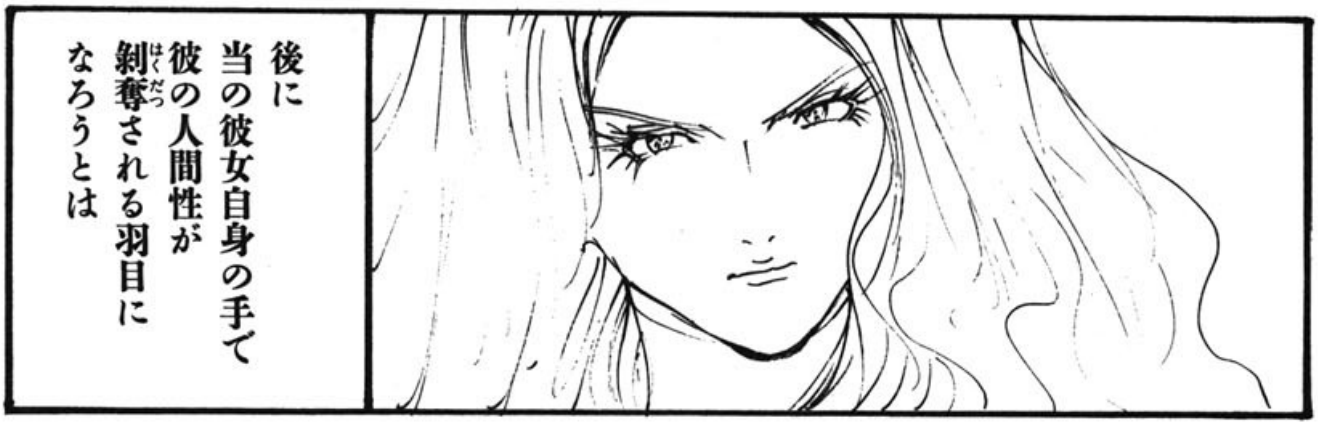
ポーリーンの声はきびしかった

お前さん自身も無用な好奇心は捨てるんだよ

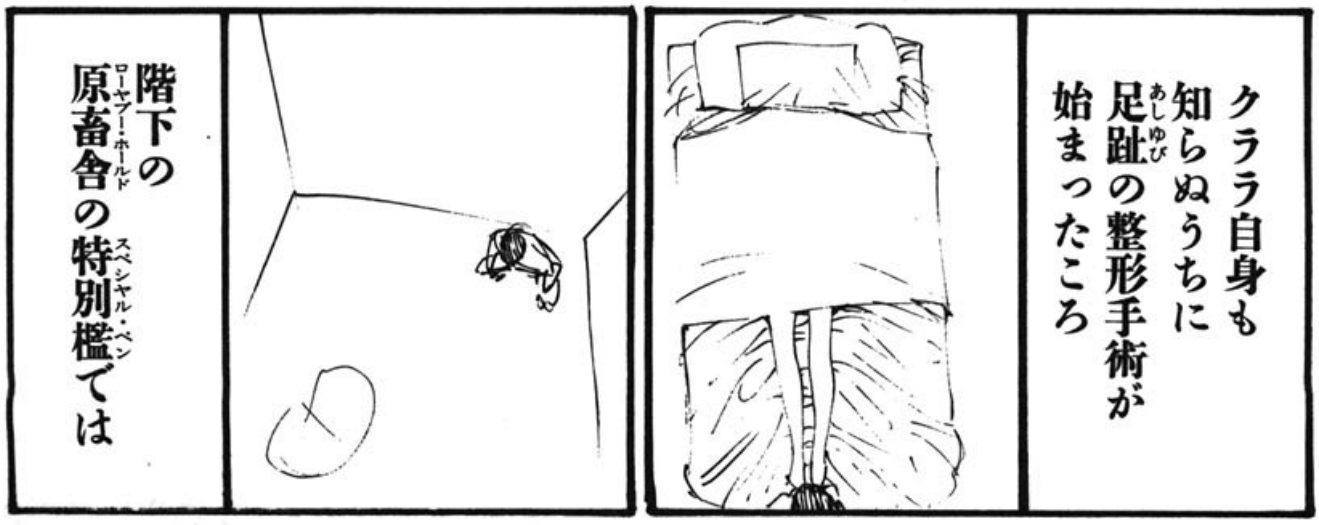
はい畏（かしこ）まりました若奥様

彼はきっぱりと返事した

この怪しい
美女の秘密に
参じたばかりに
イース貴族間の
派閥闘争に
巻き込まれ


後に
当の彼女自身の手で
彼の人間性が
剝奪(はくだつ)される羽目に
なろうとは

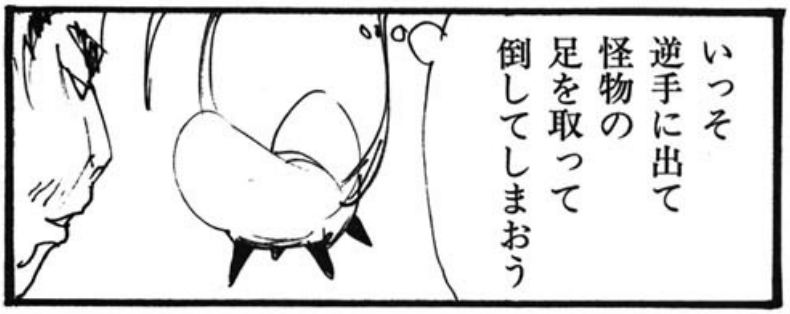
夢にも
知る由が
なかった……


クララ自身も
知らぬうちに
足趾(あしゆび)の整形手術が
始まったころ
階下の
原畜舎(ローヤプー・ホールド)の特別檻(スペシャル・ペン)では

とうとう
麟一郎が
去勢鞍(カスト・サドル)に
捕えられた

さんざん
逃げ回った末
麟一郎は

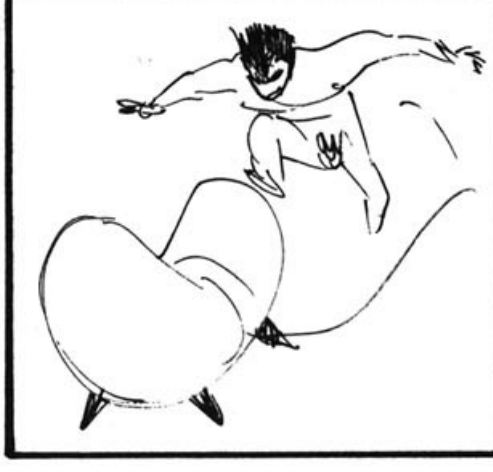
これでは
結局疲れて負ける



いっそ
逆手に出て
怪物の
足を取って
倒してしまおう

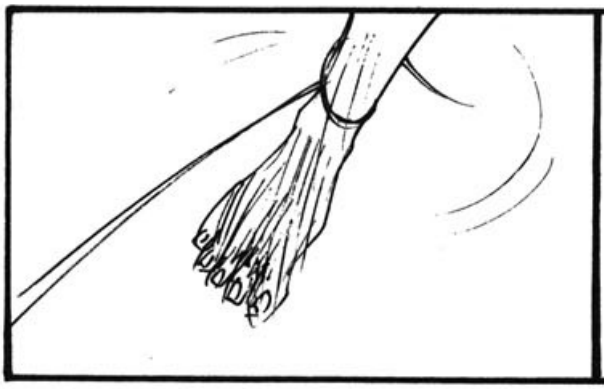
失敗して
殺されたって
どうせ自殺する気(き)の
俺には同じだ

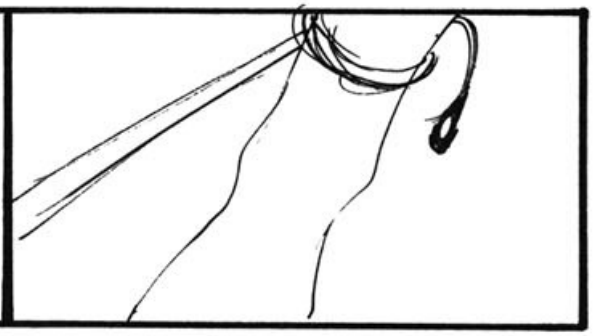
と
猫(ねこ)を咬む窮鼠(きゅうそ)のように
回り込んで後方から
飛びかかっていったのだったが



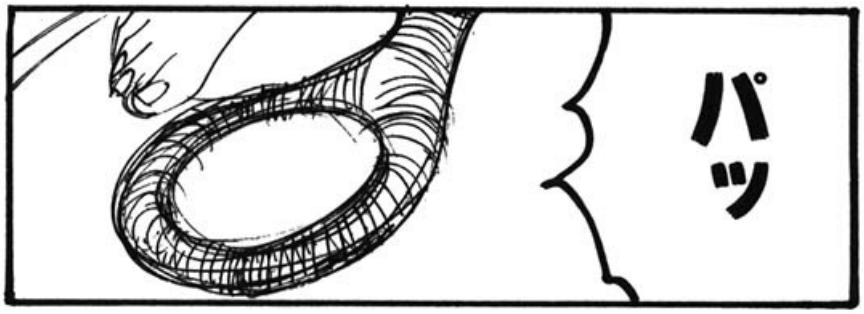
やはりそれが
運の尽きだった

触手が
片足に巻きついた
と思うと



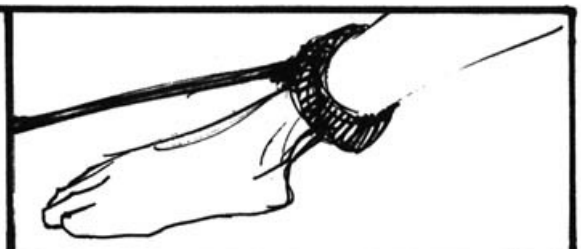


その先端が



パッ

と
環状に膨張し
足首を通すと
たちまち締まる



触手は

グーッ

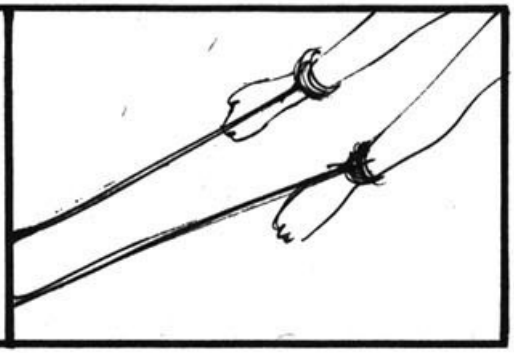
と
締まり

金属ゴム製孔釦（ホール・ボタン）の
仕掛を知らない彼には
まったく
わけがわからない
うちに

片足を取られて
彼はすぐ
引き倒された

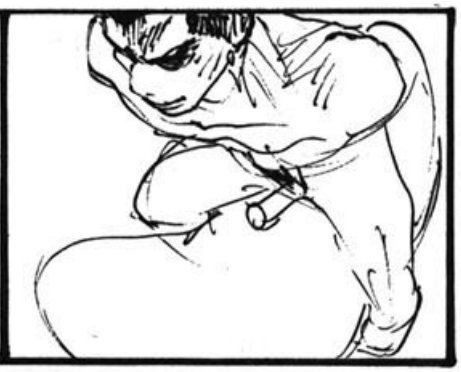
直ちに
もう一方の足首にも
輪が掛って締まった

この触手は
上半身は
問題にせず



両足首だけをねらう
鎖触手（スラップ・テンタクル）という
名を持つ奴であった

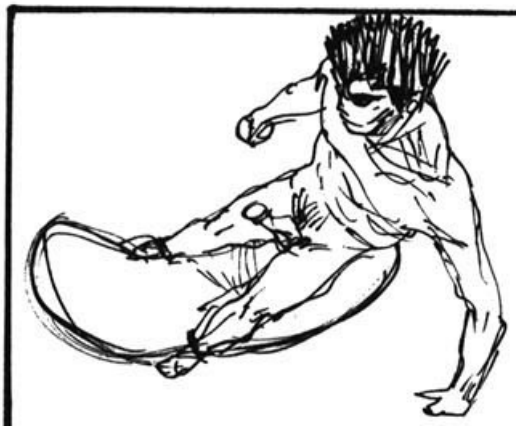
怪物が
四脚を縮めて
台部が低くなった
上方に
麟一郎は
両足を開いて
立ち跨った——



いや
跨らせられた

自由な上半身を
どう動かしても
両腕で触手を叩いても
まったく無益で

触手は
捕捉した彼の両足を
思いどおりの位置に
持って行き

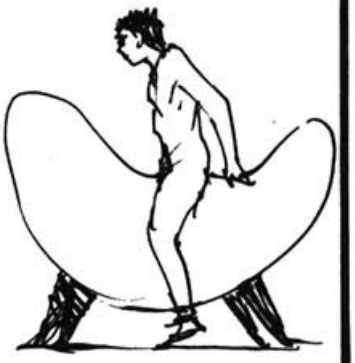


彼は
否応なしにその姿勢を
取らされてしまったのだ

いきなり
台が下から
飛びついて来た

——と
思った
ときには
もう
跨らせられて
いた

台は柔軟で
中ほどで深く凹みだし
左右にも反りを作り
極端な鞍形に
変形している



両足首が
鎹触手で下方に
引かれているために

内腿(うちもも)で
ぴたりと鞍を
挟(はさ)みつける
だけでなく

常の
乗馬鞍
――

麟一郎自身も
半日前には
これに跨って
タウヌス山に登って
きたのだが

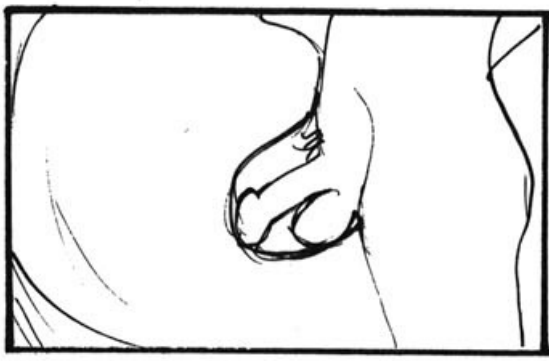
――
よりも
座(シート)の前後の
曲線の反(そ)りが
急なので

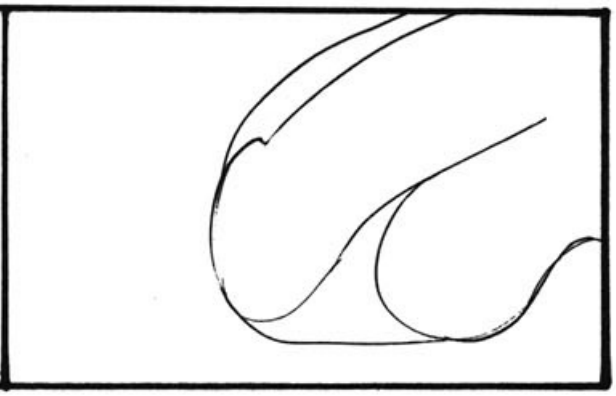
前は
臍下(へそした)二寸くらいから
後ろは
腰椎(ようつい)下部までを
結ぶ部分が

鞍に前後から挟まれて
密着してしまっている

しかも奇妙なことに
前陰部には
何の圧迫もない
――

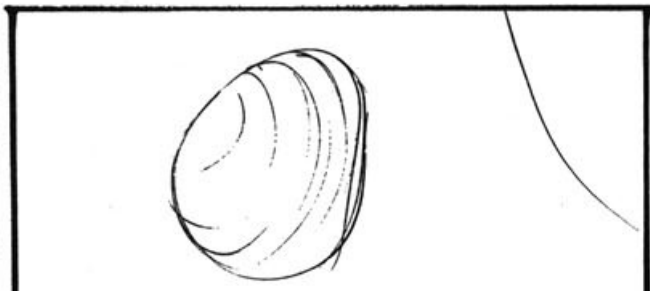
そのはずだ
鞍座（シート）の前部中央線上
ちょうど前陰部の
当る部位にぽかりと
適当な大きさの
穴があいて





袋も筒も
そこに収まって
いるのだ

それが去勢鞍の
口だった



中に
何か液体が
入っているらしく
彼は筒が
濡（ぬ）れひたって
いるのを感じた

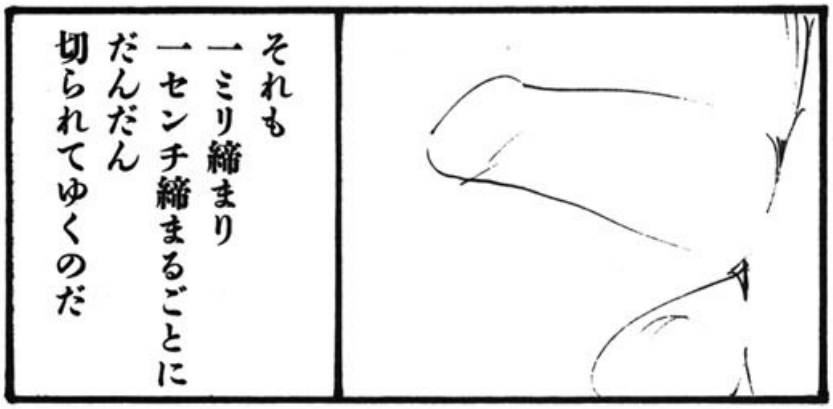
この怪物の正体を
知らない麟一郎は
無理矢理妙な姿勢を
取らされただけで

予期していたような
死の苦痛が
襲わないのに
ちょっと拍子抜けの
気がしたが

それは
時間にすれば
ほんのわずかな
ものだった

間もなく
その穴の
細い縁が
締まり始めた

袋も筒も
付根から
切断される



それも
一ミリ締まり
一センチ締まるごとに
だんだん
切られてゆくのだ

もちろん
麻酔はない

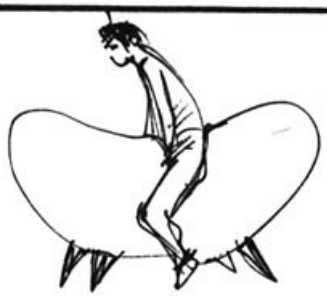
鱗一郎は
吼え猛って
両手で髪を
かきむしり

胸を叩いて
苦痛と格闘した

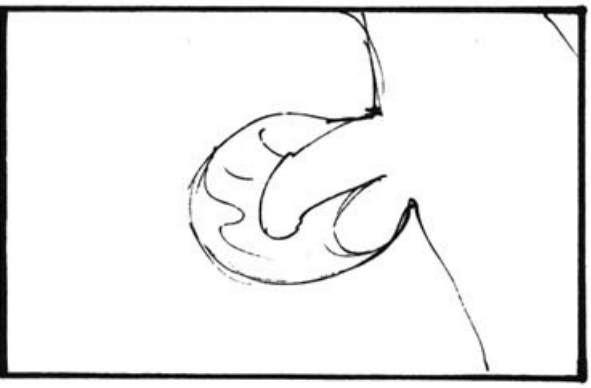
……
またもや
大拷問であった

去勢鞍の
行う作業が
どんなものか
説明しよう

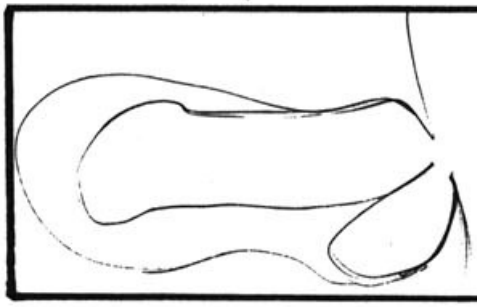
鞍に乗せた
ヤプーの前陰部を
口にくわえて調べ



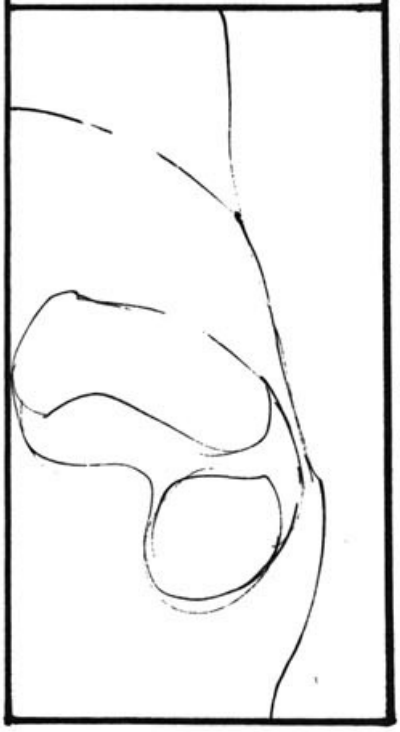
もしペニスの長さが
足りなければ
造肉刺激剤にひたして
充分な長さにする



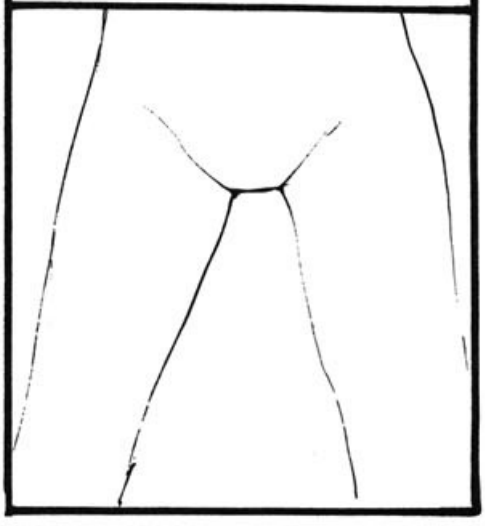
その上で
袋と筒を
根元から咬み切る



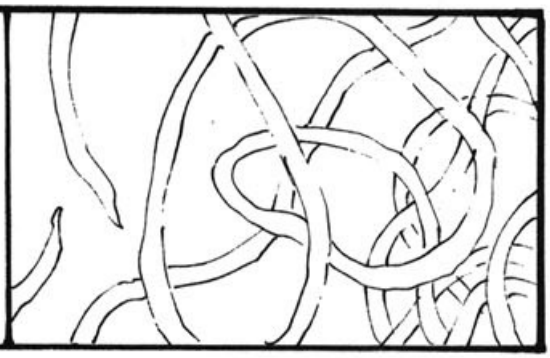
皮膚鏝（スキン・アイロン）で
プレスし



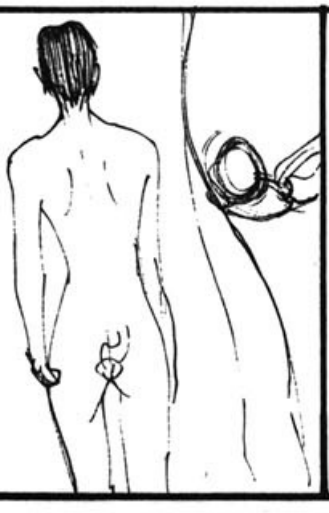
表面を
毛一筋
小穴一つない
滑らかさに
仕上げてしまう



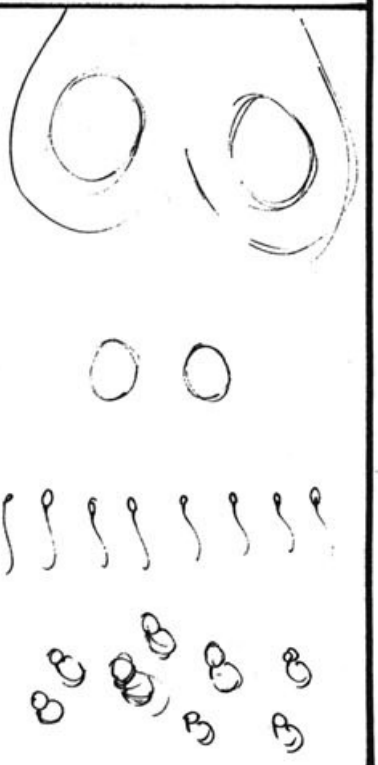
尿道は
塞がる事になるが
すでにエンジン虫が
体内にいれば



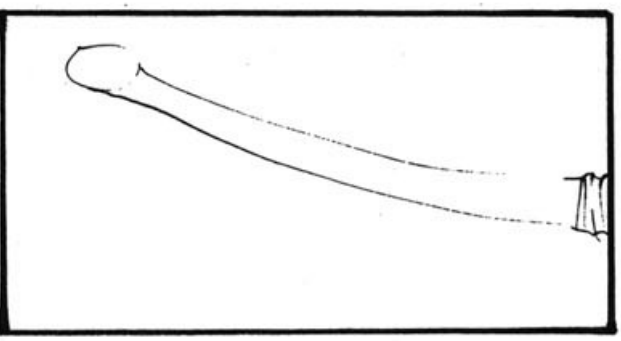
その体液分泌の効果で
水分が直腸部に
滲出してくるように
組織が変ってくるから
そのほうの心配は
いらないのだ



切除した
袋の中の玉は
精虫金庫(シメン・バンク)に
畜籍登録番号を付けて
半永久的に保存され
子孫の作出に利用される

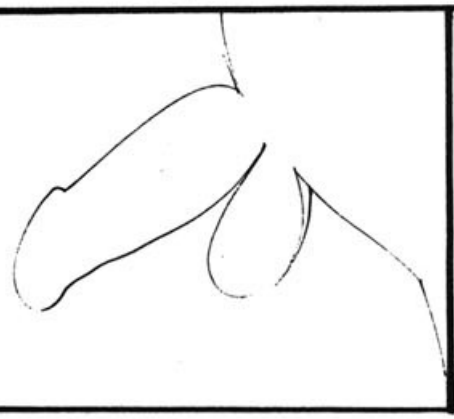


さて
ペニスであるが
なぜわざわざ
一定の長さにまで
したりするかというと

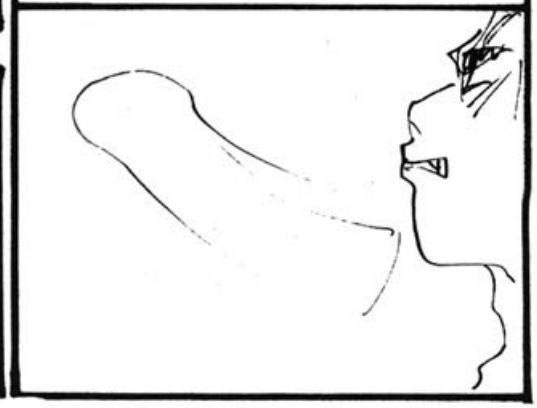


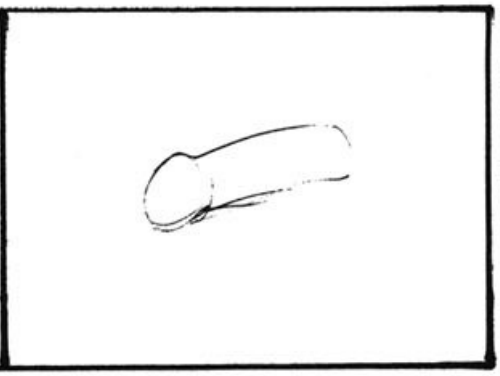
これから
鞭(むち)を作るため
なのである

切断のとき
急に切り落さず
徐々に切り離して
いくと

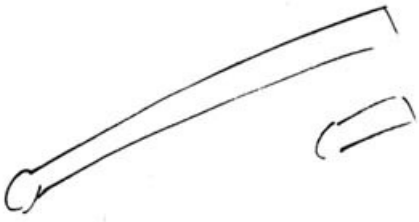


その苦悶(くもん)によって
苦痛素ドロロゲンが
体中に回り
海綿体の組織が
変化しやすくなり



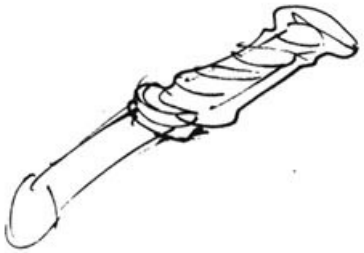


直ちに
増長液に入れて
処理すると



鞭海綿体(ウィップ・スポンジボディ)といって
伸縮率五倍の
きわめて能率の
高いものに変る

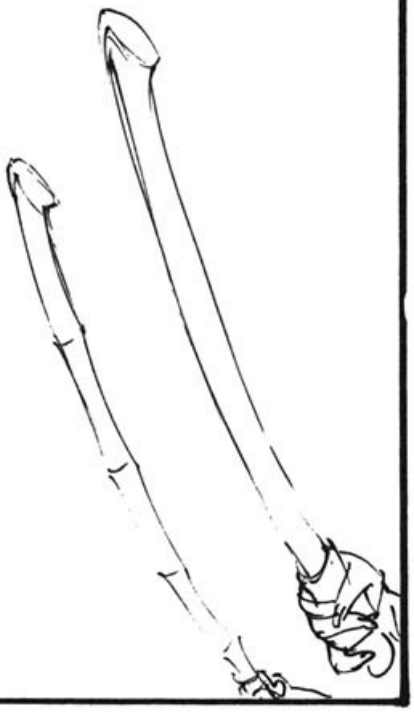
同時に
筒自体も
外革を伸延する
処置をしておく



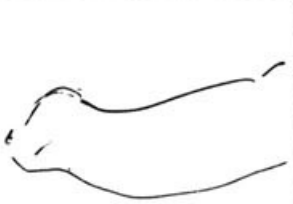
これを生体接着糊(せっちゃくのり)で
一定量の人口血液を含む
握り柄に接続する

そうすると
柄の握り方次第で
平生ポケットの中では
二十センチぐらいの
革バンド状の
皺(しわ)だらけの
柔軟な物体に
過ぎないものが

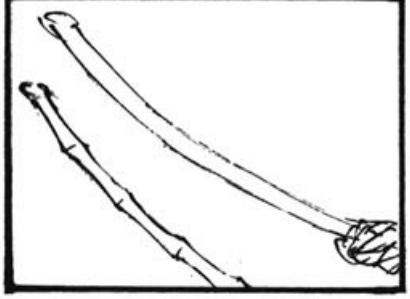
瞬時にして
ピンと細く伸びて
強く撓(しな)う
一メートルの竹策(むち)状の
物体に変化するのである



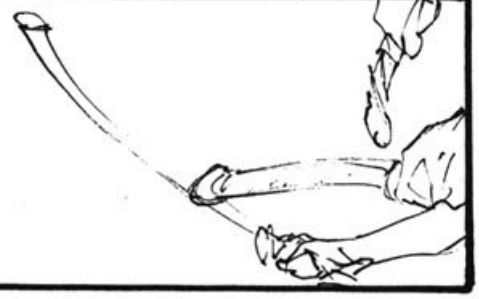
同じ
penis-whip
でも
シャムポクなどより
はるかに精巧なもので



伸縮自在な点から
如意鞭ともいわれるが
普通には※珍棒(チンポー)
と称(よ)ばれる



珍棒が
原ヤプー訓練の鞭として
どれほど性能を持つかは
後章で明らかに
なるだろう



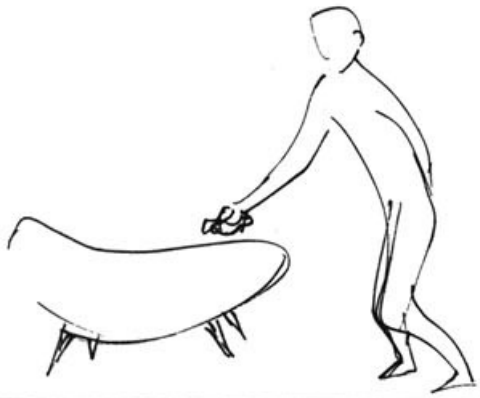
※ チンポが家畜語でペニス自体の意となっているのは遡時転訛である

人工動物（アーティフィシャル・アニマル）
「去勢鞍」は
単に袋や筒の切断
だけでなく

鞍の内部で
玉や筒を複製したり
処理したりすることも
その本能の一部に
しているのである

精虫金庫に
送る玉を
外で受け取ったり

その柄を
取り付けて
珍棒を仕上げたり
することは
この生きた鞍が
するのだ



鞭の握り柄（ヒルト）を
渡してやったりする人は
別にいなければ
ならないが

苦悶の一刻（ひととき）が終って
鞍上から解放された
麟一郎は

突起物はおろか
毛一筋ない前陰部を撫（な）でつつ
屈辱感に耐えられずにいた

俺はとうとう
去勢されて
しまった
——

ふたたび
クララの寝室を
のぞいてみよう

まだ麻酔から覚めぬ
彼女の枕元では
一台の念波式言語学習機が
回転していた

……
次は褒貶詞です

ヨシ
ダメ
モチョット
の三語を知れば
充分でしょう

続いて命令詞
これはいろいろ
ありますが
まず九方向詞から
覚えて下さい

マエヘ
アトヘ

ミギヘ
ヒダリヘ
ウエヘ
シタヘ

ソトヘ
ナカヘ
マワッテ

いいですね
今度は禁止詞

これは
イケナイ
ダメ
コラ……

ポーリーンの命令で
さっきA3号が
そっと置いていった
畜語音盤(ヤブーン・レコード)であった

思想波(ソート・ウエイブ)に乗って
最も能率的に
教え込まれていく

眠っている
クララの心の中で
ただここだけが
目覚(めざ)めている
下意識

その座である
大脳皮質内の
言語中枢に対して
印欧語族の
白人向きの文法で
分析解説された
家畜語が

明日(あす)の朝
クララは麟一郎と話すのに
ドイツ語を使う
必要はもうないだろう

特別檻(スペシャル・ペン)の
中では
麟一郎が
舌を噛(か)んで
自殺を図った

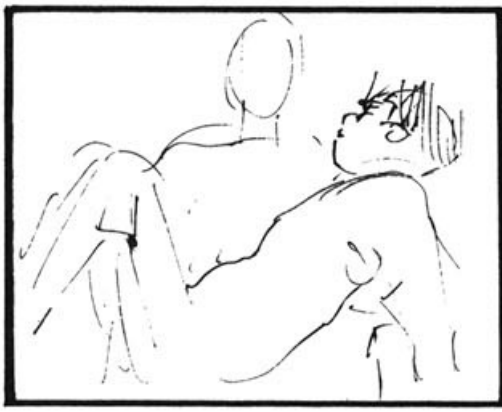
去勢されて生きる
屈辱に耐えかねたのか

クララを失って
生きる希望を
喪失したのか……

しだいに
遠くなってゆく
意識の隅(すみ)で

彼は
扉(ドア)が開いて
何人かの人が
はいって来たこと

自分が
抱き上げられた
ことを感じた



やれやれ
危うく死なれる
ところだった

二度とこんなことに
ないように
※生体能原液
を一本注射しておこう
……

※これはネアンデルタールから
採集した精気エキスである

セシルの声らしい……

と
思いながら
彼は意識を失った

瀬部麟一郎にとっての

イース世界の
第一夜は
こうして
更(ふ)けていった

YAPOO,THE HUMAN CATTLE 8 END

ミックス化!!
作画 江川達也 原作 沼正三
発行・幻冬舎コミックス 発売・幻冬舎
BIRZ COMICS
OO, THE HUMAN CATTLE
gawa Tatsuya × Numa Shozo
家畜人ヤプー
かちくじん
YAPOO
◉①693円（本体価格660円）②～⑥620円（本体価格590円）
(一)～(八)
絶賛発売中

衝撃のコ

西暦196X年、将来を誓い合った恋人同士であるドイツ人・クララと日本人・麟一郎。

二人が乗馬を楽しんでいたそんなある日、

突如見た事もない飛行物体が目の前に墜落する。

それに乗っていたのは、完璧な美貌を持つ白人女性・ポーリーン。

彼女は日本人が生体手術により、生体家具、肉便器などあらゆる「物」に加工され、

宇宙帝国イースを支える家畜「ヤプー」として生きる

二千年後の未来世界からタイムドライブしてきたのだった。

船内で気を失ったポーリーンを助けてしまったクララと麟一郎。

恋人同士の輝く未来は、この時を境にあらぬ方向へと流れ出す……！

異才・沼正三が放った戦後最大のタブーに鬼才・江川達也が挑む!!

◇幻冬舎コミックスHP▶ http://www.gentosha-comics.net

ーテイメント!!

毎月30日発売

幻冬舎コミックスホームページ http://www.gentosha-comics.net

※一部地域は発売日が変わります

加速するエンタ

月刊コミックバーズ

490円(本体価格467円)　発行・幻冬舎コミックス　発売・幻冬舎

バーズコミックス
家畜人ヤプー⑧

2006年12月24日　第1刷発行

著者
江川達也（えがわたつや）
沼正三（ぬましょうぞう）
発行人
伊藤嘉彦
発行元
株式会社 幻冬舎コミックス
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-9-7
電話　03(5411)6431(編集)
発売元
株式会社 幻冬舎
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-9-7
電話　03(5411)6222(営業)
振替00120-8-767643
印刷・製本所
大日本印刷株式会社

検印廃止
万一、落丁乱丁のある場合は送料当社負担でお取替致します。幻冬舎宛にお送り下さい。本書の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。
定価はカバーに表示してあります。

©Egawa Tatsuya, Numa Shozo, GENTOSHA COMICS 2006
ISBN4-344-80782-0　C9979　Printed in Japan

幻冬舎コミックスホームページ　http://www.gentosha-comics.net
本作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには関係ありません。